大正六年九月十四日第三種郵便物認可・昭和十五年十一月廿五日印刷納本・昭和十五年十二月一日發行・毎月一回一日發行

昭和十五年十二月一日　第廿三輯第十二號

建築と社會

建築と厚生特輯號

都市と厚生施設……田村剛
大阪市の煤煙防止運動……下田吉人
大阪市の厚生施設……竹内政治
工場厚生施設と厚生運動……大塚好
國民住居の提案……旗哖平
都市建築群體の疎開……宮田秀穂

法制委員會・昭和15年度報告・設備委員會・昭和15年度報告
文獻・大阪府下に於ける人口増加調べ・繁廻畫・支那の家・
家を賣る・保險と建築　厚生讀物欄・古建築新抄・會報・會告

日本建築協會

㊙ ルーフイング・フエルト公定價格　昭和15年10月15日

種別＼要項	重量	面積	製造業者販賣價格	卸賣業者販賣價格	小賣業者販賣價格
アスファルトルーヒング	20瓩	21平方米	圓 4.70	圓 5.20	圓 5.70
	25瓩	〃	5.85	6.45	7.10
	30瓩	〃	7.05	7.75	8.50
アスファルトフエルト	10瓩	〃	3.15	3.47	3.80
タールフエルト	10瓩	42平方米	2.85	3.14	3.45

イ、本表價格ハ、ストレートアスファルト又ハコールタールノ浸透量原紙重量ノ80%以上ノモノノ價格トス

ロ、製造業者及卸賣業者販賣價格ハ買主店先渡價格トス
但シ樺太、朝鮮、臺灣、南洋群島、關東洲、滿洲又ハ支那向ノ場合ニ於テハ賣主最寄港船積渡價格トス

ハ、包裝費及荷造賃ハ賣主負擔トス

（砂付便利瓦及特許ギルソイド共從來通り）

三星印

三星印砂付便利瓦・三星印ルーフイング及フエルト
專賣特許ギルソイド防水工事責任施工（陸屋根地下室）
アスファルト應用各種加工品・床舖工事三星サイドリユーム
耐火・耐熱・防音・保溫・ —石綿代用品— 三星岩綿各製品

大阪田島應用化工株式會社

營業所　大阪市北區中之島五丁目三〇　電話土佐堀 1323 5682 6221 7294

田島應用化工株式會社　日本岩綿工業株式會社　日本木材化學工業株式會社
三星產業株式會社　三星セメント工業株式會社　合資會社宮城アスファルト研究所

重要都市ニ於ケル建築物ノ防火方策急施ニ關スル建議ノ件

標記ノ件ニ關シ內閣總理、陸軍、海軍、內務、商工、大藏ノ各大臣及企畫院總裁宛會長名ヲ以テ建議、尙其ノ寫ヲ東部、中部兩軍司令官、六大都市所在地府縣知事及六大都市市長ニ送付シ、其ノ緊急性ヲ申達セリ

重要都市ニ於ケル建築物ノ防火方策急施ニ關スル建議

刻下ノ急迫セル國際情勢ニ鑑ミ、防空上ノ見地ヨリ我國重要都市ニ於ケル建築物ノ防火方策就中左記事項ハ焦眉ノ急務ナリト確信ス、依ツテ速ニ之ガ實施ニ關スル方途ヲ講ゼラレンコトヲ切望ス

右建議候也

記

1、重要都市ニ於ケル既存木造家屋ノ防火改修事業ハ都市重要部ノ全般ニ亘リ急速ニ之ヲ完成セシムルノ必要アルモ尙特ニ防火地區內ニ於テハ木造建築物ヲ撤去又ハ改築セシメ諸統制法令ノ取扱ニ特例ヲ設ケ所要物資ヲ優先的ニ配給シ、以テ積極的ニ建築物ノ耐火構造化ヲ促進スルコト

以　上

昭和十五年十月一日

社團法人　日本建築協會々長　工學博士

片　岡　安

東部、中部兩軍司令官、六大都市所在地府縣知事及六大都市市長宛

肅啓　愈御淸穆奉賀上候陳者現下ノ非常時局ニ鑑ミ我國重要都市ノ防火方策、就中防火地區內ノ建築物ノ耐火構造化ノ急施ニ付キ此度內閣總理、陸軍、海軍、內務、商工、大藏ノ各大臣並ニ企畫院總裁ニ對シ別紙ノ通リ建議書提出仕候ニ就テハ一日モ速ニ右目的達成ノ爲メ何分ノ御高配相煩シ度此段御依賴申上候

敬　具

昭和十五年十月五日

社團法人　日本建築協會々長　工學博士

片　岡　安

會　　告

本月拾五日限リ集金郵便の取扱ひが暫く停止される事となりましたので將來會費其の他集金郵便で御請求申上げる事が不可能となりました。

就きましては今後は、誠に御面倒御手數ですが、振替**大阪三九九七五番**御利用の上、適宜御拂込み下さいます樣御願ひ致します。現在迄の御拂込狀態に付いては追て御知らせ致しますが、取敢ず右御案內迄申し上げます。

昭和拾五年拾一月廿日

社團法人　日本建築協會主計

日本建築協會發行

昭和15年8月發行
菊裁判・600餘頁

建築關係法規抄纂（大阪府）

その他時局建築關係法規の殆ど全部を掲載す

☆ **定價・金貳圓貳拾錢**・送料拾貳錢 ☆

但協會員一冊ニ限リ　特價　金　貳　圓

日本建築協會

大阪市北區朝日ビル4階
振替口座大阪39975

賣捌　丸善本支店
柳々堂書店

建築と社會

第23輯　第12號　　昭和15年12月發行

十二月號

目　　次

卷頭言……

都市と厚生施設……田村剛（1）

大阪市の煤煙防止運動……下田吉人（3）

工場厚生施設と厚生運動……大塚好（7）

大阪市の厚生施設……竹内政治（12）

名古屋市の2つの厚生施設……疋田武二（20）

都市建築群體の疎開……宮田秀穗（21）

「國民住居」の提案……旗唉平（23）

重要都市ニ於ケル建築物ノ防火方策急施ニ關スル建議文……（色紙ノ表）

法制委員會昭和15年度報告……（44）

設備委員會昭和15年度報告……（45）

排水裝置築造內規……（46）

リノリユームの耐燒夷彈性……（51）

★文　　獻★

大阪府下に於ける人口增加調べ……{橫見幹二 川勝健}（32）

★紫　烟　室★

支那の家……富田清（40）

家を賣る……津田鑿（40）

保險と建築……中筋廉芳（42）

★古建築新妙★

北國の古建築……藤原義一

★厚生建築欄★

瀧の池山の家・大阪市實業學校道場・瀧の池青年宿泊所（南海電鐵）：大山・山の家（大鐵）：六甲山・青少年道場（阪神電鐵）：岩湧山・山の家（南海電鐵）：比良山の家（京阪電鐵）：店員道場・北郊外保育所・兒童敎育相撲所（大阪市）：今出川幼稚園（京都）：黃金地托兒所（大阪市）

會　　報……（47）

卷頭言

國家の繁榮、民族の發展は人的資源の確保に俟つものが誠に多い。今や吾國は東亞の盟主として、八紘一宇の大理想を翳し、新秩序の建設に邁進を續けてゐる。この一大聖業の完遂には、各人が鋼の如き强靱なる肉體と、巖の如き不動の精神を持つ事が必要である。厚生運動が戰時下、多事多端の中に聲を大にして叫ばれるのは、全くこの理由からに外ならぬ。

厚生施設の建物にあつては勿論の事、そうでないものでも、建築物が國民保健の上に演する役割は極めて大である。

今試に住宅建築を取り上げて見やう。「住宅は吾人が社會に活動する安息所でありまた子孫教養の大任を全うする道場である」と故武田博士は述べてゐる。即ち住宅は厚生の本據であり子孫繁榮の本源である。飜つて現存の住宅建築を見る時、果してその何割がこの様な大事な目的を果してゐる事であらうか。否、大多數の住家、特に都市住宅は寧ろ知らず知らずの間に反つて貴い人間を直接消耗へと導いてゐると云つても過言でない。斯る事は單に住宅建築に限らず、工場に、集會所に、訓練所に、凡ゆる建物について同樣な事が考へられるのである。厚生施設が如何に多く施され、その運用が如何に完全に行はれてもその數と範圍には自ら或る限度があるものであつてこれのみによつて、その目的は達せらる可きものではなく、諸般の建物をその方向に向はしめる事と相俟つて始めて完全なる厚生目的が達成せられ、人的資源は確保されるのである。

斯く觀じ來る時、我々建築家の責務は更に一層重且大を加へるのである。衛生的な、安全な而も情操味豐かな住宅を、工場を、學校を建設する事は、取りも直さず人の力を、人の心を最高度に培ふ所以であつて、斯る事は全く造物者の創意に適つた、而も我々建築家に課せられた最高の貴い天職である。

厚生運動を通じて人的資源の確保が叫ばれる今日、我等も亦一介の技術者として各の職分を全うし、以て一大偉業の完成に最大の努力を致すことこそ新體制の理念でなければならぬ。

都市と厚生施設

田村剛※

厚生は勞働の後に來るべきもので、勞働と厚生とは人類の生活のリズムである。勞働と厚生とは互に相關關係を有するので、健全なる厚生を與へやうとするには、勞働を健全な狀態にしなければならぬ、例へば機械的なそして過激な勞働のあとには、やゝもすれば酒とか女とかといつたやうな不健全な厚生が續き易い。又近代的商工都市の如き不健全な環境に於て生活するものに對しては、眞に健全なる厚生を望むことは不可能であるといふことが出來るかも知れない。從つて單に厚生問題だけをとり出して、健全なものに導かうとしても、それは仲々に困難である。先づ都市そのものの環境を健全な働き場所に改造することが先決問題である。都市の職場そのものの改善は更に一層有効であり、又居住の場所に就いても同時に檢討せられなくてはならぬ。都市、職場、住宅等の空氣、採光、通風、音響、色彩等を健康的な慰安的なものにして、愉快に勞働し休養出來るような環境とすること、例へば都市を疎開せしめ綠化するようなことは、都市の厚生問題に關しては根本的な條件といふことが出來る。尙ほ又都市の厚生施設はこれを利用し易くするために、各施設の種類につき合理的な配分計畫に基いて設置することが必要とせられるのであるが、その配置の密度は交通機關により著るしく左右せられるのは當然である。從つて例へば路面交通機關によるのでなく地下鐵の如き高速度のものがこれに代はるやうな場合には、利用率も高まり、その厚生施設の規模は大きなものになるけれども、箇處數は少くてよいことになり、結局は綜合的なデパート式の施設に發展するといつたように、施設の經營にまで影響するようになる。かうした所にも都市厚生施設の特異點が發見せられるのである。即ち都市の厚生施設は、一般交通機關によつても影響せられるので、かうした事情をも考慮に入れて、厚生施設の計畫をたてなくてはならぬことになる。

さて都市の厚生施設は各市民の家庭で行はれるものはここでは觸れないこととして、大別すれば公共團體として施設するもの、各職場毎に施設するもの、青年團、處女會其他特殊な運動娯樂を中心とするクラブ等で施設するもの、劇場、映畫館遊園地等の如く營利を目的として施設するもの等とすることが出來る。この中で、最後のものは今日では仲々に利用者が多くて、都市の厚生施設としては頗る重要なものとなつてゐるが、將來は或はこれを公營とするような傾向が强くなつて行かも知れない。

現に獨伊等では國家の有方な厚生團體の手でこれを經營する傾向となつてゐる。少くも公共團體と其他の各種團體の經營する公共的厚生施設は、本邦に於ても、漸次その範圍を擴張しつつあるのである。而してこのことは、特に都市の厚生施設に就いては、實行が容易であるといふことが言はれる。

次に都市の厚生施設は今日でもその種類は頗る多く、特に新規のものを移入する必要はないようであるが、然しその利用狀況が果して健全なものになつてゐるかどうかに就いては、十分檢討を要するものがあるやうである。それは先にも述べたやうに都市の環境が不健全であり勞働そのものが好ましい狀態にないのにも起因してゐるが、最も重大なる缺陷は、都市の厚生施設が不完全な狀態にあるからである。例へば戶外殊に野外の運動慰樂の施設に乏しいこと、男性大人本位のものが主となつてゐて、子供婦人に對する施設が閑却せられてゐること、集團的厚生施設が十分發達してゐない事等數へあげて行けば、際限がない位であるけれども、都市厚生施設の中で如何なる種類のものに重點を置くべきかは、愼重なる研究を要する問題である。時局は都市と市民生活の現狀を詳細に調査して、實地に根したる根據のある對策が確立せられるやうでなくてはならぬ。市民に就いては、職業別、性別、年齡別、居住地域別等により又季節別、時間別に應じて、凡ゆる健全なる厚生

※ 筆者は內務省衞生局技師

が享受出來るやうに、必要にして十分なる數量の厚生施設を配置しなければならぬのである。それは合理的に割り出されるべき筈のものである。例へば營利を目的として設置せられる映畫館のやうなものに就いては、經營者側に於ては大略一映畫館の誘致距離といつたやうなものとか或は人口對映畫館の數とが大體極つてゐるのではないかと思ふ。假に人口10萬の都市に對して常設館4箇處といふ數字が出るとすれば、それは一つの標準であつて、今若し人口密度を1陌當り50人とすれば、10萬の都市が占める標準面積は2.000陌となり、一映畫館の誘致距離は1乃至1.5粁といつたやうな數字となるわけであつて、それは偶然にもこれまで各國で唱へられてゐる近隣運動場、それは面積400陌程度とすれば誘致距離は1.5粁位となるといふのであるが恰度この青少年用の近隣運動場と一致するのである。又水泳池（25米程度のもの）の設定標準も大體同じものと考へてよいやうである。かくしてこゝに常設映畫館、近隣運動場、プールといつたやうなものに關して合理的な根據のある配分の標準といつたやうなものが出て來ることになる。かうした標準は凡て人口密度と利用者層と利用時間と、厚生施設の收容力とから割り出される筈であるから、凡ゆる施設に關して大體の標準を想定して、その配分計畫を樹て、これが實現に努むべきである。もとよりプールのやうなものは、學校とか工場とか其他特殊な團體により設置せられるものもあり、又河川や海岸等の自然の水面を利用し得る場合もあつて、その必要量の算出なり、配置に關しては實地に即して修正するを要するは勿論である。尙ほ最後に都市の厚生施設として最も緊要なる種類の一つは自然厚生施設であつて、强歩、登山、野營、船遊、釣魚、水泳湯治、スケート、スキー等の如きの自然厚生は、都會生活の始まらなかつた時代には自由に享有することが出來たものであるが、都會といふ物質的な廣大な地域が設定せられて、これに密集生活や餘儀なくせらる市民にとつて、最も缺くる所のものはかうした自然的厚生である。而してこれ等のために必要なる林野山岳、湖海等は多く都會の行政區域外にあるので、都市の施設としては望むことが困難な場合も少くないのである。そしてそれは國とか府縣とかの自然公園や國有林や公有林や公有水面やで補はれる場合も多いのであるが、特定の都市がこれを占用する譯には行かぬので、都市としては必要に應じて行政區域外に於ても適地を物色して、かうした自然厚生施設の實現に努める責任があると思はれる。先年東京市が府下大島に設置した動物園並に附屬の野外厚生施設や近く富士山麓山中湖畔に設置しやうとしてゐる市民宿舍並に厚生施設の如きは、その適例であるといつてよい。

日本建築協會發行　昭和15年8月發行
菊裁判・600餘頁

建築關係法規抄纂（大阪府）

その他時局建築關係法規の殆ど全部を掲載す
☆ **定價・金貳圓貳拾錢**・送料拾貳錢 ☆
但協會員一冊ニ限リ　特價　金　貳　圓

日本建築協會　大阪市北區朝日ビル4階　振替口座大阪39975　賣捌　丸善本支店　柳々堂書店

大阪市の煤煙防止運動

下田吉人※

1. はしがき

自分の住んでゐる環境を、出來るだけ住みよく、居心地よくしたいと云ふのは、凡ての動物の本能である。從つて都會に住む者は、その都會を清潔に、氣持の好いものにしやうとする本能を持つ。この本能あるが故に、都會の健全な發達が期待されるのである。

然し、不徹底な文化生活は、あらゆる他の本能と共に環境淨化の本能をも抑壓する。都市生活の各相が圓滿に發達し得ない現在では、都市は益々汚く、益々住み心地惡くなつて行く。かうして大阪市も保健上、都市美觀上健全なる發達からは遙かに遠い、煙の都、汚水の都と化しつゝある。

この趨勢に抗して、大阪市を清潔に保たうとする努力が、先輩識者によつてついけられて來た。以下述べやうとする煤煙防止運動は、そのうちでも最も長い歷史を持ち、ある程度の成果を擧げたものである。

2. 煤煙防止運動小史

大阪市に於ける煤煙防止運動は凡そこれを次の3期に分けることが出來る。

イ、煤煙防止調査委員會の生れるまで（昭和2年まで）

ロ、煤煙防止規則公布まで（昭和7年まで）

ハ、地域的煤煙防止會の結成と燃燒巡回指導

イ、煤煙防止調査委員會の生れるまで

我大阪に於て、煤煙防止問題の起つたのは、明治16•7年頃で、此頃、會社工場の簇出によつて初めて煙害になやまされた市民の間に、種々の喧ましい議論が起り、爲に府當局も坐視するに忍びず、其取締のために種々の達しが公布された。爾來年と共に產業が發達し工場が市內到る處に出來、煙突の煙が空を掩ふの、狀態が益々甚だしくなつたので、明治35年、時の府會議長山下重威氏が府會の決議として煤煙防止問題に關し知事に建議する事になり之が此問題の與論となつた最初の出來事である。超えて44年には、知事高崎親章氏を會長とする煤塵防止研究會が出來、市內の有力な實業家や、學者を會員として煤煙防止に關する調査研究をし、或は會報によつて、歐米の事情を紹介する等有意義な活動をしたが、數年を出でずして、それが立消となつたのは惜むべきことであつた。しかし煤煙は、年と共に增加して行き、其の被害も相當顯著になつて來たので、大正2年大阪府に於いて、いよいよ煤煙防止令の立案をし、之を煤煙防止研究會並に、商工會議所に諮問したが、異議を唱へるものがあつて、不幸にして成立を見るに至らなかつた。しかし、大阪市は此問題に多大の關心をもち、大正9年に鏑木博士に囑して、歐洲に於ける煤煙防止問題の調査をさせたのを初めとして、11年以降は、大阪市立衛生試驗所に於いて、煤塵被害の研究調査をさせて居る。

煤塵防止の問題はかやうな道程をたどつて、長い年月を經過したが只議論が喧しかつた丈で、之に對應すべき何物も、齎らすことが出來なかつた。此時に當り、此問題に善處すべき、使命を以て生れたのが大阪都市協會の煤煙防止調査委員會である。同會は煤煙防止問題の各方面の研究家の連絡協力の機關、又此問題の調査研究及實行、普及の機關として大阪都市協會內に在り、府市關係者及市內の有力な工業家、燃燒界の權威等19名を委員として居る。昭和2年7月第1回の委員總會を開いて、左記研究調査の5綱目を決定、活動を開始した。

1. 煤煙の被害調査に關する件
2. 無煙燃料の使用並に電化に關する件
3. 完全燃燒に關する件
4. 燃燒方法に關する件
5. 煤塵防止取締に關する件

ロ、煤煙防止規則公布まで

煤塵防止調査委員會も、既に齡10を越えたが、其間委員の撓むことなき努力により、防止運動に

※筆者は大阪市立衛生試驗所長

幾多の貢獻をなした。本年までの重な事業は左の通りである。

昭和3年9月及同6年10月に大阪都市協會主催の下に大阪府、大阪市、大朝、大毎の後援を得て空中淨化運動を起し、展覽會、講演會、ラヂオ放送パンフレツト發行等を行つた。

昭和6年10月の委員會總會では、煤煙防止規則制定方に關し、建議書を決議し、其筋へ提出した。これが大阪府の煤煙防止規則の公布を促進するに重要な意義をもつたことは申すまでもない。かくして煤煙防止規則は昭和7年6月3日を以て、大阪府から公布され、同年10月1日から實施せられることになつた。

然し、この委員會の仕事は取締規則の公布で濟んだわけでなく、其後も引きつゞき活動をつゞけてゐる。即ち、昭和11年9月の、第9回委員會總會では、近年空氣汚染狀況が益々惡化して行くのに鑑み、煤煙防止の徹底を期するため、煤煙被害調査、燃燒方法の研究指導、煤煙取締等に關して、3分科會を設置し特別委員を囑託し、各分擔を定めて調査研究を遂げ、具體策を樹立することにした。

又、昭和12年5月の委員會總會では煤煙防止方法の內、自動投炭機による操業が最も有効適切なりとして、決議により、該機の設置に關して、當局に建議した。

ハ、地域的煤煙防止會の結成と燃燒巡回指導

昭和12年7月市內各警察署管轄區を一單位とする煤煙防止會を、市內30警察署管內に設置する事になつた。各防止會は當該警察署、管內衛生組合、工業家、湯屋業者等を會員として地域別に、煤煙防止に努める。11年8月の天滿煤煙防止會の發會を始めとして、現在21防止會會員數5000を超えて居る。大阪市は各防止會に助成金を交付して、目的の達成に努めて居る。

各防止會の行つた重な仕事は講演會、煤煙防止標語、懸賞募集、會報發行、焚き方研究會、防止設備見學、優良工場浴場の表彰、汽罐士及火夫の表彰、投炭競技會、煤煙防止週間への協力等である。此外、府市警察當局者、煤煙防止會の連絡を保ち、煤煙防止の一層の徹底を圖るために、協議會を第1回昭和11年12月、第2回12年9月に開いて居る。第2回協議會席上に於ては、大阪府の煤煙防止對策が示された。

昭和14年には、大阪市保健部に煤煙防止巡回指導班を常設し、市內各警察署管轄を一單位として設立した煤煙防止會と協力の下に各種工場、浴場に對し、燃燒設備、投炭操作、燃料の加工改善並に作業の統制に就き合理的調査研究と實地指導に當ることになつた。

本事業の從業員は專任技師1名、指導員3名、囑託15名で囑託には、燃料界の權威者及び永年本市の煤煙防止運動に盡力し理論と實地に經驗の深い專門家に依頼して指導班を編成した。

3. 煤煙の被害に關する研究

煤煙が都市の環境を陰鬱にし都市を傷けることは周知の事實であるが、煤煙防止運動を行ふに當つては、煤煙の有害性を科學的に批判し、其の被害狀況を明かにする事が必要である。大阪市立衛生試驗所に於ては大正13年より之に關聯した研究を行つて居る。

其の主な項目は次の通りである。

1. 大阪市大氣中の亞硫酸瓦斯量
2. 有害瓦斯による衣服纖維、金屬の毀損
3. 降下煤塵に關する調査
4. 大阪市內の煙突の噴煙狀況
5. 室內侵入煤塵
6. 煤塵の化學成分
7. 煤煙による衣服材料の汚染
8. 煤煙による植物の被害
9. 空氣中浮遊煤塵數

此の中降下煤塵に就て述べると次の樣である。

煙突から吐き出された煤煙は風の力で遠くへ運ばれ、煙幕は市中の空を隈なく覆ふが、煤煙の大きな粒子は煙突の比較的近所に落ちる。この空氣中から地表面に落ちて來る煤煙塵埃を測ると、その場所の空氣の汚染狀況が分る。大阪市立衛生試驗所では大正11年以降大阪市內の降下煤塵量を測定し、現在では市內28ヶ所に煤煙計を設置して、常に大阪の空氣の汚染狀況を調査してゐる。

現在大阪市全體の1ヶ年の降下煤塵量は、水に溶けない固形物丈でも2萬5千噸、これに水に溶けるものを加へると約5萬噸である。實に1分間25貫(不溶解性固形物12貫)である。石炭不完全燃燒

の結果である眞黒い炭素分丈でも全市では1ケ年、6400瓲に及ぶ。地域別に見ると、木津川、大開町、島屋町、梅田、大和田、津守等が降下煤塵量が多く、島ノ内、柴島、田邊等が少く、工場地は住宅地の4倍もある。

大阪の空氣汚染はロンドン等と比較しても遙かに悪く、住宅地等でも決してよいとはいへぬ。而も近年軍需工業、重工業の飛躍的發展のために空氣は惡化の傾向があるので、煤煙防止は決して忽せに出來ない。

舊市地域58平方粁、新市地域129平方粁、全市187平方粁に1ケ年降下中不溶解性煤塵量の年變化は次の通りである。

昭和	1ケ年降下物量 瓲
3年	18.000
4	22.000
5	18.000
6	16.000
7	12.000
8	13.000
9	20.000
10	16.000
11	20.000
12	24.000
13	22.000
14	23.000

4. 煤煙防止運動の組織と事業

煤煙防止の問題は、これを裏面より見れば燃料の合理的使用の問題であり、燃燒學上の問題である。有煙炭燃燒方法の研究の結果幸に結論として煤煙防止は實際的に可能であることを得た。煤煙を發生する焚き方は非科學的である。

煤煙を防止し、其の徹底を期するには次の4つの方法を實行せねばならぬ。即ち

1. 燃料の加工改善と燃料の選擇
2. 焚火技術の改善
3. 燃燒設備の改善
4. 噴煙取締の勵行

これに對しては、煤煙防止規則の實施と燃燒指導の二方法に依らねばならぬが、現在大阪に於ける其の概況は次の通りである。

イ、煤煙防止規則と其の徹底

內外諸都市の煤煙防止運動の歷史を見るに、單に教育、宣傳によつて世人の道義心に訴へるも其成果を充分期待し得ない。即ち煤煙發生が多分に煙突を持つものの不注意、無關心から來る以上、之に對して法の制裁を加へる手段を採用せねばならぬ。吾國に於ては大阪府が昭和7年6月に規則を公布し、10月より實施してゐる。其の主な條項は煙突より吐出する煙の濃度に制限を加へる點にある。即ちリンゲルマン煤煙濃度計によつて測定した場合、三度以上の黑煙を通算して1時間に付6分以上吐出することを禁止して居る。又京都は昭和8年、兵庫縣は昭和10年に之と殆んど同樣の內容を持つ煤煙防止規則を制定、實施してゐる。

次に其取締規則の實施狀況、を一瞥するに大阪府に於ては煙突よりの噴煙濃度を日夜監視し、規則違犯者に對しては指導を主とし處罰を從として之が取締を行つた結果、工場噴煙狀況に著しい改善を見た。又此の事實は、大阪市に於て行ふ降下煤塵測定成績にも明らかに表はれ、規則制定の昭和7年には降下煤塵量は最低にある。

ロ、燃燒指導

取締に並行して必要な事は指導である。煤煙防止の徹底は、燃料の合理的使用に俟たねばならぬ。これには、石炭を焚く者が、燃料燃燒の智識が貧弱ではいけない。企業家も燃料、燃燒の智識が缺けて居り、火夫を一雜役夫と同一視し、燃料は火室へ投げ込めば獨り燃燒する位に考へて居るのでは、煤煙防止は到底實現出來ぬ。このためには、燃料燃燒の指導が必要である。

昭和4年來大阪府立產業能率研究所燃燒指導部は、燃料燃燒に關する改善指導をやつてゐる。

指導要項

燃料の適否、燃燒設備の改善燃燒方法の合理化標準作業方法の指示、燃料及燃燒管理方法の指導汽罐及爐の能率調查、燃燒設備の設計、燃料の品質檢定、汽罐用水の檢定、煤煙防止の指導。同所では、府下工場從業員の教育と訓練のために、昭和6年以來汽罐士養成講座を開設してゐる。尙大阪府は昭和7年7月全國に率先して汽罐取扱者の資格を制定したので、免許者でなければ汽罐の取扱に從事することが出來なくなつた。昭和10年5月には內務省令の發令によつて、全國的に汽罐取扱者資格が制定された。

昭和6年4月より13年10月に養成された汽罐士は左の通りで、合計5000名を越えてゐる。

1. 大阪府令によるもの

自昭和6年度 〜 至〃 9年度

	講習回數	人員
2級汽罐士	10、	1632名
（內務省令による1級汽罐士）		
汽罐士	21、	2591名
（內務省令による2級汽罐士）		

2. 內務省令によるもの

自昭和12年度 〉
至 〃 13年10月 〉

1級汽罐士	6、	346名
（內務省令によるもの）		
2級汽罐士	7、	758名
（ 〃	）	
合計 1級汽罐士		1978名
2級汽罐士		3349名
計		5327名

大阪府工場課は、煤煙防止の第一線に立つて取締りをしてゐるが、これも規則づくめで企業家や火夫を苦しめるのでなく、實地に就て燃燒方法、燃料の選擇に就て親切な指導を續けてゐる。

大阪市立衛生試驗所は大正11年以來、煤煙の被害、大阪市大氣の汚染狀況の調査研究と共に家庭燃料の使用方法 燃燒器具の改善の研究指導に盡してゐる。又昭和11年より大阪市保健部が助成金を支出して結成された、各警察署管轄區を單位とする各煤煙防止會が、管內の企業家、湯屋業者を集め燃燒の指導、煤煙防止に當つてゐる。

昭和14年より大阪市保健部が燃燒巡回指導を開始してゐる事は先に述べた通りである。

8. 其他の主なる事業

前述の組織によつて常時行ふ事業以外に大阪府、市、大阪都市協會によつて毎年11月に煤煙防止週間を行ひ、昭和3年以來、既に9回を重ねてゐる。其の主な行事は次の通りである。

1. 汽罐祭
2. 煤煙防止優良工場表彰
3. 講演會、映畫會
4. 噴煙濃度調査
5. 工場巡回指導
6. 大阪府下投炭競技會

都市（大阪）と煤煙·汚水·不良住宅

350萬の市民を有する大阪市は 如何なる厚生の道を辿りつゝあるか。明治24年中之島公園が開園されて以來大阪市內の公園はスポーツに散步に運動會に音樂會に厚生生活のあらゆる部門において唯一の市民の休養慰安、情操敎育の道場となつてきた

「公園その他自由空地の多少はその都市の結核死亡數の多少と反比例する」といはれてゐるが現在大阪の公園面積は市營公園61ケ所と府營公園2ケ所を合せて55萬3千坪、大阪市の全面積に對してわづか0.7%しかない、ロンドンの10%、ニユーヨーク、ベルリンの5%に比するとき大阪市公園面積の飛躍的な擴充が厚生、防空兩方面から1日も早く實現せられねばならない、大阪市では昭和14年度から21年度まで8ケ年計畫でさらに全市に85ケ所合計42萬7450坪の公園增設に着手した。住吉區東長居町を中心とする202373坪の長居公園をはじめ1萬坪以上の大公園6、4千坪以上の公園8ケ所千坪以上の小公園71ケ所が綠の衣ひも新たに續々デビユーして煙の都を飾る日も遠くない、これと同時に大阪の中心地本町を中心に半徑10キロから15キロの圓を描きこの圓周上を全部綠地で掩ひ都市美化と市民厚生と防空の3目的を充たす環狀綠地計畫も進められつゝあるがこの方面から見た都市環境整備は一面防空都市建設計畫と楯の表裏をなしてゐるから實現の可能性も大きいわけだ。

市內のある洗濯屋さんに聞くと大阪市では1ケ月3圓80錢の洗濯代がかゝるのに奈良市では僅か1圓29錢ですむといふ話だ、世界有數の煤煙都市大阪市民は無煙都市の奈良市民より1年に30圓12錢だけ多くの洗濯代を每日空からふりかゝる煙のため拂はされてゐる、空を掩ふ煤煙は市民から紫外光線を奪ひ、植物を枯渇させ建物の金屬材料や石材をボロボロに腐蝕させる、大阪市民は1日12.6瓲の煤煙を吸つてゐる、最近は軍需工業の殷盛と石炭の品質低下のため降煤量はますます增加したといふことだ、都市厚生の敵煤煙は官民一致して防止せねばならない、完全燃燒爐の設置給炭方法の改善、噴煙取締の勵行、監視制度の確立など目ざましいまでの活躍を續けてきた大阪都市協會煤煙防止調査委員會や市內各警察署管內の煤煙防止會は厚生大會を機會として無煙都大阪をめざしさらに力强い活動の態勢を整へつゝある。

工場厚生施設と厚生運動

大塚好※

(一)

人間は聰明によつて其の生活を「労少くして効多からしめる」といふ方向に導かれつつある。機械の發明はその一結果だ。人間は各人に屬した全ての經驗と技術がその人の死亡と共に消えて行くことを惜しむの餘り、これを永久に殘して置くことを考へた。それが科學と機械發明である。科學機械共に過去の全ての人々の經驗と技術とをシンボライズしたものである。機械と科學の發明によつて人間は労せずして過去の人の持つてゐた經驗をその儘利用し、過去の人の持つてゐた技術を其の儘生かすことが出來ることになつた。即ち人間は永い年月を要せずして過去に於て大天才のみがよくしたといふ加工を、殆んど全ての人に出來るといふことになつたのである。吾々はこの意味に於て科學と機械の前に如何なる尊敬を捧げても過當ではないに違いない。從つて機械はその事に關する過去に於ける幾多の經驗と多數の人々の聰明とが總動員されてゐるわけであるから、この機械が人間を奴隷化す、機械の番人とするといふことは當然のことであるが、人間はやがてこれを不滿に思ふやうになつた。機械は人間が發明したものであるから、人間がこの機械に使はれるのは本末轉倒であると考へるのも一應は尤であるが、この場合は機械といふものは人間の聰明と過去の經驗のシンボルされたものであるといふことは考への外に置かれてゐる。機械に言はせたらこれは以つて外のことであるが、然しこの機械が人間生活發展の爲の存在物である限り、この機械に依る加工生産作業が、この人間の生活發展を阻害するといふやうなことになつたとすれば、人間の聰明は再び目醒めなければならなくなる。

第二産業革命といふ事實は實に人間の聰明の、人間の横着性の然らしめた機械の奴隷化に對する反省である。曾て人間は神の奴隷となつてゐたことがあつたがルーテルによつてその迷蒙を開いて貰つたと歴史は教へてゐるが、同様のことを機械によつて繰返すことになつたのである。人間の生活發展の爲に發明した筈の機械の爲に、その目的を阻害するといふ現象さへ現はれかけて來たのである。

人間の聰明はこれに對し除に其の訂正の爲に働き出した。その一つが工場に於ける厚生的施設の普及といふことである。勿論この形態は、これを施設せざるを得ないやうな種々の條件によつて促進されるといふことになつて表はされた。

アメリカに於ける工場厚生施設の先驅者と言はれるナショナル・キヤシユ・レヂスター會社の創立者パツターソン氏は常に、労働者の立場に立つて、どうしたならば氣持ちよく働くか、どうされたならば自分の生活を明朗化すやうになるかと言つたやうな道徳的な動機から工場生活の明朗化、人間力の浪費の防止、進んで人間力を維持増進させやうとする氣持ちを起させるやうに周到及訂制を立てこれを工場内は勿論各人の家庭に、其の地方に普及させることに腐心した。

産業に人間の價値を認めさせる、人間能力を出來るだけ効果的に仕事の上に發揮させると言ふやうな形で工場生活に於てこの人間力の害はれる事を防止しようとしたのはテーラー氏である。テーラー氏の生れた時代は米國に於ける工場労働の極めて原始的な膨脹時代で、殆んど工場生活に於ける人間の位置といふものは毛ほども考へられなかつたといふ時代であつた。人間性豊かなテーラー氏が、その人間の聰明を一身に具現して最も巧妙なる方法、即ち人間を重視せよと言ふ言葉を用ひず、事業家の飛びついて來さうな科學的管理法なる言葉を用ひて登場したのは實に時宜を得たものであつた。この主張は兎もすると事業主に悪用され、人間力を高度に搾取するといふ結果になるので、氏は相當非難を受けたものであるが、然し氏がこれを悪用すれば其處には科學的管理法はない

※筆者は川崎重工業株式會社・福利課長

といふことを言つて居た様に、又これを理解すればすぐわかる様に、それは決して労働搾取が目的ではなかつたのである。

フオード・モーター・會社の創立者フオード氏はこの兩者の間を行つたものとでも言はふか。氏は人間は喜んで樂しんで働かなければ能率を擧げることは出來ないものと考へ、第一次歐洲大戰までは徹底的に其の厚生施設に意を注いだものである。然るに作業生活から苦痛となるべき部分、勞働力を浪費する部分を除いたならば、工場生活その儘が疲勞のない生活になるので所謂厚生施設と稱するものは必要ないのではないかと考へる程になつた。さうして最高の賃金を與へる、工場から勞働力を浪費させる一切の事情を除くといふことに努力した。丁度機械の操作に於て一切の科學的條件が完全でなければ、必ず故障が生ずるといふことを人間の働きにも考へたのである。通風、採光保溫、重いものを運ぶこと其の他働く人々の爲うして貰ひ度いと望むあらゆる點に留意して工場の施設を完備させた。「フオード工場に於て働くことは眠つてゐると同しだ」と言つて非難した人があつたが、兎に角人間が其の創意を働かせることの必要のない程行屆いた勞働條件を整備することにしたのである。この結果としてフオード工場に於ては人間を最高のものとして取扱つた結果、人間の最高度の機械化といふことになつてしまつたのである。

勞働の本質から言つてもフオード工場に於けるこの勞働の苦痛的要素を除去するといふことは、人間生活の最高の理想が實現されたといふことになる。從つて其處には工場生活が生む厚生的施設を必要とする理由はなくなるわけである。フオード工場が福利部を解消して社會學部を設置したのはこの事實に對應しての處置であつたが、然し問題は去らなかつた。人間は完全に統制され、其處に何等の創意さへも働かさなくても宜いやうな世界、即ちこれを自由のない世界と稱し、機械化されたものとしこれを人間の創意を殺すものとして反對するものが現れる。

フオード工場に於ては職場で働く人は默つて働くだけ、それは恰も文句を言はずに手は物を持つこと、足は歩く事をすれば宜いと言つた態度をとり、一方社會がしてくれる一切の經驗を整理し、工夫し發明すると言つたやうに、創意を働かせるものは、その創意を働かす仕事を受持つといふやうに、恰もこれは腦は腦として考へることをすると言つた實に工場全體を機能的に組織してしまつたのである。社會の理想はこのやうに社會が完全に組織化されることにあり、實社會は不完全ながら、それが協同社會である限りこの形態をとつて居り、雜然とはしてゐるが其處にあらゆる階級が存在し、默々として働いて居り、さうして死んでゆくのであるが、一工場が夫れと同じ形を整へるに至ると、これに不平を言ふことになる。

(二)

フオード工場の如く完全を期して整備されても人間生活はこの工場生活から解放された厚生的活動を必要とすることは、フオード工場が證明してくれてゐるが、これは結局勞働だけでは人間の生活發展の線に添はないといふことになる。從つてこの生活發展の線に添はせる爲の活動が必要になつて來るわけである。人間生活發展の力は自ら其處に工場生活に追はれる人々に對しては、特に厚生施設の必要といふことを、工場生活者をして自ら考へしめるといふことになる。それは丁度人間に疲勞を感ずる能力を與へて、自然に休息せざるを得ないやうな形をとると全く同じことになる。これが個人の趣味、道德性、理性を通じていろいろな形で一種の社會運動にまで展開して來る。この事實は工場生活に人間力を害ふといふ一面と人間力を維持培養せんとする努力が同時に內在する即ち害はれれば自ら起ち上るといふ力が存在してゐるといふことを現はして居ることになる。

勞働の强化と其の厚生施設の完備といふことが並存するといふ形態は、全く人間生活が描いて來た嚴然たる事實であるといふことが出來る。勿論工場生活のなかつた時代から、この人間生活に內在する厚生的活動はあつたのであるが、それはあらゆる種類の人々の共通的な活動となつて居り、其の社會生活の生む人間の生活發展を害ふ事實は、工場生活が生むほどは顯著なものでなかつたので、其の事實は工場生活によつて生み出された厚生施設と比すると遙に原始的なものといふことが出來る。

工場厚生施設は、實際工場に於ける人間力の破壞が大きいだけ、それだけ其の厚生的活動を必要

とする。其れは恰も疲勞が大なれば大なる程休息の必要が强化されると同樣である。勿論工場生活誕生以前にも工場生活の生むが如き人間力の破壞的勞働もあつたには違いないが、其れは夫々各個人の責任に於て考慮されなければならなかつたので、縱令個人的には其の必要があつたかも知れないが、夫れは制度的には現はれなかつた。然るに工場には多數の人々が働き、其の多數の人々の要求として現はれる厚生的要求は、必ずや其の社會の反應を呼び起さなければならなくなる。殊に其處にこれを統制する事業主といふものがあるので、これを制度化せざるを得ないといふことになり、一般社會人をして羨望の的になるやうな工場生活者なるが故に與へられるといつた感の持たれる厚生施設といふものが完備されるに至る。これが社會の傾向を造るといふことになり、工場厚生施設の普及が即ち厚生運動の先驅といふことになる。或る人は

「厚生運動は勤勞者に必要なる休養娛樂を廣く組織に依つて解決する事實である」

と言つてゐる位で、厚生運動の對象として工場生活者が極めて大きなものとなつてゐることは言ふまでもない。

(三)

運動の特異性は、組織に依るところにあるが、組織の最强なるものは國家の保證に依るもの即ち法令に依るものであるが、夫れが國家の健全性を保持する爲に絶對的に必要であるとするならば、それは當然法制化されなければならないが、この厚生施設といふものが特に其の道德性を必要とするものなので、其の法制化といふことまでには、迂餘曲折が考へられる。結局それは其の社會國家の性格を現すことになるが、勞働者保護法規になつて現はれてゐる實情がこれを說明してくれる如く、我が國に於てもこの勞働者の保護法は逐次整備されつゝあるが、法制化と並んで所謂運動によつてこの法制化に代ることも考へられる。尤もこの運動による普及の缺陷はいつも法制化によつて補はれることになるので、人々は運動によるやうな生溫いことをせずに、直ちに法制化したら宜いではないかなどといふ考へも持つに至る。我が國に於ける工場厚生運動の重要なる一つである產業報國運動に於てもこの色彩は現はれてゐる。勿論法制化によることは感心したことではないといふ理窟も成立つが、法制化に依らずにこの工場厚生施設の普及化を圖らうとすることが如何に手數を要するもの、廻り途を通らなければならなくなるかといふことは、其の厚生施設の施設過程が說明してくれる。其の一例として川崎重工業株式會社に於ける、榮養食配給所の設置されるに至つた經過を紹介するならば思ひ半に過ぐるものがあると思ふ。

川崎重工業株式會社は一般的に會社と其の地方との關係が密接であると云ふ以上に其の歷史に於て神戶市と密接な關係にある。從つて其の從業員の爲に厚生施設をなし、それが神戶市の小賣商の代理をするやうなことになると、市會議員とか商工會議所議員が起ち上る。さうして神戶市と川崎重工業株式會社との深い因緣關係を說いて、そのことの不可を難ずるのが習ひとなつて居る。從つて會社が從業員の爲に計劃するにしても、又從業員からいろいろと陳情、要求があつたとしても他の會社がこれを實施するやうに實施することは出來ないことになつて居る。

會社が辨當配給をすれば多數の辨當屋が直ちに失業する。先づこの辨當屋の救濟策を考へてからでなければこの計劃は實施出來ない。恁うしたことは勿論何れの方面、何れの地方にも散在することで、これを克服しない限り其の會社の從業員だけがよいやうにといふ團體本位の利己主義は成立しないことになるに違いない。この意味に於て恁うした利己的の經濟施設はやがて全體的な施設に代られることになるだらうが、然し工場の作業生活に直接關係ある施設は工場獨特の形態をとつて發展するであらう。この意味に於て榮養食配給といふ施設は、極めて重要なる役割を演ずるに至ることは、當局が其の普及發達に主力を注いでゐるところによつて明かである。

川崎重工業株式會社に於ては、從つてこの榮養食配給所を施設するに就ても積極的に計劃することは躊躇せざるを得ない事情に在つた。然し國民體位の低下といふことを考へても、勞働力の維持增養といふ方面から考へても從業員に合理的なる食物を供給するといふことは緊急の義務といはなければならないことになつて居た。此處で從業員の考へた事は——健康保險組合議員によつて考へ

られたわけであるが——保險施設としての榮養食配給施設をすることであつた。然し保健施設としての榮養食配給施設を設置することは、健康保險法に於て許されるにしても、(この榮養食を無料供給することは差支へないが) これを有利で頒けるといふことは許されない。其處でこの施設することは健康保險組合の事業として之れを敢行し、この設置の運營は別の機關に於てすることにした。それは健康保險組合の理事をもつて榮養食配給委員會を組織し、この委員會がこの配給に當るといふことにした。これで會社と關係ない然かも市內に曾て存在しなかつた、從つて市民から排擊せられることのない機關が出來たわけである。

これを計劃するに當つて考へねばならなかつたことは其の規模の大きであるが、街の辨當と並立する機關たることを立前とし、然かも從業員の要望にも添ふといふことにしなければならないので相當に考慮されたものである。辨當屋から配給を受けてゐる辨當數は、各方面に於て永年の經驗によつて明にされてゐる辨當の購入率とほぼ同樣で約從業員數の三割程度であつた。結局この計劃に依る施設も三割を割ることは、從業員の要望を裏切ることにもなる處があるので、其の程度のものにされた。この結果街の辨當屋は失業の憂目を見るのではないかといふことを心配し、中には其の機關に其の勞働力を合流するより外はないと思つたりするものもあつたやうだが、結局は街の辨當屋に與へた影響は榮養食配給所開設當初だけ、其の數が減少しただけで、間もなく其の數は盛返してゐる。勿論その爲に榮養食配給所への辨當注文數は減少しなかつた。

(四)

街の營業するものとの摩擦をなくするといふことは勿論必要な考慮であるが、然しこの對立は夫々の立場が自らを擁護せざるを得ないといふ事情にある限り解消することはない。この關係を解消させるものは其の制度化であり、組織化である。さうして工場から一般社會に熔け込んでゆくより外はないだらう。

產業報國運動はこれに方向づける崇高なる運動で、この運動が徹底すれば自ら其の工場本位の利己的、獨善的厚生施設はなくなり、全ての工場、全ての社會大衆を濡すところの施設に展開するであらう。

其れは勿論相當將來のことであらうが、過渡的に考へられる。然かも國家の資材を要することなく出來る普及は、大工場に於ける施設を中小の工場に解放することである。現狀に於ては縱令事業主はこれを考へても、其の直接經營當事者は或は其の不可能を主張するかも知れないが、我が國の社會から其の不公平を除き大工場に働くものも小工場に働くものも、其の勞働力の維持培養に同樣の關心と其の實行の出來るやうにする爲には、それ以外にない。

大工場が其の完備せる設備を解放しない場合に考へられることは中小の工場が協同施設を作ることであるが、この場合には必ず高價にして不足してゐる資材を必要とし、然かも不足せる勞働力をこの施設建設の爲に割かなければならなくなる。中小工場としては恁うした形を執るのが當然であり、さうして大工場と同樣其の勞働の維持培養に落度のない方法を講ずべきであり、大工場をして其の施設を解放せしめられたいなどといふことを考へるのは不當な望みといふことにもなるが、この場合に大工場が敢てする不幸を平氣で見逃すといふやうな道德的怠慢と、それによつて中小工場の蒙る負擔、資材の消費、不足せる勞働力を此處に集めるといふ國家への不忠實は敢行しなければならない。

同樣に大工場が其の施設を中小工場に解放することを拒否することによつて犯さなければならない國家への不忠實は、これら中小工場にさうした過誤をさせる以上に國家の進運を夫れ丈遲からしめるといふことになり、殊に全體社會の幸福を考へない利己的な態度は擯斥せらるべきである。

(五)

組織化されたる厚生施設として考へることの出來る工場法、健康保險法、退職積立金及び退職手當法、それに近く實施せられるだらう勞働者年金保險法は、何れもその時代々々の時代思想を反映して登場したものであるが故に、既に時代は一變し、從來至當なることとして容認されてゐたことが、容認されないといふ時代になつてゐるのであるから、若し良心的にこの法の運用を考慮するならば、これに無關心たることは出來る筈のものでもなく、從つて其の自由主義時代的所產の諸法は

少くとも多少の改正をしなければならない時期に達してゐることを感じなければならない筈である。殊に夫れが夫々別々に取扱はれることによつて敢てしつつある浪費は極めて大なるものがあるといはなければならない。この浪費に加ふるにこの適用を受ける人達から考へられる不統一さに對する嘲笑は、やがて當路者の聰明を疑はしむるといふことになり、國民が一體となつて邁進するといふ政府の方針に添はないといふことになつて仕舞ふ。この傾向は誠に困つたことであるが、然しこれは結局は國家の文化の程度の表象であるから指導層の無能不定見とのみは言へない。時々に現はれた社會立法が其の社會的必然から生れたものでなく模倣によるものであることがこれを結果したものと言へよう。

刻々と變る時代思想のやうに其の統治權の代る國に於ても、新統治者は、其の法制に矛盾あるを許さない筈であるのに永久に變ることなき我が國に於てかくの如き原始味が堂々稱されてゆくといふことは遺憾極まりないことではあるが、然し夫れが日本の文化程度であり、夫れが當路者の聰明の最高の表明であると考へれば、まだ恁うした程度に止つてゐることが當然の運命であるといふことが出來よう。小學校から專門學校に躍進することが不可能なやうに、社會に於ける一切の事が、その躍進を許さないのは已むを得ないことだらうが、さうあるべきだ、さうありたいと考へるものからすると大きな悲しみである。

此處に厚生運動の必要があり、厚生運動によつて工場厚生施設の周到も期することが出來るであらうといふ豫想も出來るのであらう。

會株
社式
竹中工務店
本店・大阪市北區中之島・朝日ビル
電話北濱(23)一九一番(5)

會株
社式
大林組
本店・大阪市東區京橋三丁目七五番地
電話東(94)八六〇番(6)

大阪市の厚生施設

竹内政治※

❶厚生の理念

本題を課せられたるも曩に本市に於ては新體制の革新に副ふ爲め、今夏市行政機構の革新を以て是に臨んだのであるが、漸く新體制の具體的發展刮目す可きものあり、現狀の機構を以て、確立近き厚生理念の目標を完遂せんには尙幾多の支障を伴ふ狀態にある樣に思ふ。因て一應目下吾々に認識さるる限りの厚生理念を追究し、宜しく國家新體制に順應する事の急務なるを感ずるのである。終りに本市厚生施設の概要を瞥見せうと思ふ。乃ち去る10月中旬本市及日本厚生協會等主催下に興亞厚生大會の開催せられ、獨伊の來賓を迎へ興亞厚生の具現化に關して熱烈なる經綸と研究が發表され、在來低迷せる厚生運動を漸く正規の軌道に載せて一路興亞新秩序の彼岸に邁進するの氣運を醸成せるは衆知の如くである。

蓋し世界新秩序の一環たる東亞新秩序の大業は三國同盟の條文に示す如く明らかに世界史的意義を以て吾人の双肩に懸つて居る。此大使命の完遂を目指し所謂新體制の名の下に萬民輔翼を理念とする强力政治體制を確立し、その指導下に國民各層諸般の全生活部面を通じ、新なる國民組織と生活體制の創造が必要とせられるのである。生産擴充と云ひ高度國防國家の建設と云ふ何れもその根據として國民全體に充溢する活力を要請せざるはなく、乃ち異常なる生産力の擴充と發展に對應する人的資源の培養强化こそは最も喫緊なる國家的要求なりと云はねばならぬ。

乃ち物心兩面を通じて國民各層が今日の職分を完うし、明日への力を培ふ換言すれば國民勤勞の充實發揚に俟つ事が臣道實踐の要諦であらう。されば今日産業諸團體が勤勞精神の確立に重點を置き全産業報國運動を通じて勤勞組織の確立を期し官業、交通運輸業諸般も亦之に準じて勤勞組織を以て如上各組織聯合體と緊密なる連絡をとり一體的活動に移らんとするのも當然の事であらう。是等産業報國運動と云ふも亦厚生運動の實踐を伴ふべき事勿論である。要するに厚生運動の目標は勤勞國民の心身を練成し、情操を陶冶し明朗潤達なる生活の實踐を期し、以て人的資源の維持を圖るに在る。然らば厚生事業に於ては指導理念としてその對象を人的資源に置き是を保護育成する事と生活の安定を庶幾する事を目標とするのである。即ち國民厚生事業は當然その實踐に當り厚生運動の方法論を採用攝取する必要ある事言を俟たぬ。

以上觀する所に因り厚生施設を伴ふ事業は單に在來の社會事業のみに限定せず、高度國防國家の建設にある以上政治經濟文化の凡ゆる組織活動も亦此の一點に集約規正せらる可きは論ずる迄もない。從て厚生事業と雖も當然其の一環として擔當す可き分野を次の二點に歸せしめる。

1.高度厚生國家の建設2.東亞民族厚生指導の確立

第1の高度厚生國家の建設は勿論國民厚生事業施設の整備擴充に依つて一般國民の生活安定並に體位の保持增進を期するのみならず、在來社會事業の對象たりし、所謂要保護者層も亦更に一步を進めて是を人的資源として保護育成し、以て我國の國防乃至産業資源の維持培養を計らねばならぬ。尙軍事援護事業と雖もその本質は全國民の人的資源の保持培養を目標とする保護厚生事業なるからは、該事業も亦國民厚生事業の範疇に屬するものなりと觀られる。繰返して云ふ、厚生とは國民が完全なる集團生活を營み得る樣其の生活、職業保健衛生、福利等專ら生活並に體位方面の施設對策を云ふのであつて以上の國民なる概念を市民と換置する事により市民厚生の目標も定まるのである。但し此場合には常に農村厚生、並に東亞民族厚生と連環して國民厚生に一元歸一する事を惟ひ、自由主義的部分的なる事業達成に趨る事を愼み常に全體國家厚生の理念下に實踐せらる可きである。人口330萬を擁する財都大阪市に於る市民生活の維持培養と生産擴充とが如何に國家體制の存亡に懸る事の大なるかは贅言を要せぬ所である。

※筆者は大阪市技師・第一建築課

厚生の理念を以上の如く解すれば新體制下の市民厚生事業は最早在來の如き博愛人道主義乃至社會連帶主義に依つて指導せらるる自由主義的慈善救濟事業ではなく、大政翼賛の理念下に成員の福利厚生を圖り市民生活の安定を期するものであり特に現在の如き革新過程に於て市民生活の指導を必要とするものであるから、是が對策を積極的に考慮し、進んで人的資源確保と云ふ國策實現への協力精神が中心理念とならねばならぬ。

②市民厚生策の分類

市民厚生方策の分類をなすには二つの觀點がある。其の第1は對象に主眼を置くもので、即ち經濟的貧窮者のみならず廣く勤勞庶民層、若しくは市民各層に及ぶ社會成員としての資格者、缺格者及想定缺格者等に夫々適合したる對策を樹立する場合の分類である。

第2は施設に重點を置くもので、此の場合を大體次の如く分類する。

1. 戰時市民生活の指導

國家革新過程に於る市民生活の推移を指導誘掖する基本的施設であつて、在來本市社會部保護課の掌る職業補導並に適性の調査、失業對策、國民登錄制度の施行助長等に關する事業、又住宅福利等經濟保護方面の事業は是に包括せられる。

更に社會成員の餘暇の善用、情操の陶冶方策、心身鍛錬生活刷新に關する諸般施設の普及策も亦是に屬する。

2. 勞働並に勤勞の指導保護

勤勞は國民刻下の最大義務なるを以て是が管理統制の爲には在來の勞働政策、勞働事情の調査、並に保護以外に一般勤勞者俸給生活者の勤勞保護事業の體係を包含する。目下生産力擴充の重點主義に伴ふ、中小商工業者の轉失業對策は在來の保護事業と觀る可きものには非ず重要なる人的資源保持の觀點より愼重なる方策を樹つる要あり。勤勞訓練所創設案はその具體策である。

3. 體力增强の指導訓練

人的資源確保の爲めに國民體位の向上、資源の改善を指導する事業を中心とする。國民體力管理制度實施上の協力、體力調査、體育運動の實施指導體力向上施設體育運動野外徒歩健康施設を含む。

4. 兒童並に婦人の保護育成

將來の人的資源として且つ又人的資源涵養の上より兒童及び婦人保護の事業を統合擴大する事は當然である。

5. 老後安定策の統制企劃

人的資源としての役割を完遂せる老年者の保護が社會保險制度の擴大强化に依り又は養老施設の完備により計畫せられる。

6. 保健衛生の整備擴充

醫療國營の見地よりして保健衛生事業が最も重要なる部門の一を占める

7. 軍事援護事業の體系

軍事援護事業が國民厚生事業體系の重要なる部門なる事勿論である。

以上は戰時市民生活の指導を中心として厚生事業の體系を樹てたるもので須らく本市に於ては是等體系の運用に關し一元的統制を攝り得べき機構に整備せらるゝ必要がある。

例へば現在の機構に於て厚生省は申すに及ばず本市に於ても社會部に住宅課があり乍ら保健部に榮養改善衣服及住宅の衛生に關する事項が所管され、又社會部に兒童係があるに不拘母性乳幼兒及兒童の體力向上に關する事項が體力課に所管されるが如きは矛盾不統一と申す可く、國民厚生事業の目的完遂を阻害する事少からざるものがある。勿論現行厚生事業關係社會立法が自由主義的思想に立脚し、自然發生的なるもので、何等計畫的統一的でない所から此の矛盾が緣由するに於ては又已むを得ぬ事と思ふ。宜しく國民厚生法として總括し、その下に各種の整理せる特別法としての單行法を配する事が必要となるであらう。

國民厚生事業は前述の如く重大なる國家的使命を擔ひ是が遂行の如何は、實に國家盛衰の安危に懸る所大なるものがある。乃ち斯業は最早在來の如く各個の自由主義的恣意的なる運營に放任せられる事を許さず、國家の最高方針に基き共同の目的に向つて統一せられたる方法及施設規格を以て專門的技術的に實施せられ、各施設が最も有効なる實蹟を相平均して擧げ得られねばならぬ。その爲めには施設經營の原則は官公營に置かれ、然らざるものは官公の委託經營の方法により以て國家の一元的統制の及び得るが如くに配備せらるべく大阪市の如き大都市の斯業が如何に責務の重且大なるかを痛感する次第である。

❸市民厚生圏と施設整備

市民厚生は生活圏を對象として定まるのであるが、厚生事業の實施に當つては國土計畫の一翼としての厚生政策とする事が最も妥當である。抑々國土計畫は國土の綜合的利用開發、人的資源と産業との合理的配分を土地との關係に於て確保する事である。而してその具體化としての地方計畫は實施要項に依れば九箇のブロツク圏を以て經濟的生活圏の確立を企圖し、以て高度國防國家の樞要なる基底となすものである。然る時は人的資源の確保乃ち體力の向上と量的質的の增强を期待する厚生事業は當然健全なる國土計畫の上に樹立せられねばならぬ。乃ち地方計畫施策に當り文化厚生圏は重要なる因子として、經濟圏、産業圏と連繫し、通じて國防的の獨自性を發揮せられねばならない。國土計畫要綱によれば人口政策に關し主として人口の職能別や地域別の配分或は都市配置と云ふが如き皮層的技術的問題に觸れたるに留まる點は不備と云ふべく、宜敷保健衛生、換言すれば人的資源の維持培養の問題を織込む事により望ましき地方計畫を産み厚生圏の確立ともなる事を知らねばならない。

從つて六大都市に於る厚生事業の運營はその含む府縣及北九州地方と共に特殊地域として國家最高方策に基き直接に都市自體が企劃執行する事を穩當と認むるものである。さて國民厚生施設を整備するに際しては次の事項を基準とする。

1. 施設の規格統一

國民厚生事業施設は其の官公私營の別なく統一せられたる共同の目的及方針の下に計畫的なる高き標準的方法並に技術に基き是を施行する事とし其の建物敷地設備消耗品醫藥榮養材等の如きも規格統一せられる事を要す。

2. 施設經營の主體

團體の簡易なる施設は特に私營を認むるの外、私營事業は可及的に官公に奉還する方針か、又は委託經營の方法に轉換せらるべく、かくして國策として一元的の經營體制になり得るものである。

3. 施設の配置調整

施設の分布を距離人口、地區種別等を考慮に置いて地域的に調整し、その分布を合理的ならしむる事。

4. 公營施設の統制

從來公營施設が私營の夫に比し寧ろ不統一無計畫なる傾向少からす、乃ち本市に於ても同系の厚生施設が、その監督官廳たる府のそれと錯綜的に存するあり。乃ち自由競爭的に何等分布を念とせずして經營せられるもの少からす。是は直接國家の方針に透徹する樣調整するか、或ひは市域に關する限りに於て經營を本市に委任するか、統制せしむる事が肝要である。即ち國家がその施設の運營に關し監督統制を强化する事は已むを得ないであらう。

❹厚生事業運營組織と方法

厚生事業が前述の如く政治新體制の一翼として運營せらるるに於ては是が行政組織に就ても政治體制の系統に從ひ、地域組織を一貫するものであつて當大都市に於ては利益團體たる會社工場組合等の系統が混入する所に困難が伴ふ。されば厚生省を最上部として大都市は府縣と連繫の上、事業の目的遂行に邁進し、機能を更に下部組織たる區町會、隣保班に透徹せしむべく、一方中央國民厚生事業統制事務局の下に地方事務局を設けて國家の方針を協議或ひは傳達せしめる。更に國民厚生事業の研究、企劃並に指導機關として國立中央國民厚生事業研究所設置の要もあらう。

蓋し、斯事業はその活動の分野が國民の健康、知能、經濟等全生活の部面に關聯し、其の方法は單なる常識的心情的態度のみでは間に合はず、教育學、心理學、社會學、經濟學の文化諸科學及び勞働科學、國防科學、醫學を含む厚生科學等の綜合諸科學を動員してその綜合的應用によつて導かれねばならぬ。即ち該事業の執行は國家の必要とする所に應へて全國的に統一する計畫的なる方針方法及び資格によるべきは前述の通りであるが、更に地方の實情に即應する爲、關係地方の社會的並に國民生活の實情調査を怠る事は出來ないのである。かくしてその目的を最も有効に達成すべき科學的合理的なる方法が考案せられ、熟練された技術によつて最も誠實に執行せらるべきものである。

更に念頭に置かるべき事は斯事業が國土計畫と緊密なる連絡を採る所に新面目を發揮するものであつて、本市の如き大都市に於ては厚生圏を包含

する都市構築の技術が重大なる職能を擔ふ事になる。則ち斯事業に伴ふ施設の整備事項に示すが如く配置、分布に關し又規格統一に關し、建築土木部門の技術が樞要なる地位を獲得すべきは言ふ迄もなく、就中吾人は厚生事業施設の研究、企劃に關する限りに於て建築技術の參劃を要求するものである。今大阪市に就き是を具體的に說明する。

國土計畫のみに即しては公園綠地帶計畫を始め都市計畫的一切の施設に對し建築土木技術の參劃は申す迄もないが眼を點じて厚生圈に亘る厚生施設の實施に當つては、建築技術の職能は頗る大となる。在來事業部は夫々年度毎に定められたる豫算を把握し、建築部門に建築物の建設を依頼する慣例であるが、現狀は尙豫算分捕主義の傾向を蟬脫して居らぬ憾みがある。即ち豫算を通じて建築施設の企劃統一の執行權が與へられない。更に豫算足るも、資材の調達困難の爲め折角緊急重要なる施設の工事施工が不能となるものもある。

是を打開する方法は新體制確立に際し、厚生省は今や斯事業が高度國防國家建設上必須不可缺のものであり生產擴充方策の盾の一面たる可き事を認めた。故に厚生省は宣敷企劃院の物動計畫に際し厚生事業施設用資材の配分に關する有力なる關與者たるを要する。斯て確保されたる資材を必要なる施設に配分し此處に始めて國家の要求する必要なる施設を遺憾なく整備する事が可能となるであらう。一方本市は厚生事業施設に關し、行政機構の統一を前提として企劃部に於て事業の重點を決定し、物資調達の確保を通じ本省の指示を仰ぎその認められたるものを逐次執行するのである。施設には實に廣範なる資材の調達を伴ふ以上建築部門が企劃部に參劃する事の必須たるは申す迄もない。

次に用地の獲得は常に事業執行の成果に影響するものであるが、本市は須らく厚生都市の將來を慮り最も合理的用地に資金の運用を圖つて市有地を擴張し將來施設用地の整備をなし置く事の賢明なるを信ずる。而して用地選定は建築部門を通じて決定せらる可きものである。建築技術の職能は是のみに止まらぬ。即ち建築部は事業施設に要する一切の豫算を統轄的に獲得し、施設に關する國家的意義を充分に理解し、その具現化の爲めに技術を總動員して有効適切なる施設を所與豫算の許容範圍に於て資材を調達し責任を以て工事を執行し、建設の上始めて是を經營主管部に引繼ぐ事を安當と考へるものである。現狀は遺憾乍ら如上の點に徹底を缺除せる事を告げると同時に、建築部門は單に建物を構築する技術に非すして、所謂厚生的都市構築の爲めに汎百の科學を綜合し、市民厚生の容器を造るに必要なる智識を具へ是を有機的に運用する技術なる事を此處に聲明するものである。

㈤重要なる厚生事業具體施策

最近日本厚生事業大綱に於て發表されたるものより參考となるべきものを揭げ、直接施設の伴ふ可き者には○印を附し、將來の計畫に備ふる事も徒爾に非すと考へる。

Ⓐ國民生活安定方策の具體策

（1）、最低生活標準の決定
（2）、收入の安定化
（3）、最低勞賃の確保
（4）、勞働配置の適正化
（5）、失業の防止
（6）、失業保險の設定
（7）、災害及疾病時に於る生活保護
（8）、其他生活援護事業の擴充徹底化
（9）、保健醫療、母性及兒童保護の爲、體力向上施設の擴充
（10）、文化的諸事業の普及擴充

即ち餘暇利用の厚生運動、淸新健全なる娛樂、明朗健康なるスポーツ教育機會の供與、生活の改善刷新、慰樂其他文化諸施設の簡易利用等一般文化的諸事業の普及を圖る事

Ⓑ母性及兒童保護對策

（1）、兒童保護行政の整備統制
（2）、健全なる乳幼兒出生の爲の施策
イ、優生學的見地に立脚する結婚の相談並に媒介を公營する事
ロ、婦人の心理的特質に基き其の適性勞働を決定し婦人の母性破壞を防ぐこと
ハ、國民より花柳病、精神病及結核を完全に驅逐し之を根絕すること
ニ、生產扶助金制度更に家族手當制度を擴充
ホ、出產共濟組合の組織及產院の設置を普及
ヘ、母親學校を普及すること

ト、訪問家政補助婦制度及家政補助奉公制度を設け労力不足なる家庭を援助すること

(3)、健全なる乳幼兒育成の爲の施策

イ、綜合的なる小兒保護センター施設を配置し姙産婦の指導、兒童健康相談、榮養指導性能檢査、疾病治療等を强力に實施すること

ロ、適當なる扶養者無き乳幼兒の爲、完備せる乳幼兒保護施設

ハ、兒童榮養研究施設並に配給所の配置

ニ、虚弱幼兒の爲轉住保育所の普及

ホ、社會保健婦制度の確立

(4)、健全なる兒童成育の爲の施策

イ、虚弱學童の爲轉住施設を配置すること

ロ、兒童結核療養所を配置すること

ハ、不就學浮浪兒童の收容保護並に就學强制を斷行すること

ニ、少年勞務者の保護敎導の徹底化

ホ、都市不良兒童に對する保護敎導の徹底化

ヘ、水上生活兒童の保護

©保健醫療對策

一、醫藥業は公益事業たる事を確認し原則として官公營とすること

二、保健醫療機關の地理的普及を圖ること

三、一貫して指導監督を强化すること

Ⓓ住　宅　對　策

日本國民として住宅は實に生活の本據であり、其處に親和協力の家族生活が營まれる。家族の健全なる生活は延いては近隣又國家の健全なる生活と生長を意味する。居は實に保健衛生的のみならずその精神的文化的生活の面に於ても極めて重大なる影響力をもつ、乃ち斯る國民生活の本源たるべき住宅の問題は是を單に時局下勞務需給の應急的手段として考へることなく、更に一步を進めて恒久的なる國民生活の基底に於て問題の本質を把握し住宅の公益性に關する確固たる認識の下に國家は是が企劃並に供給に關して積極的なる配慮を要す。具體的施策事項

1)、貸家業者組合の組織　在來家主及貸家業者の類は是を統合して新に組合又は特殊會社を組織し、別に國家は敷金、家賃、修繕費、其他貸家住宅管理に關する合理的標準を設定し之に基いて貸家住宅の公益的經營をなさしむること。

2)、貸家住宅の建築並に經營　今後は民間の營利的貸付又は賣却を目的とする住宅の建築並に經營を可及的に制限し、是が供給は地方公共團體其他の公益團體の手により公益的に行はしむる事、此の場合住宅區劃の設計及住宅地區の配置に關しては保健及防衛の見地より科學的に考慮し、又美觀的に工夫せらるべき事。

3)、住宅會社の創設

4)、國民住宅の制度　國民服と同樣國民住宅に關し經濟的保健的合理的なる住宅の設計樣式各種を制定し新しき貸家住宅の建設は原則として之に據らしむること。

5)、住宅集團樣式原則の設定　前記一戸若しくは一棟を基準とする設計のみならず、更に集團として共同福利施設を考慮せる集團區劃樣式の原則的標準を設定すべきこと。

6)、住宅建築材料の規格統一　木材其他住宅建築諸材料及疊建具等造作類の品質並に規格を統一すること、是により諸材料は機械的に大量生產する事を得在來の組立式簡易住宅に於る如く資材及勞力の節約建築技術の簡易化建築費の輕減を期する事。

7)、餘裕住宅の徵用　在來住宅の部屋數疊數、等住宅の容積と人口との割合に關する一定の標準を設け、大邸宅、別莊等にして右標準に照し、餘裕あるものは必要に應じ、國家の保證並に責任の下に一時その餘裕部分を提供せしめ、是を緊急必要なるものに使用せしめる事。

8)、不良住宅の建設並に使用禁止　時局下粗雜なる非保健的不良住宅の建設又は貸付を嚴禁し在來貸家住宅に對する監視制度を樹てること

畢竟するに本市厚生施設の最も重點を置くべきものは、以上通觀する所によつて住宅對策により市民生活の安定を期する所にある樣である。さればこそ厚生省に於ても生產擴充を目標とする人的資源確保に必須伴ふ可き勞務者住宅の應急建設を第一主眼に置き、その充實を慫慂し資材の優先的斡旋に意を用ひてゐるのである。されど戰時下に於る住宅供給は獨逸に於ても戰爭目的完遂の爲め一時保留され、最近漸く愼重なる應急對策並に恒久的綜合計畫を樹立しつつある由であるが、此の點我國に於ても同樣の立場に於て對策の不徹底は無理からぬと思ふ。併し現在に於てその對策を遲

怠するに於ては殷鑑遠からず第一次歐洲戰後に現はれたる各國住宅難の深刻さは吾々の記憶に未だ新なる所であらう。須らく本省は百尺竿頭一歩を進めて住宅對策に積極的方針を樹立し、應急的勞務住居供給のみならず、一般庶民住宅の建設に及ぼし、徒らに雨露を凌げば足る式の量的解決に止るべきでなく、恒久的生活安定の基底たる且つ新文化建設に沿ふべき質的改善住宅の建設に進むべきは前項に見らるる如くである。さればこそ住宅法制定の促進と住宅公營主義の必要性とが提唱せらるる所以でもある。

本市に於ても現實を注視し、都市の特殊性を識別し、市民住宅の規範的型式を研究し、集團住宅の分布配置に就ては厚生理念を通し、防空方針に徹する計畫を樹て、更に時局下資材の能率經濟的用法に工夫考案を講ずる等各部面に亘つて建築技術を動員し、市民厚生の指導に役立たしめねばならぬと思ふ。

⑥大阪市厚生施設

此處には現行の施設並に新規計畫中の施設を何等體系化せずして羅列したるに過ぎない。併し乍ら前述の如く、都市の厚生施設がその對策方針に從ふ體系の下に統制ある分布配置せらるべきはその運營上の要諦でなければならぬ。

併し現狀は既往の諸對策が年度毎に逐次追加式の方法によつて事業を經營なし來れる爲に強ち無定見の譏を受く可きに非ず已むを得ざりし事情に由るものであると思ふ。併し將來に於ては否少くとも厚生施策の確立されたる今後に於ては現在の施設に再檢討を加へ、市民厚生の運營上能率化の方法を講ずべきは云ふ迄もないことである。一例を述ぶれば市民館の如きはその職能上公設質舖、託兒所授產所等と一貫して綜合施設する、或ひは健康相談所、保健所は合體して施設する。各區役所に是等厚生諸施設との連繫を更に密接化せしむべき機關を設置する。產院と乳兒院とは合體施設とする。

市民病院施設は環境の綠化或は公園施設と併合する。以上は差し當り必要な事と思ふが、斯くする事により、在來徒らに零細なる敷地を數多散在的に取得する手數を省き、一團的稍々纏まりたる用地に於て可成體系的なる施設を合理的に計畫する事が出來ると信ずるものである。以上論旨不徹底の所は讀者の寬恕を懇ひて筆を擱く。

大阪市主要厚生施設

事業名	現在施設員數	計畫施設員數	摘要
醫療保護事業 結核療養所	刀禰山病院 千石莊病院	千石莊病院ハ尙設備擴張中五千病床ニ擴張計畫中	以上現在收容力二千百床、文明病トシテ結核ヲ撲滅、早期對症療法ヲ目指シテ極力設備ノ充實ヲ圖ル
同上 少年療養所		目下貝塚千石莊病院ノ隣接地ニ計畫中	收容力六百病床トシ、專ラ兒童ノ結核治療施設ヲナシ健全ナル第二國民ノ體力保持ヲ貫徹セントス
同上 健康相談所	現在十九ケ所 各區ニ分布	三ケ所增設計畫中 三ケ所工事中	健康相談結核早期診療及家庭訪問ヲ行ヒ更ニ夜間診療開始、以テ結核豫防强化ヲ圖ル
同上 保健所	現在六ケ所 各已ニ分布	三ケ所增設計畫中 二ケ所工事中	從來ノ對症治療ヨリ豫防醫學ノ効果ヲ考ヘ國民ノ健康增進ト體位向上ヲ圖ル
同上 豫防相談所	現在八ケ所 各已ニ分布	一ケ所增設計畫中	亡國病ノ一タル花柳病ノ徹底的撲滅策ヲ講ズルモノ、晝夜間開設
同上 桃山病院	現在本院並ニ津守分院 鼠島隔離所ヲ施設		惡疫豫防施設トシテ法定傳染病患者ノ收容隔離施設
同上 防疫事務所	天王寺區一ケ所		傳染性汚物所理ヲ徹底セシメル施設
醫療保護事業 トラホーム診療所	現在常設二十二 臨時四		病毒剿滅ヲ圖リ、無料診療所トシテ施設ス
醫療保護事業 市民病院	南及北計二ケ所	東西ニハ夫々外來患者ノ診療所工事中	一般庶民ノ診療機關トシテ施設綜合、診療トシテ八科ヲ兼備ス
同上 市立產院	今宮、阿波堀、扇町	港區ニ計畫中	胎兒並ニ母性保護施設

同上 市立乳兒院	堀川、今宮		乳兒ノ受託保育診療ニ關スル各種ノ相談指導、乳母撰擇、乳汁ノ檢査等ヲナス
同上 市營葬儀所及靈園	現在十一ケ所ノ葬儀所並ニ南靈園開設	北靈園目下工事中	市民葬祭施設並ニ敬神祖先崇拜思想ノ徹底ヲ期シ、墓地、納骨ノ靈園化施設
市民體力維持維對策 體力檢診所		寢屋川ニ一ケ所工事中	青年體力保持ノ目的ヲ以テ、檢診ヲナシ體力向上ノ指針ヲ得ベキ施設
塵芥所理場	現在木津川、寢屋川、今宮		塵芥燒却所分ヲナシ、廢品回收方法ヲモ講ズ
衞生試驗所	現在扇町ニ一ケ所	目下增築計畫中	都市民生活ノ環境改善ヲ目的トシ、衞學的見地ヨリ、健全都市ノ發展ヲ圖ル爲メノ研究企劃機關
失業保護事業 職業紹介所	現在十二ケ所		事變ヲ契機トシ勞務動員ノ關係ニヨリ從來ノ市營ヲ改制シテ國ノ直營ニ移營ス
職業輔導事業 勞働訓練所	一ケ所	勤勞訓練道場トシテ改造計畫中	昭和十一年開設シタルモノ、事變下勤勞者ノ勤勞報國精神ノ鍊成ト、職業技術ノ指導訓練施設ニ改造スル計畫ナリ
職業輔導事業 市民館	現在八ケ所 各區ニ分布	三ケ所工事中 一ケ所計畫中	離失業家族其ノ他求職者ニ對スル職業指導講習ヲナシ、更ニ生業資本融通幼兒保育ヲモ兼營ス
經濟保護事業 公設質舖	現在九ケ所 各區ニ分布	三ケ所計畫中 二ケ所工事中	小額所得者ノ小口金融並ニ生業資金ノ貸付ヲナス
市民生活安定事業 市設小賣市場	現在市營五十三ケ所 各區ニ分布	三ケ所工事中	日常生活必需品ノ小賣制度ヲ改善シ、資價ニ統制ヲ加ヘ、需給ノ圓滑ヲ圖ル事ハ市民生活ノ安定上ノ緊要事ナリ
同上中央卸賣市場 天滿、木津配給所	現在一ケ所	會場三ケ所計畫中	市民食糧供給ノ確保並ニ資值ノ統制ヲ加ヘ需給ノ圓滑ヲ圖ル
同上 屠場、家畜市場	現在ケ所 津守ニ所在		市民生鮮肉供給確保施設
經濟保護事業 託兒所	現在二十九ケ所 各區ニ分布	九ケ所計畫中 四ケ所工事中 中央託兒所計畫中	幼兒ノ晝間保育事業、他面勤勞階級ノ勞働能率ヲ昂メ延イテハ家庭ノ向上ニ資スルヲ目的トス
社會敎化事業 郊外學園	現在六甲（山間） 助松（海濱）ニ開設		薄弱兒童ノ救濟、敎化ヲ圖ル施設、特別敎室及養護敎室ヲ設ク
社會敎化事業 勤勞學校	現在有隣、德風、小學校ヲ改造シテ施設、更ニ豐崎ニ施設		貧困兒童就學奬勵並ニ職業ノ德性敎育ヲナス
軍事援護事業 授產場	現在中央一ケ所及普通三ケ所、天王寺、玉造海老江、田邊	一ケ所計畫中 一ケ所工事中	事變下、軍人遺家族ノ家庭收入ノ增加ヲ計リ、銃後勤勞報國精神ヲ涵養養スル爲ノ施設、市民館ニ於テモ兼營ス
母子保護事業 母子寮	現在住吉並ニ大正市民館附屬ト計二ケ所		目下出征軍人遺族ニ幼兒ヲ擁スル母ノ生活保護施設
社會敎化事業 郊外保育所	現在一ケ所 北郊外保育所	一ケ所計畫中 南郊外保育所	虛弱兒童ノ簡易轉地保育施設
社會敎化事業 水上學兒寮	現在一ケ所 安治川ニ施設	一ケ所計畫中 尻無川ニ計畫	水上生活者ノ兒童ノ敎化保育施設
社會敎化事業 兒童敎育相談所	現在眞田山ニ一ケ所		兒童ノ敎化ニ關スル科學的指導相談施設
軍事援護事業 勳ノ家	現在天王寺、城北ニ各一ケ所		出征軍人遺家族ヲ收容シ、生活ノ安定ニ資スル施設
勞働者指導事業 機械工訓育所	市內赤川町ニ昭和十四年開設	目下計畫中	事變下生產擴充ノ爲メ、機械工訓育養成機關トシテ設置
同上 機械工指導所	同上ニ隣接シテ昭和十四年開設		同右ニ準ジ一般小工業者ノ機械工業技術ノ指導研究ヲ目的トシテ施設
勤勞者生活指導策 店員道場	城北ニ開設		商店法ニ基キ店員ノ餘暇善用ノ施設ヲナシ、健全ナル娛樂並ニ「スポーツ」指導施設トス

勤勞訓練對策 興亞拓植訓練道場	北河內郡私市ニ目下工事中		興亞開發ニ必要ナル青少年ノ勤勞豫備訓練ヲナシ、以テ滿蒙開拓義勇軍訓練ノ大阪地方道場トス
市民敎化對策 明治天皇紀念館	泉布觀內		明治天皇ノ御盛德ヲ偲ビ奉ル大阪ニキスル資料展觀、並ニ各種敎化團體ノ聖德景仰ソノ他ノ修養講座會場
同上 美術館	天王寺、茶臼山		市民藝術的敎養ノ向上トソノ民衆化ヲ圖ル爲メニ利用ス
同上 大阪城天守閣	大阪城內		鄕土歷史館トシ大阪市ヲ中心トスル鄕土史料ヲ蒐集陳列ス
同上 市民博物館	天王寺公園內		市民ニ科學文化敎養ノ爲メ必要ナル資料ヲ蒐集陳列ス
同上 電氣普及館	市電氣局內		市民ニ電氣智識普及ノ爲メ必要ナル資料展觀並ニ講習施設
同上 電氣科學館			市民生活ト電氣科學トノ密接ナル關係ヲ知ラシムル爲メノ資料ヲ展觀セシメ、最上階ニ「プラネタリユーム」ヲ設ク
市民體力向上對策 大公園	面積五千坪以上ノモノトシ計十六ケ所	紀元二千六百年紀念事業トシテ計畫中ノモノ十二ケ所	主要ナルモノハ新淀川、天王寺、大阪城城北、中ノ島、櫻宮、桃ケ池、眞田山、扇町、萬代池、平野白鷺間トス
小公園	面積五千坪以下ノモノトシ四十七ケ所	同右計畫中ノモノ四十二ケ所	主トシテ土地區劃整理組合ノ提供ニヨルモノ多ク、兒童遊戲場運動廣場等ニ充ツ
街園	計二十五ケ所		交通整理上必要ノ爲メ又ハ都計道路新設ニヨリ設ケタルモノ

市營公園面積（昭15年4月現在）565.872坪
府營公園面積（同）82.068坪（住吉、住ノ江）　} 647.939坪

市內公園面積（紀念事業完成ノ場合）1065.600坪、市面積ニ對シ1.9%ニ當ル

綠地帶及綠地廣場			地方計畫トシテ國土防衛、市厚生圖確保ノ見地ヨリ、調査研究中
市民敎化對策 圖書館	現在市立トシテ阿波座西野田、御藏跡、清水谷、今宮、城東ノ六ケ所	紀元二千六百年紀念事業トシテ中央圖書館計畫中	市民敎養、餘暇善用ノ目的ヲモツ公開施設、移動圖書館ヲモ經營ス
市民體力向上對策 體育館		同上目下計畫中	市民、體力向上、身心練成、健全競技ノ指導施設ヲ目的トス
同上 市民運動場	港區ニ一ケ所 面積約1萬500坪 大正十二年創設		市民體力向上、健全野外競技ノ開設的使用施設、陸上競技、野球、庭球、籠、排球、プール等ヲ設備ス
市民體力向上敎化對策 公園特殊施設	天王寺公園ニハ動植物園 城北公園ニハ敎材植物園、貸農園、眞田山公園 扇町公園ニハプール		新淀川公園ニハ綜合運動場 櫻宮公園ニハ野球場 大阪城公園ニハ天守閣
經濟保護事業 住宅			
普通住宅	集團配置トシテ十四區域ニ施置全戶數千七百十五戶		前歐洲戰後ノ住宅難對策トシテ居住ノ安定生活改善ヲ促ス目的ノ下ニ建設シタルモノ
分讓住宅	集團配置トシテ六區域ニ施設全戶數四百九十三戶		上ニ同ジ
改良住宅	現在既濟事業 土地ノ買收17.691坪 建物戶數1.010戶	當初計畫ノ殘部目下促進中	不良住宅地區改良法ニヨリ昭和二年以來要改良地區ニ跨リ總面積約二萬坪住宅建設豫定數千百餘戶ノ豫定ナリ
普通住宅		昭和十四年度二百戶 昭和十五年度七百戶 昭和十六年度三千戶	事變下住宅難緩和ノ爲メ主トシテ勞務者住宅ノ建設ニ重點ヲ置キ昭十四、一五兩年度ノ分ハ目下工事中
軍需勞務者 青年寮	城東報國寮一ケ所完成	西淀川、此花兩區ニ各一ケ所宛目下工事中	軍需工場地帶ノ勞務者居住ヲ確保シ以テ生活ノ安定、生產擴充ノ基底タラシムルモノ一ケ所收容約二百名
淀川住宅	毛馬閘門附近ニ一ケ所		元來家舟住居者ノ生活改善ヲ目的トシタルモ家舟徹去ヲ機トシ之ヲ一般住宅トシテ建設

宿泊施設	目下、今宮、鶴町、西野田、長柄、九條各寮並ニ海員ホーム計六ケ所	住宅難緩和ノ勞務者ノ資質向上ノ爲一部寮舍ニ改築計畫中	單身勞働者ニ對スル宿泊保護ノ爲清楚低廉ナル溫キ居住場所ヲ供與スル目的ニシテ合計收容定員二千名トス
保護所	目下今宮、鶴橋ニ開設		宿泊無料トシテ收容者ニハ職業輔導並ニ敎化方法ヲ講ジテソノ生活厚生ヲナサシム收容人員五百名
厚生寮	西成ニ開設、昭八、五		救護法ニヨル被救護者ノ單身者又ハ小數家族者ニシテ生計維持困難ナルモノヲ收容スル共同浴場炊事場洗濯場ヲ備フ。收容室二十五室
小工業者住宅	西淀川區中津濱通ニ開設	共同作業場事務所等目下計畫中	時變下小工業ノ生活安定並ニ工業助長ノ爲メ小工場付住宅ヲ六十四戸建設ス

名古屋市の2つの厚生施設

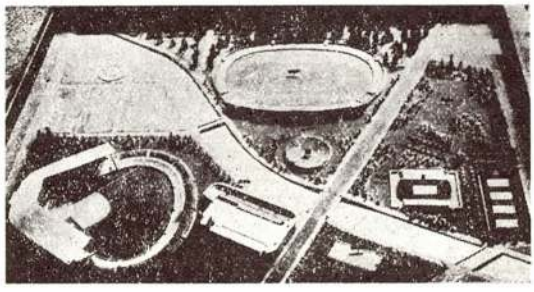
（紹介者）　疋　田　武　二※

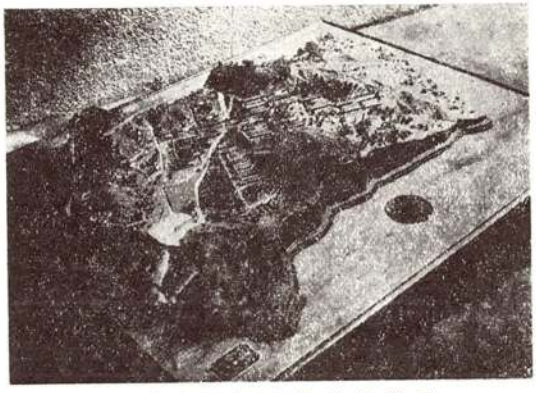
名古屋市運動公園概要

所在地　名古屋市昭和區瑞穗町字下內田
敷地面積　42.318坪
規　模　イ、陸上競技場
スタンド一部鐵筋混凝土造一部土疊
收容人員　25.000人
ロ、野球場
內野スタンド鐵筋混凝土造鐵骨上家付
外野スタンド土疊
同　42.000人
ハ、水泳場
スタンド一部鐵筋混凝土造、一部土疊
同　7.000人
ニ、庭球場
スタンド一部鐵筋混凝土造、一部土疊
同　5.000人
ホ、相撲場
スタンド土疊　同　5.000人
ヘ、馬術場
ト、兒童遊園
建設費　1500.000.000圓
工　程　地鎭祭　昭和13年7月9日
陸場競技場・野球場・庭球場・相撲場（昭和16年3月竣功豫定）兒童遊園整地植樹（昭和15年7月完成）其他施設ハ未着手
設計及監督　名古屋市土木局

名古屋市療養所梅森光風園概要

所在地　愛知縣愛知郡天日村大字植田字梅森
敷地面積　102.527坪
規　模　イ、建築面積　延坪　3.570.459
1.第一期竣功建築面積　同　1.298.800
2.第二期工事建築面積　同　755.447
3.第三期豫定建築面積　同　1.516.212
ロ、主要建物
本館（木造二階建瓦葺）診療室（1）檢査室（1）病室（24）外氣小屋（36）看護婦寄宿舍（1）汽罐室（1）電氣室（1）炊事室（1）洗濯場（1）浴場（1）靈安室（1）外氣食堂（1）傭人室（1）自動車車庫（2）門衞所（1）汚物燒却場（1）倉庫（1）動物舍（1）薪炭倉庫（1）以上平家建瓦葺（但シ數字ハ棟數ヲ示ス）
ハ、患者收容定員　750名
工　程　第一期・第二期工事完成
第三期工事昭和16年3月完成の豫定
建設費　1210.000圓
設計及監督　名古屋市土木局建築課





（上・名古屋市運動公園模型
下・名古屋市結核療養所梅森光風園）

※疋田氏は名古屋市建築課長

都市建築群體の疎開

宮田秀穂※

本稿は、大阪市にひらかれた「興亜厚生大會」の分科會報告の「都市と厚生運動」の部門に發表した研究論文の概要であつて、日本建築協會員として云つた手前上、茲に一應高覽に供する。

初め、大會事務局に提出した要旨抜書きには、「過密都市（殊に其の住宅地）に對する疎開化の必要なことは既に一般の認められる處であるとし、これを既に承認されたものとして疎開の度合に就て述べる。

都市のもつ色んな紐帶をほどいて了つたやうな疎開は論議に成立つても、これは單なユートピアの擴散に墮するものである。

茲で、厚生、防空の兩方面より生れる分散的意力と、立地、都市運營上からくる收斂性とは、相反する事情にある現代都市に於ては、實際上どうしても之等兩方面をにらみ合せて、科學的に歸一する疎開の度合を決定する必要がある。之を數理によつて闡明してゆきたい」

と云つて、地代と家屋の稠密化傾向との相關に就いて云ひたかつたが、當日の發表者の發表の調子があまり込入つた内容のものに觸れるものがなかつたから、急に本稿のやうなことに云ひかへて了つた。我々技術者仲間ではあまりにもわかり切つた常識程度のことなので、おこがましいが、誌上に掲ぐ。

今日、よく都市膨脹の抑制とか、分散とか、疎開とか云はれております。その内疎開に就て簡單に申上げ、都市形態に就て我々都市技術者はどう云ふ事を考へてゐるか御傳へしたいと思ひます。確かに我國の大都市は吾々の望み通りに發達して了つて、東京に致しましても、大阪に致しましても明治末期には、たしか世界大都市としては十何位かで、非常に肩身が狹かつたのであります。それがこの三十年間に累進に累進を重ね五指に算へられる自他共にゆるす世界の大都市になつたのであります。其の地域の廣さ、人口、それから人口密度から申しましても、名實共に great 東京、great 大阪になつて、吾々の年來の念願を十分滿たして呉れたのであります。最近ドイツの防空雜誌に、日本の東京、大阪の大きいことは歐洲人に到底理解しがたい、とあつて、東京の何萬分の一かの地圖の上に、ドイツの大都市と稱せられるドレスデンとか、ハンブルグの同じ縮尺の地圖を重ね合せて、こんなに大きいのだと、其の大さ加減を說明するのに大變苦勞をしておるやうでありました。大阪市に致しましても、同樣な方法で、平野一杯に果しなく擴がつて居る、所謂グレート大阪を說明してゐる。その挿繪を見た時には、誇りに似たやうな感じが致しまして、つい興味を持ち、讀んで見ました處が、内容は餘り、東京、大阪はドレスデンとかハンブルグよりも偉大な都市であるやうにも書いてゐなかつたのであります。

我邦の東京、大阪のやうな大都市は地域、人口に於ても世界に冠たるのみでなく、家屋密度に於ても更に優位を占め、歐洲に於て最も家屋密度が大と云はれております巴里の貧民窟にも匹敵する密度を、東京、大阪のどの部分にも持つて居るのであります。さうして、又疫病の發生死亡率の高率、その他都市から齎す事故に於ても大いに抽んでゐるのであります。斯う云ふやうな、不衛生の資料、死亡率に於ても、大きい數字を競つてゐる事は決して名譽な事でない事は勿論であります。

茲に過大に失した都市に對する批判が起るのは當然の歸着と思ふのであります。併しよく考へてみますと、本邦都市が世界の大都市と膨大さを競つて今日の地位を獲得したのではなくて、現に歐洲の大都市では、大都市の悲劇に直面して、そぞろ恐しくなつて都市の膨脹力に疑問をいだき初め、遂に膨脹に手加減を加へ、抑制し始めたにも拘らず、本邦都市は馬車馬の如く拍車がかけられ放しであつたので、遂に次々と歐洲都市を追越していつて、惡化した症狀を自覺してか、知らずにか、兎に角、大きくなつて了つたのであります。

それで、その雜誌では氣の毒な日本の都市よ、と哀れむと共に自の戒めにしてゐる譯であります。

この自覺なき我邦の都市も漸く歐洲都市のとつてゐた自制がわかり、都市の膨脹力に對し抑制力を加へねばならないと自覺したのであります。

※筆者は大阪市防護課・技師

斯う迄に過大に密集し切つた肥大症は歐洲都市がやつてゐるやうな抑制と云ふ自制だけでは、もう間に合はなくなつてゐたのであります。過大都市の頂點を極めた都市では、此處で一寸登り方をひかへるだけでは追付かず、廻れ右して百八十度廻轉して元來た道に引返さねばならないと、最近考へついて來たのであります。これが都市膨脹力に對する都市分散、疎開の考へ方であります。確に人口が稠密であれば、ある程生活が便利に違ひない。交通にしても、都市行政、經濟の上からも同じく有利であります。此の大きい利點があるにも拘らず之を犧牲にして迄、現在の東京、大阪の膨大化を抑制し、且つ意識的に分散せしめ、又疎開しようと云ふのが今日の動きであります。それには、大きい努力と多額の費用とを要することは勿論であります。何故かく迄、大掛りなことをしてこんなことをせねばならないか。それは今は主に都市の厚生に就いての色んな統計資料から說明されて居ります。如何に膨大都市が一時便利で產業に十分能率が上つても、都市を象つてゐる市民の衛生、厚生に大きい暗影を投じてゐる、それには償ひ切れない。末世的な膨大過密都市は自ら出した毒素によつて自滅の外なく、延いては都市附近の地方農村から次第に日本を蝕んでゆく病元體であると云ふ考へが強く起つて來たのであります。伸びゆく表面の姿に見とれてゐる間に、內部に繁殖するバチルスを發見して慄然とした譯であります。

玆で、抑制、疎開、分散のことばの意味を一寸申上げておきます。抑制とは綠地地帶とか、農耕地をベルト式に都市の市街化の周圍部にめぐらして、外に市街がはみ出さないやうにする方法と、內部的には人口の密度、家屋の密度の增大を防ぐ方法とがあげられて居ります。分散とは衛生都市的に、その綠地地帶よりずつと離れた所に小都市として分散配置することと、工場分散のやうに、大工場を大都市に近接して建設せしめないことを意味する場合もあります。ここで言ふ疎開とは市街地の家屋の建坪と敷地の割合の比を小にする。即ち家屋密度を小さくすることを指し、人口的な疎開はここでは直接觸れないことにします。極度の過密狀態が都市の常態で、日當りの惡い裏店育ちの生活が普通であつて、不衛生を通越して、時には大疫病の發生地の巢窟になたり、火災、水害には救助の仕樣がない修羅の巷が現出される都市では決して都市生活は幸福ではないのであります。

この傾向は近來決してひるむ所ではなく、どしどし建つてゆく大工場の新設によつて都市周圍部には更に拍車がかけられようとしてゐるのであります。國民の體力の低下、殊に國防第一線に立つべき青年の體力の低下に對して徵兵官をして憂へしめてゐると聞いて居りますが、この傾向は大都市の青年に於て最も甚しいと聞いて居ります。之も一に環境の惡化、即ち都市家屋の密集狀態に負ふ所が尠しとしないのであります。乍然疎開はちりぢりに散らばらねばならないのだと申しましても、田舍狀態の擴散を理想としてはならないのであります。都市のもつ紐帶を解いて了つたやうな疎開は假に理窟として成立つても、夫は曾つてのユートピアの幻想に墮するものだと云ふべきであります。人口が集中し建築が集合して都市を象つた所に、其必然性を認めない譯にはゆかない。人口と夫を收容する建築が一定地域に一定密度に集つてこそ都市は成立つもので之を拒否しては都市の特質がなくなり都市のもつ機能も從つてなくなり都市は崩壞して了ふ譯であります。

然らば、都市の機能を失はず、且過容狀態の悲劇を釀出さない程度の都市の疎開と云ふものは如何なる狀態の疎開をさすものか今後ここに吾々の研究の課題を求め度いのであります。窮極、今日の疎開の基準は高度國防國家體制の一分野として之を考へて行き度いのであります。

そこで、此の疎開の目的となるものは第一に厚生であります。家屋の日當りを考へる日照法、或ひは通風、綠地の利用としての家屋の疎開、第二に防空よりみた疎開であります。敵機より投下する爆彈をして効力を減退させ且つ地上防禦の態勢にはどうしても家屋が分散疎開されてゐなくてはならないのであります。蜿蜒として續く瓦の海の本邦大都市の市街地は全く延燒の檣であります。私はこの二つ、厚生と防空を國防都市の疎開の要素とみたいのであります。此の二つの理由のみで疎開の必要を唱へても決して過言ではないと思ふのであります。獨逸のハンス・シヨツベルゲルも「防空建築」の中に防空と厚生と交叉するところに都市を疎開へ導くものがあると云つております。厚生を目標に疎開された快適な明朗都市は一方に於いては防空を根本的に解決した防空都市でもあるのです。實に疎開都市は謂はば、都市の平戰兩樣の構へでもあるのであります。（おわり）

設計に就いて

「敷地」は山の中腹を切り展いた高臺．從つて細長き平面が生れた。建物の中央に長き廊下をとり．各室の連絡を計つてゐる。

「談話室」は36坪の廣さで．吹拔天井とし床は土間一部に中2階を設けてゐる。此の室は食堂ともなり．又夜は篝火を圍んで樂しき談話室ともなる。前面には休憩・展望の爲に廣き露臺を作つてある。

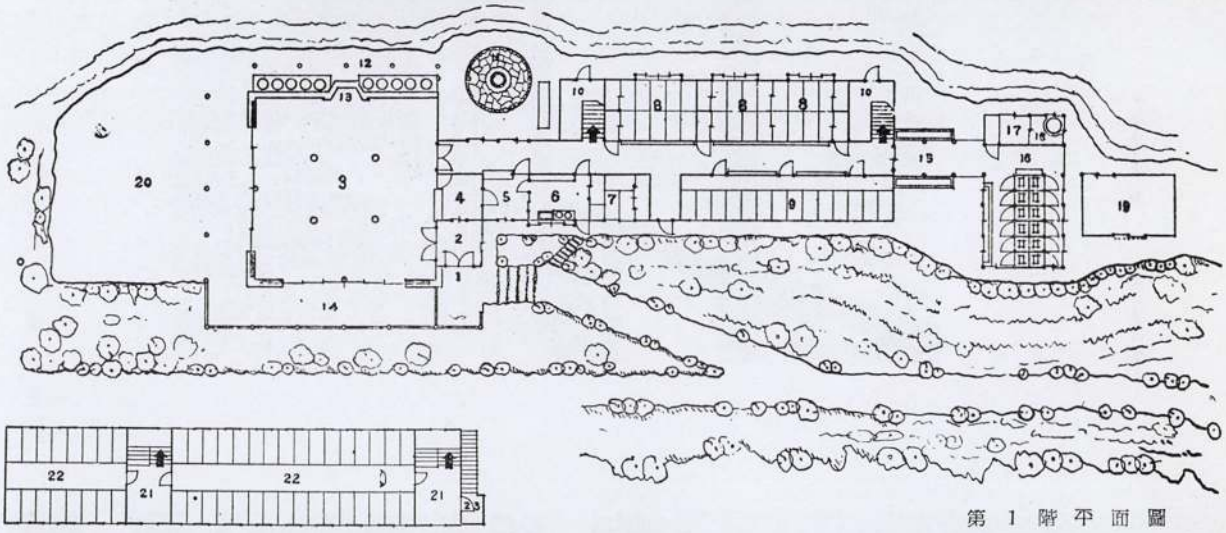
「履室」1階に和室と洋室を設け2階は全部洋室で．履臺は上下2臺に設けてある。

「共同炊事場」は．利用者には重要なる作業の一つである爲に．特に其の配置に苦心なし．連絡のよい中央に設けた。便所は渡り廊下を距てゝ設け．之に附屬して指導員の

「浴室」がある。渡り廊下の兩側は洗面所となつてゐる。水は池畔の井戸よりポンプで山上の貯水槽へ送り此處で濾過をなし給水管で各所へ送水してゐる。談話室につづゐて廣場を設けてゐる。



池を隔てた外觀



第1階平面圖

第2階平面圖

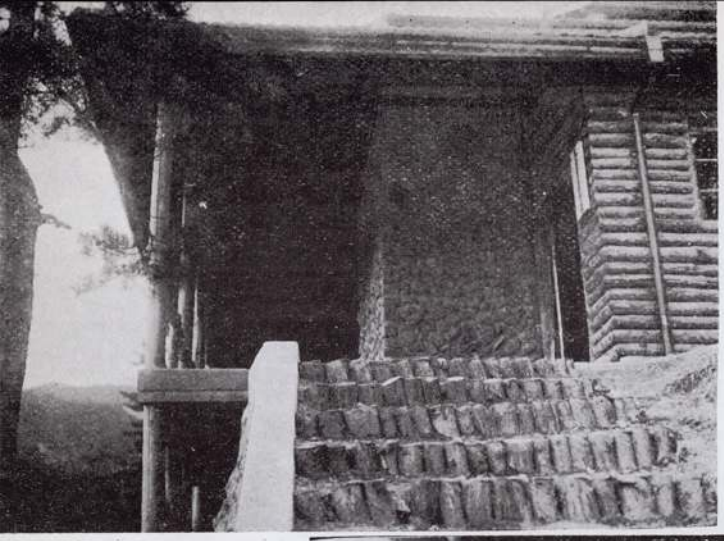


道場背面外觀



坂下より入口を見る

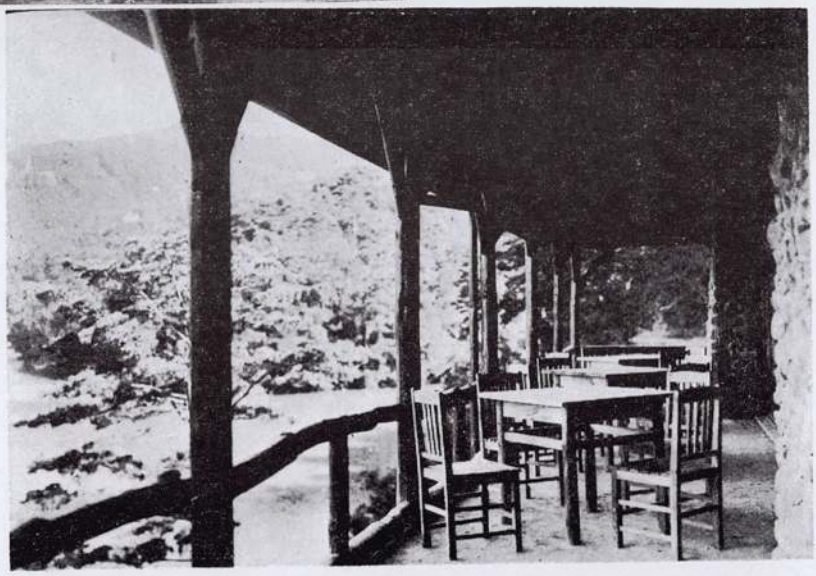
瀧の池・山の家（大阪市實業學校道場）　設計・南海電鐵事業部　施工・向井組



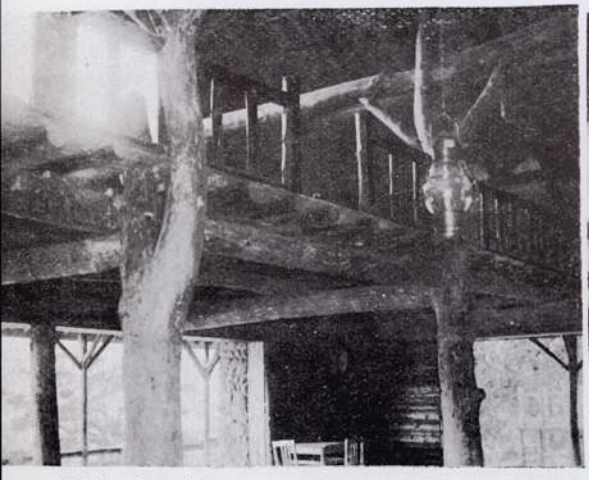
前頁平面圖の說明

1. 入口
2. 玄關
3. 大ホール
4. 事務所(室)
5. 物品配給室
6. 監理人炊事場
7. 同室
8. 私風寢室(腰室)
9. 洋風寢室(同)
10. 階段室
11. 共同炊事場
12. カマド
13. 溫爐
14. バルコニー
15. 洗面所
16. 便所
17. 脫衣室
18. 浴室
19. 物置
20. 廣場
21. 指導員室
22. 洋室腰室(圖體)
23. 非常階段

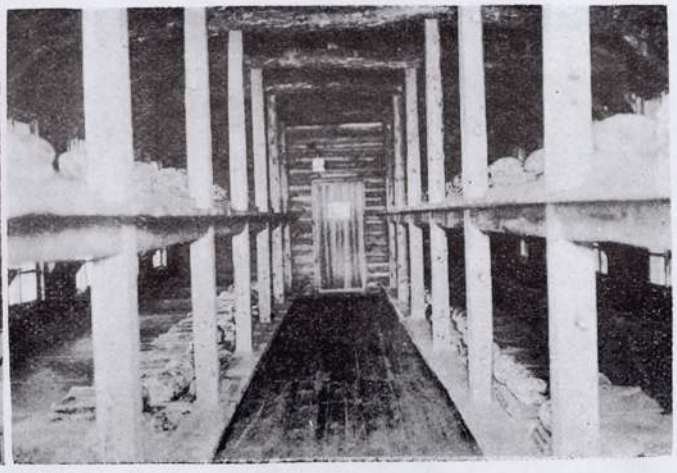
正面入口階段より玄關を見る



バルコニー



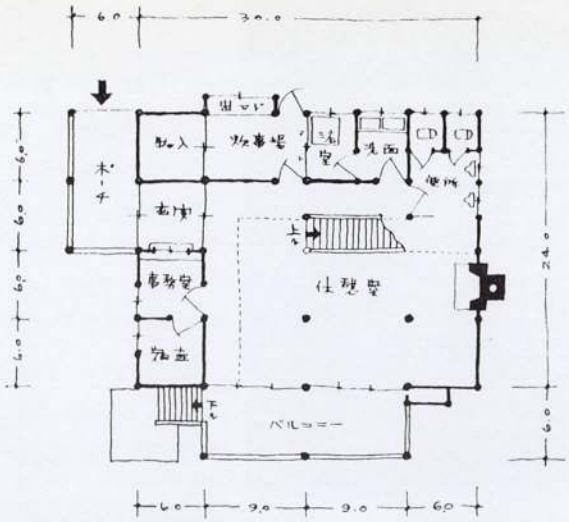
談話室より中2階を見る



腰室

設計・南海電鐵事業部　施工・向井組

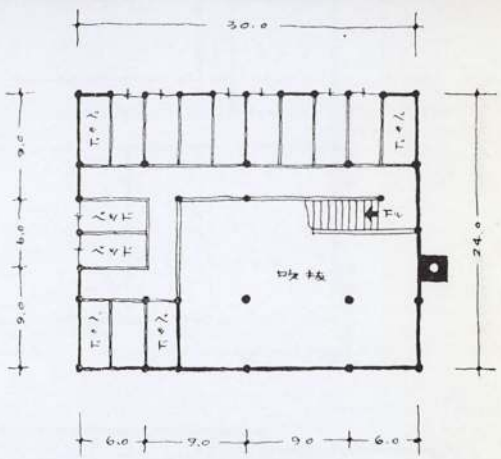




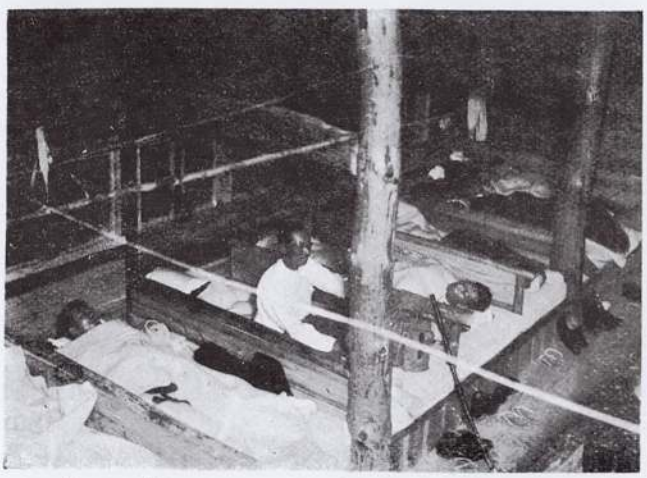
第2階平面圖（縮尺1:200）



正面外観



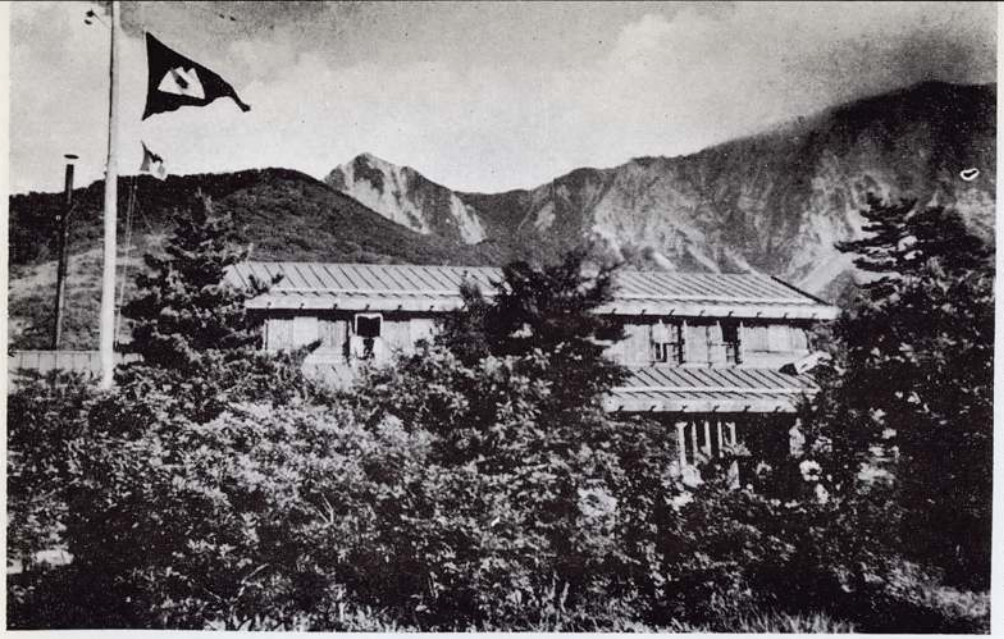
第2階平面圖



寝室



階下より寝室へ

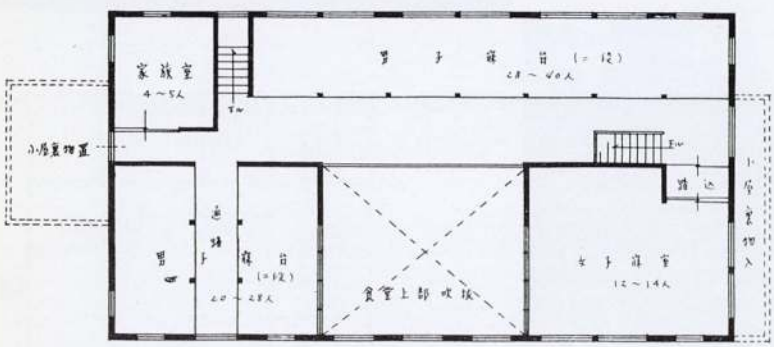


外　　觀

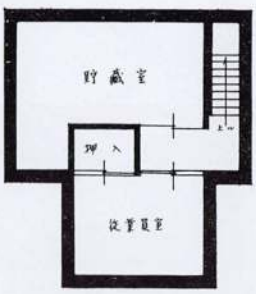
設　　備

◎一階　食堂兼談話室．賣店兼事務室．スキー置場．乾燥室．浴場．洗面所．便所（水洗式）．寫眞暗室．調理室．從事員寢室．ベランダ．其他．公衆電話．電燈（晝夜線）．水道（專用水道）

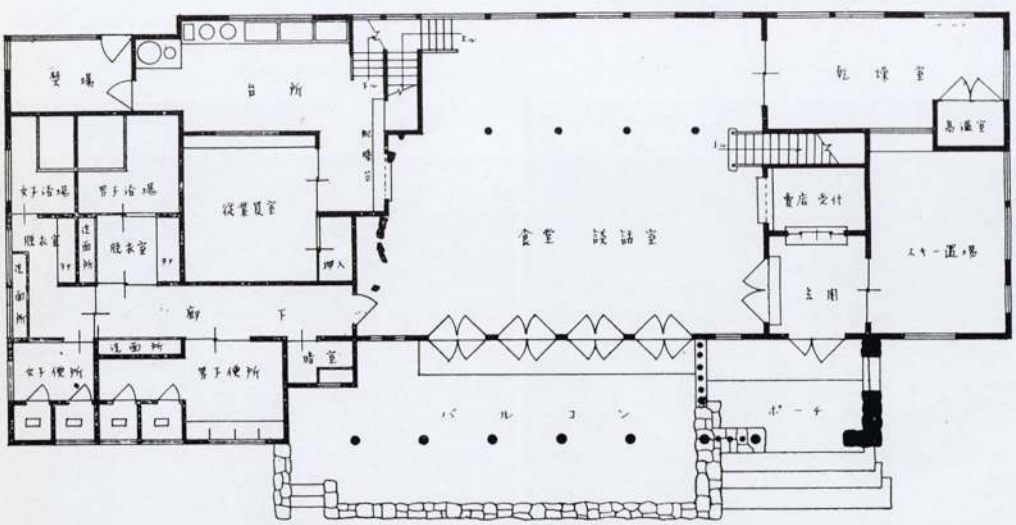
◎二階　客用寢室．（定員63名．臨時87名）和室．婦人寢室．家族室．各一室．洋室．上下二段寢臺三室



第 2 階平面圖

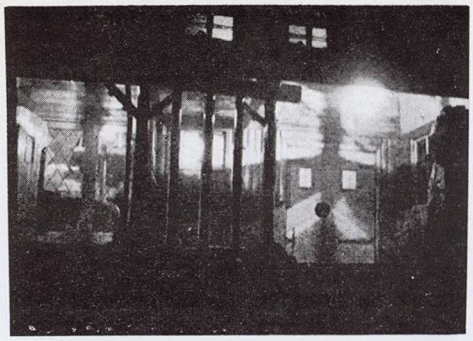


地階平面圖



第 1 階平面圖（縮尺1:200）

設計・大鐵工務部建築課　施工・宅和組



玄　　關



雪の外觀



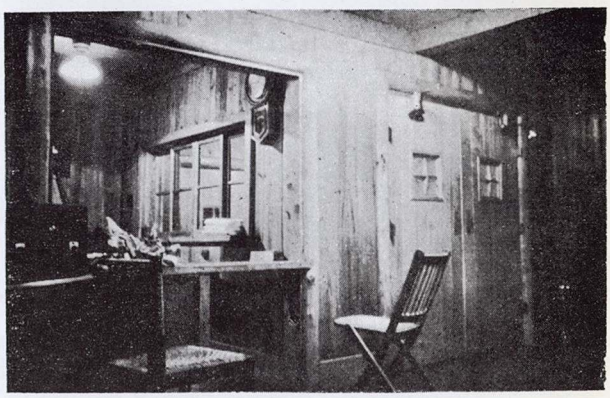
2階を見上げる



男子寢臺



談　話　室



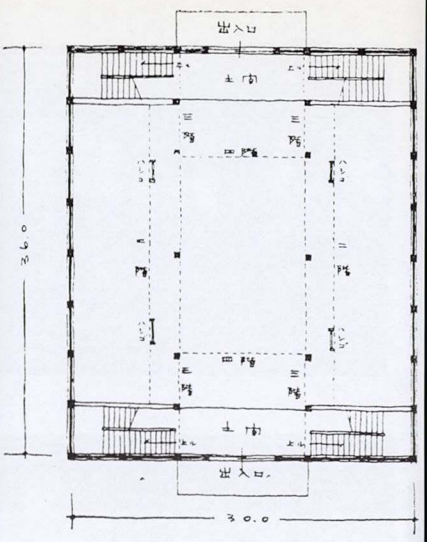
賣店・受付を見る（右手ドアーは玄關へ）

位　置	鳥取縣西伯郡大山村大字大山字上野原 （大山寺部落より東方600m）
構　造	木造2階建
1　階	148.40平方米
2　階	139.10平方米
地　階	37.80平方米
物　置	18.20平方米
計	343.50平方米

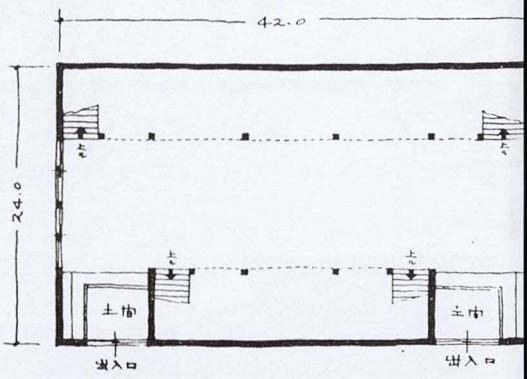
大　山・山の家（伯耆）　　設計・大鐵工務部建築課　施工・宅和組



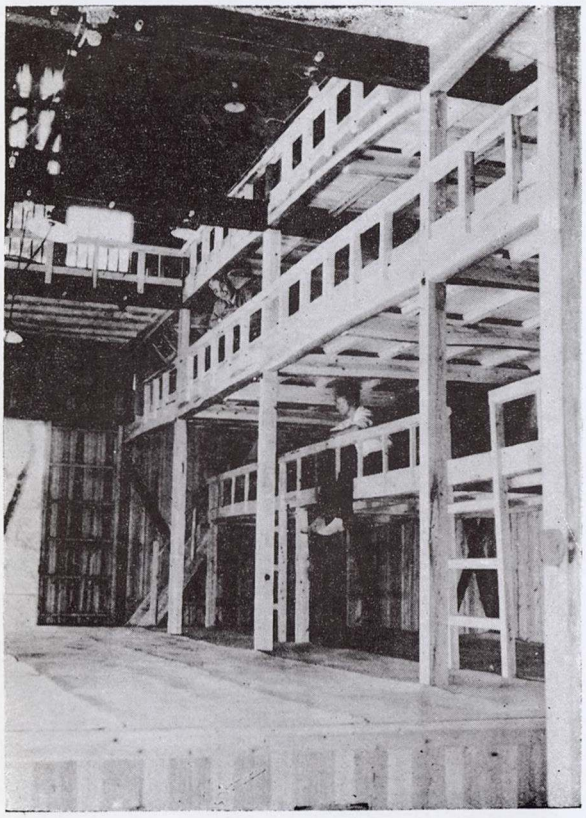
第 1 道 場 外 觀



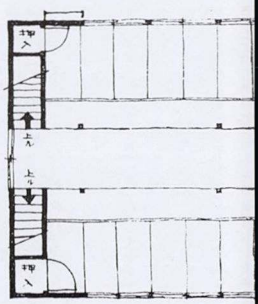
第1道場平面圖



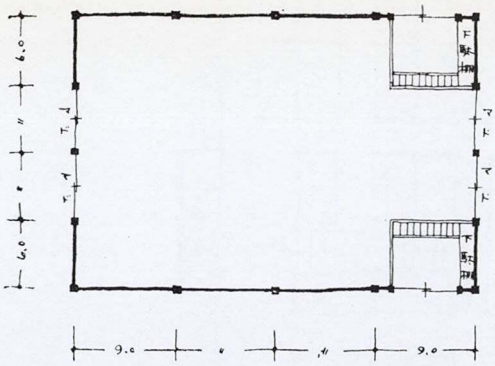
第 2 道 場 平 面 圖



第 1 道 場 內 部



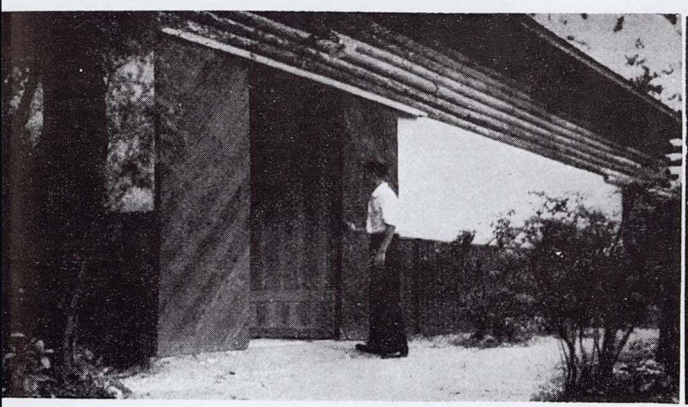
第1—第3道場　設計・本間乙彦　施工・北　組



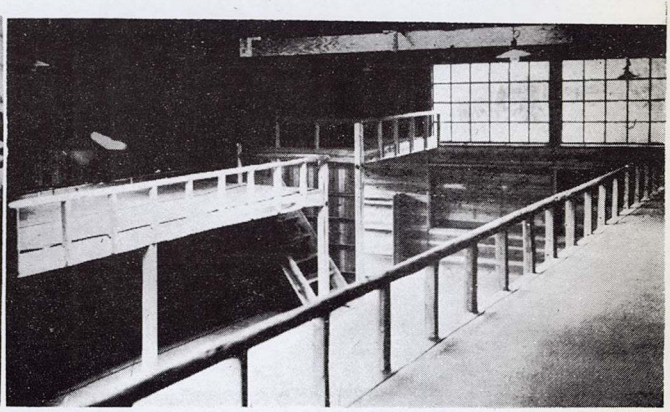
第 3 道場平面圖



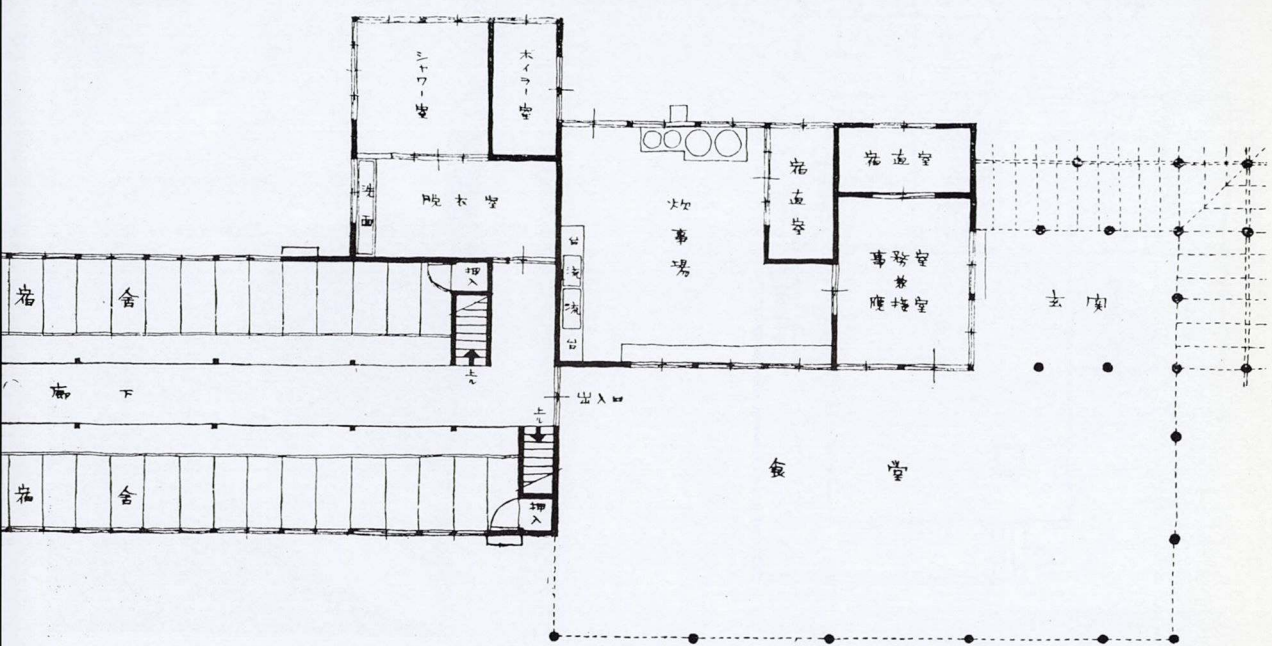
第 5 道場外觀



第 2 道場入口



第 2 道場內部

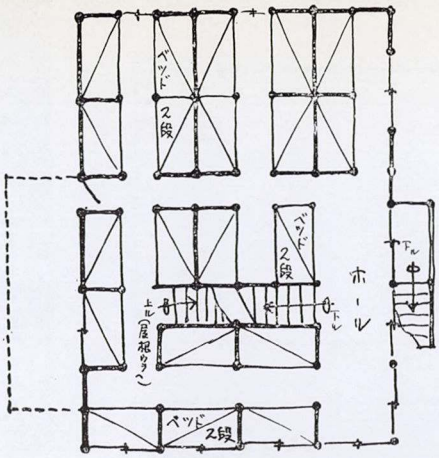


(縮尺1:200)

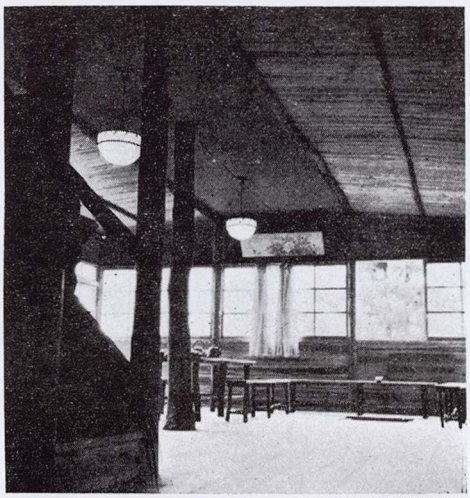
第 5 道場平面圖



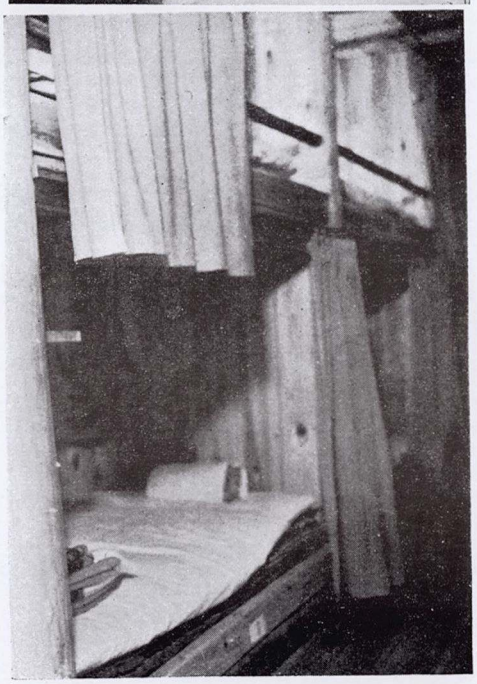
外　　觀



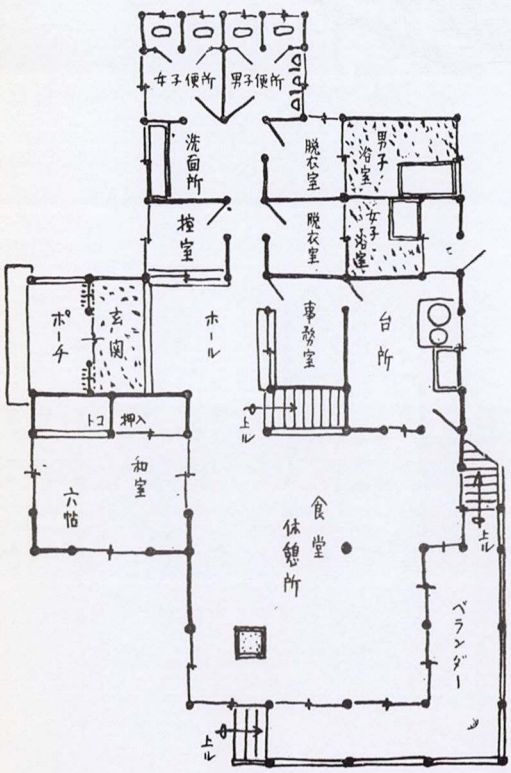
第２階平面圖



食堂を見る



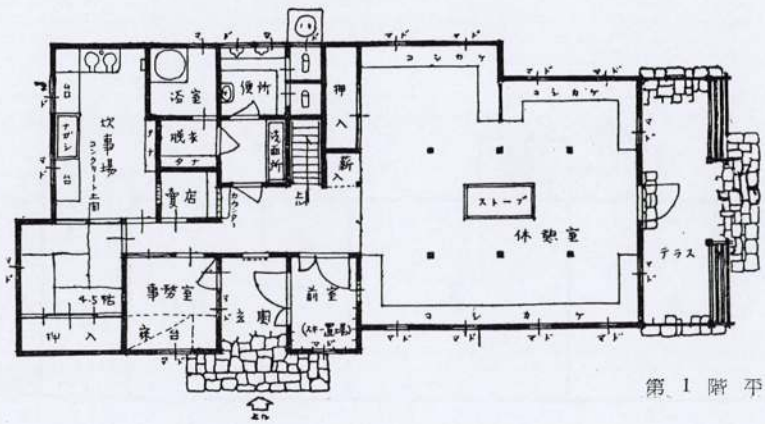
寢　　室



第１階平面圖（縮尺1:200）

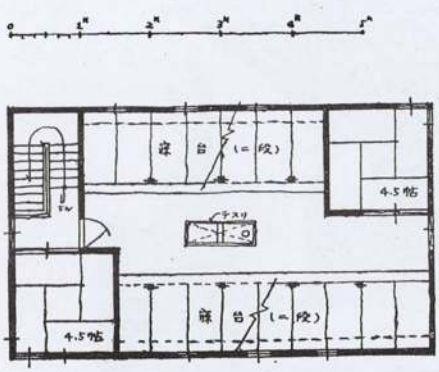


外觀透視圖

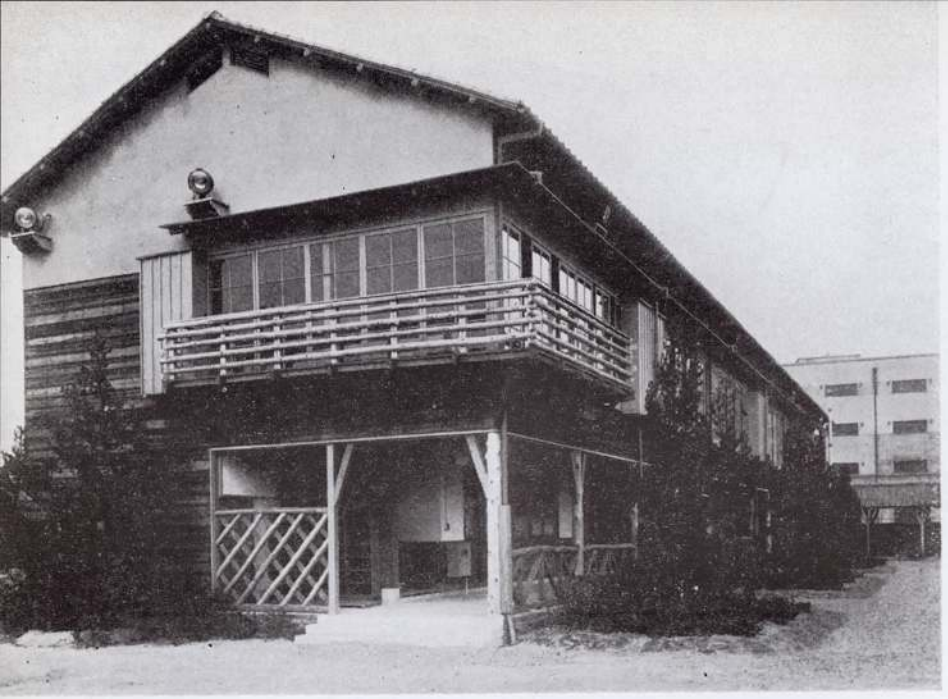


第 1 階 平 面 圖

比良山小屋	
	坪
一 階	38.20
二 階	21.00
中二階	10.00
延 坪	69.20



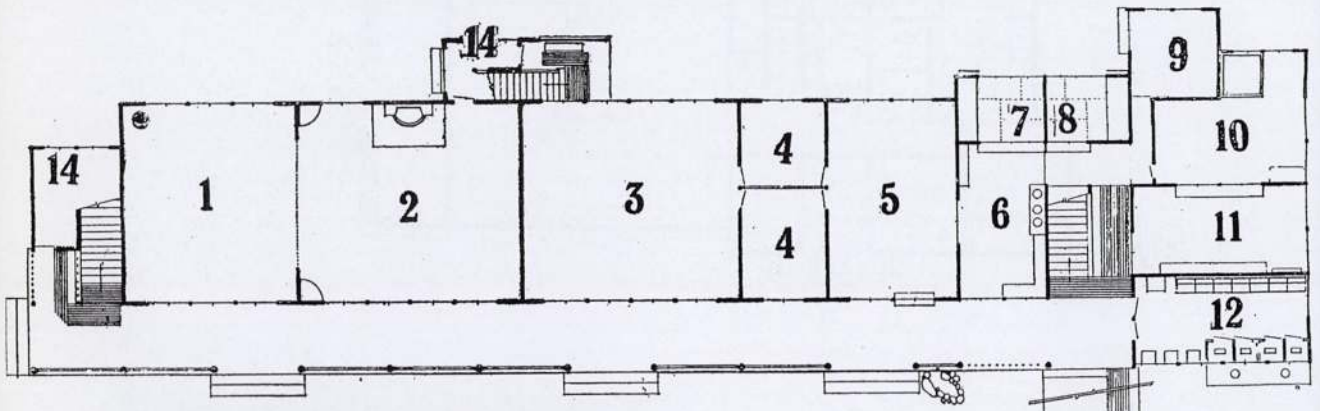
第 2 階 平 面 圖



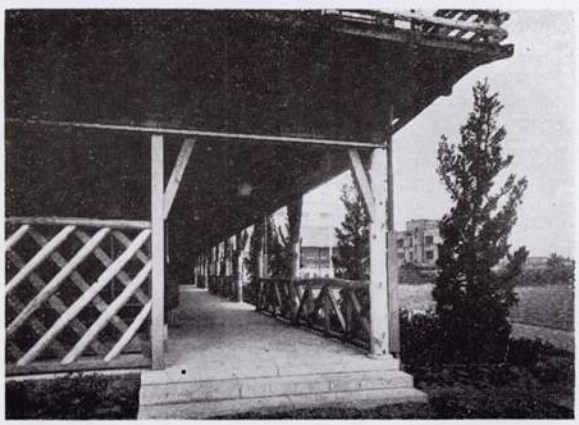
西　側　外　觀

1 階——

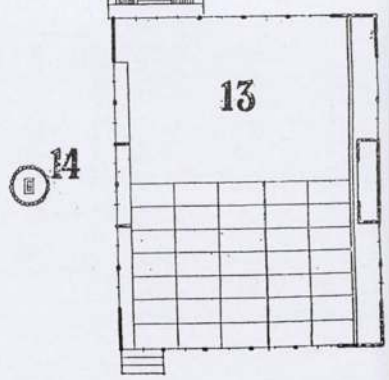
1. 娛　樂　室
2. 食　　堂
3. 讀　書　室
4. 應　接　室
5. 事　務　室
9. 炊　事　室
7. 使丁宿直室
8. 吏員宿直室
9. ボイラー室
10. 浴　　室
11. 脫　衣　室
12. 便　　所
13. 道　　場
14. 國旗掲揚柱



1 階 平 面 圖 (縮尺 1:300)



庭園よりの出入口

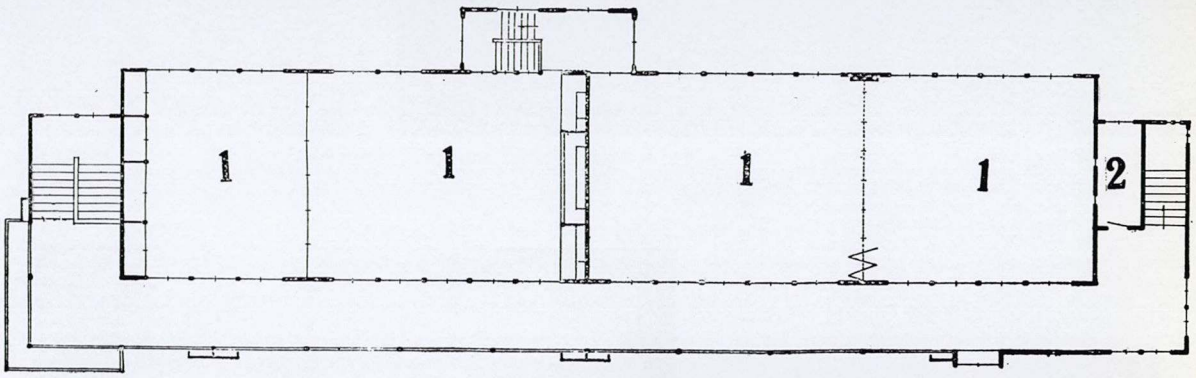


大阪市立店員道場

設計・大阪市建築部　施工・新工務店



全景



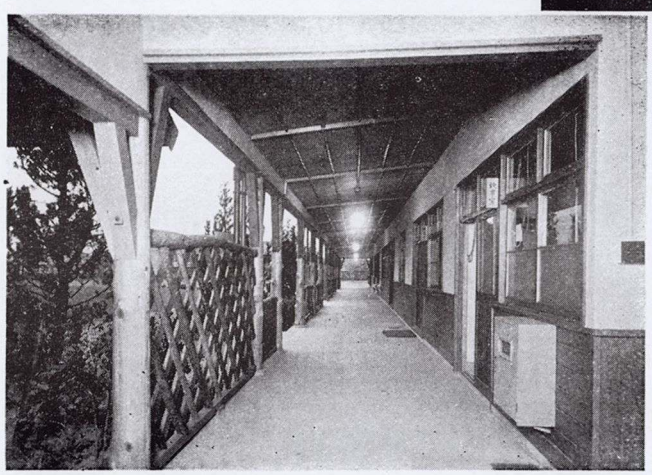
2階平面圖

2階——

1. 集會場
2. 映寫室

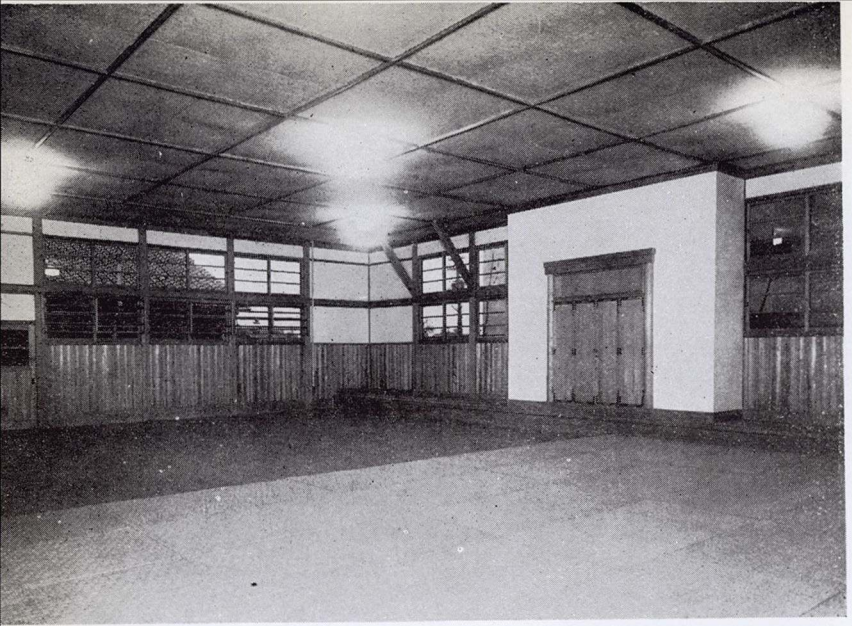


2階廊下



1階廊下

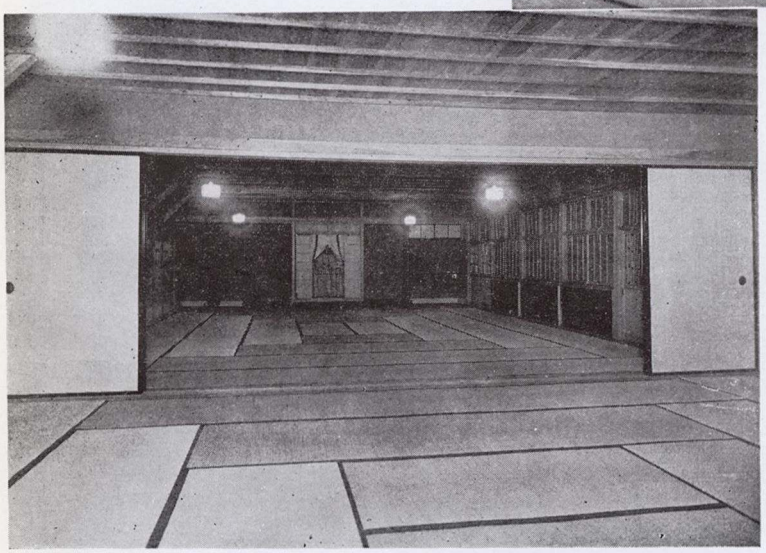
大阪市立店員道場　設計・大阪市建築部　施工・新工務店



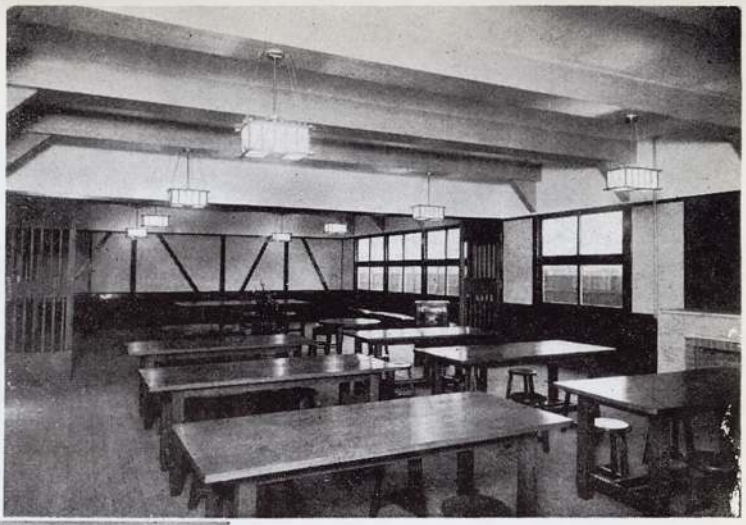
武　道　道　場

相　談　室

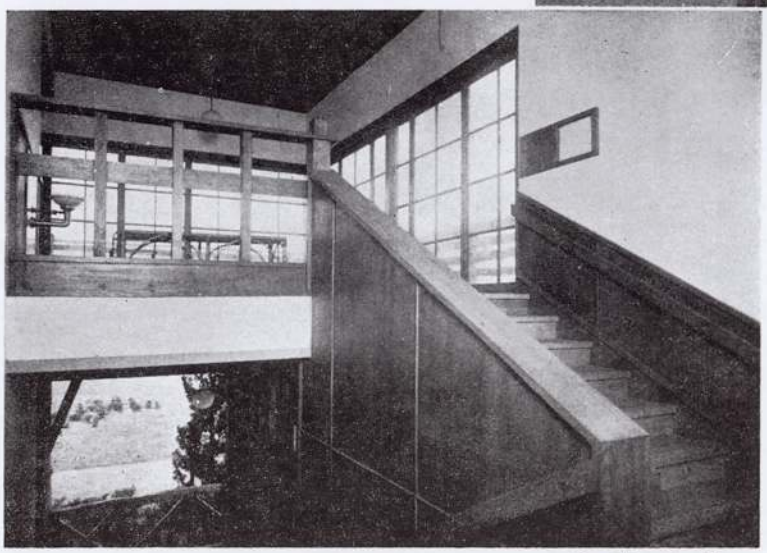




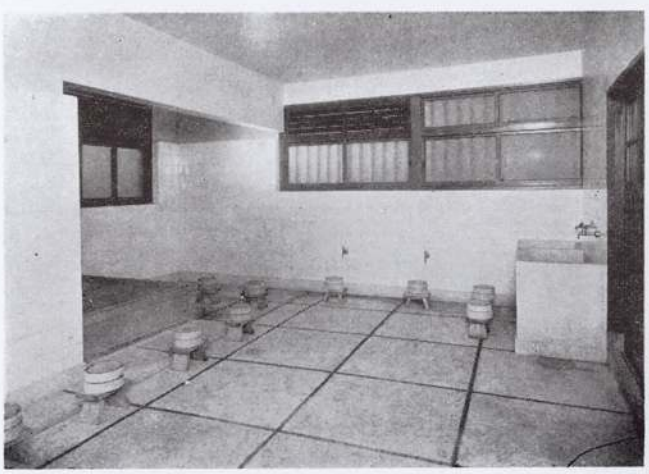
修　養　室



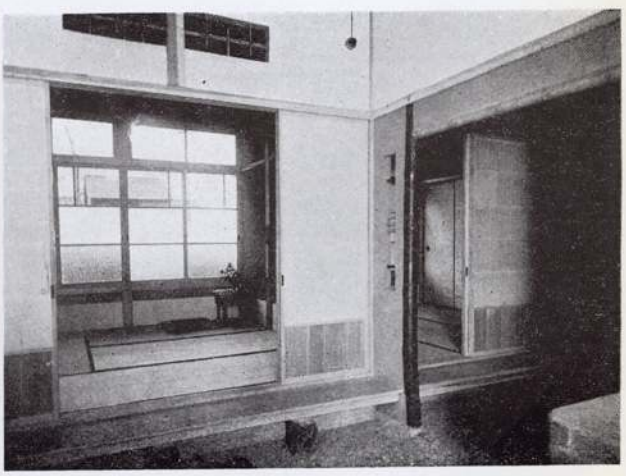
食堂兼娯樂室



西階段室



浴室

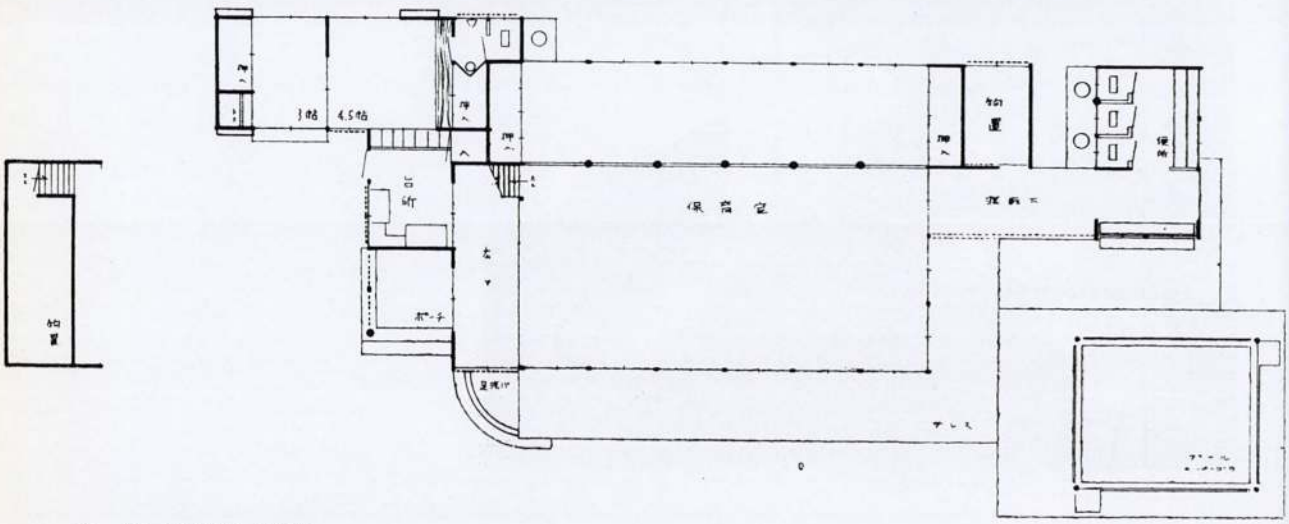


使丁宿直室

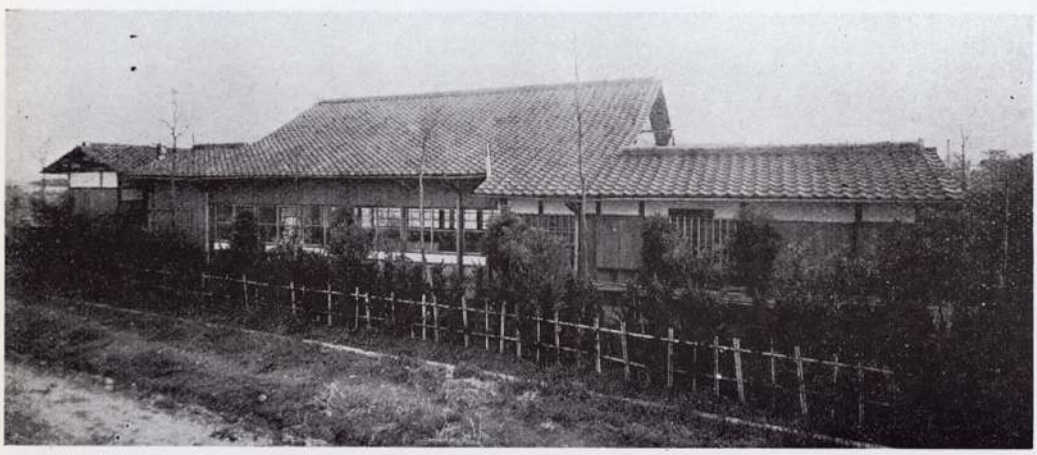
大阪市立店員道場　設計・大阪市建築部　施工・新工務店



南 側 外 觀



平 面 圖（縮尺 1:200）

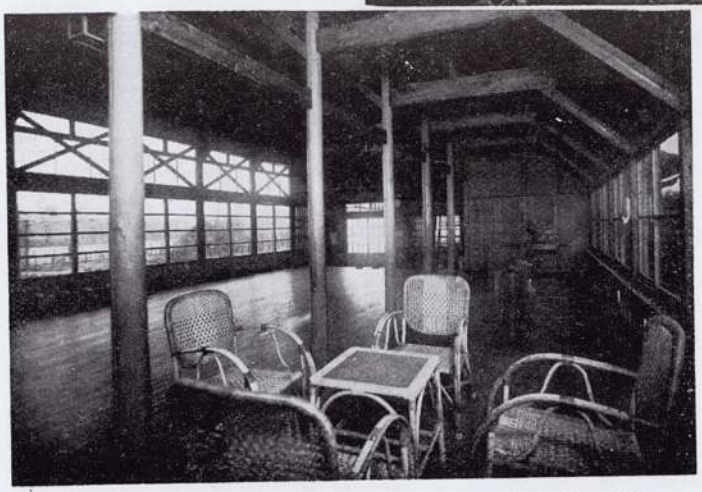


北 側 外 觀

大阪市立北郊外保育所　設計・大阪市建築部　施工・大橋新太郎



内　部（1）



内　部（2）

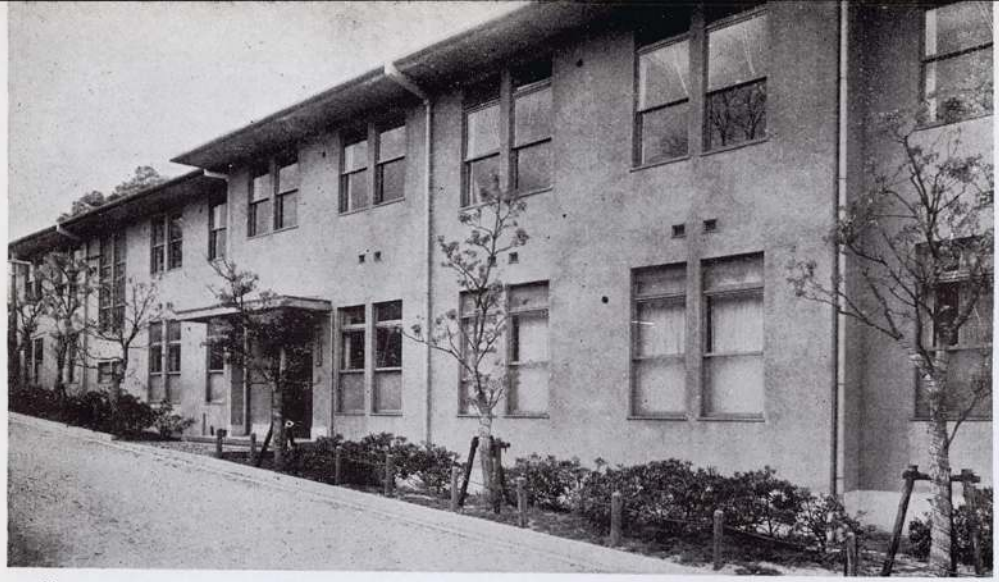
東側外觀





玄　關

大阪市立北郊外保育所　設計・大阪市建築部　施工・大橋新太郎



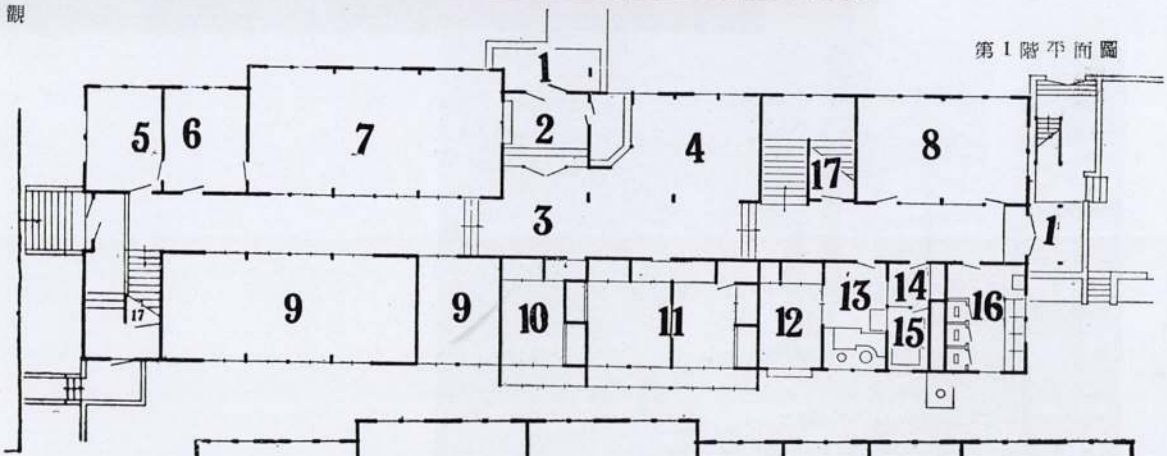
外　觀

平面圖說明

1 階——

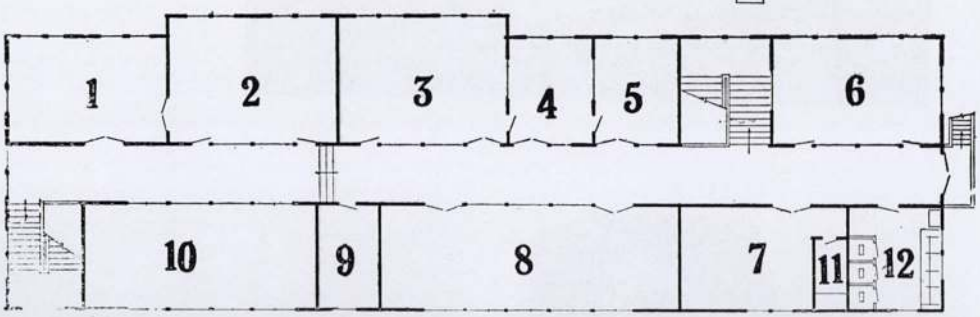
1. ポーチ
2. 玄關
3. ホール
4. 待合室
5. 應接室
6. 所長室
7. 事務室
8. 調査研究室
9. 豫備室
10. 宿直室
11. 休養室
12. 小使室
13. 炊事室
14. 脫衣室
15. 浴室
16. 便所

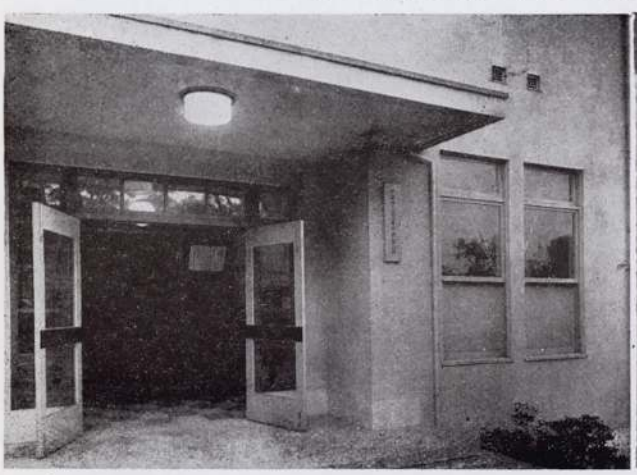
第 1 階平面圖



第 2 階平面圖

(縮尺1:200)





玄　關



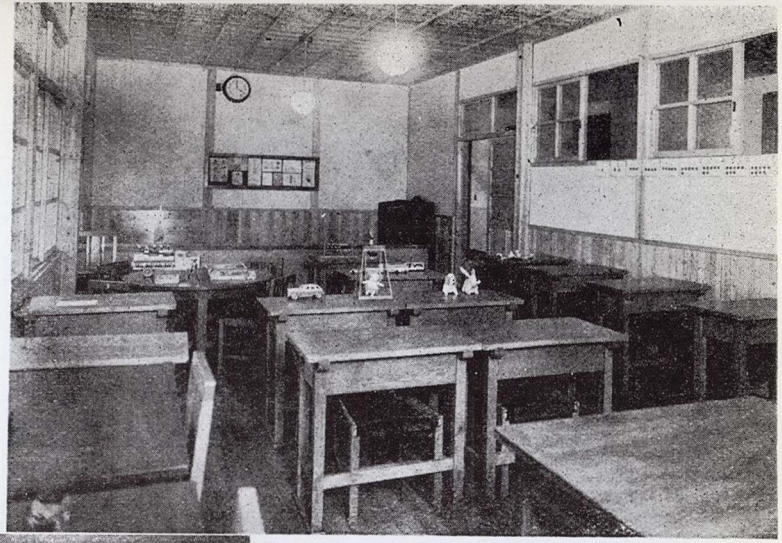
1 階廊下

大阪市立兒童教育相談所　設計・大阪市建築課　施工・森本組

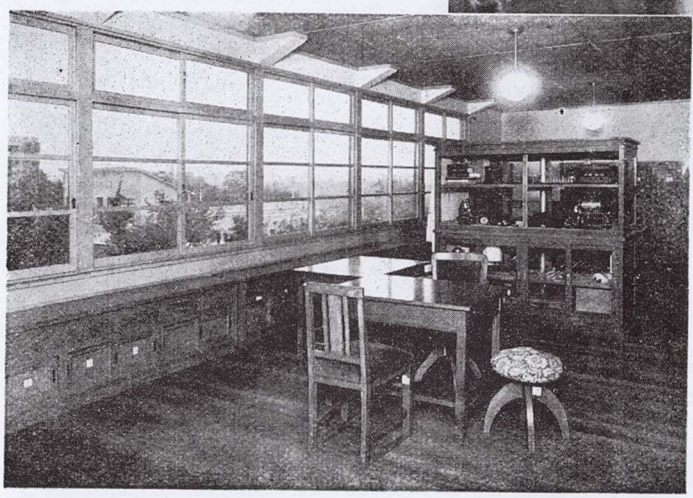
平面圖說明

2 階——

1. 會議室兼食堂
2. 圖書室
3. 檢査室
4. 診斷室
5. 豫診室
6. 醫師實驗室
7. X光線室
8. 機械實驗室
9. 暗室
10. 豫備室
11. 寫眞室
12. 便所



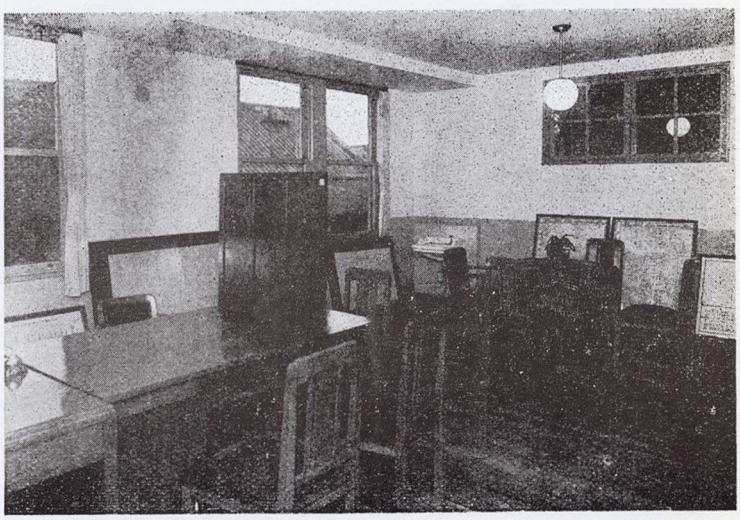
敎室



研究調査室



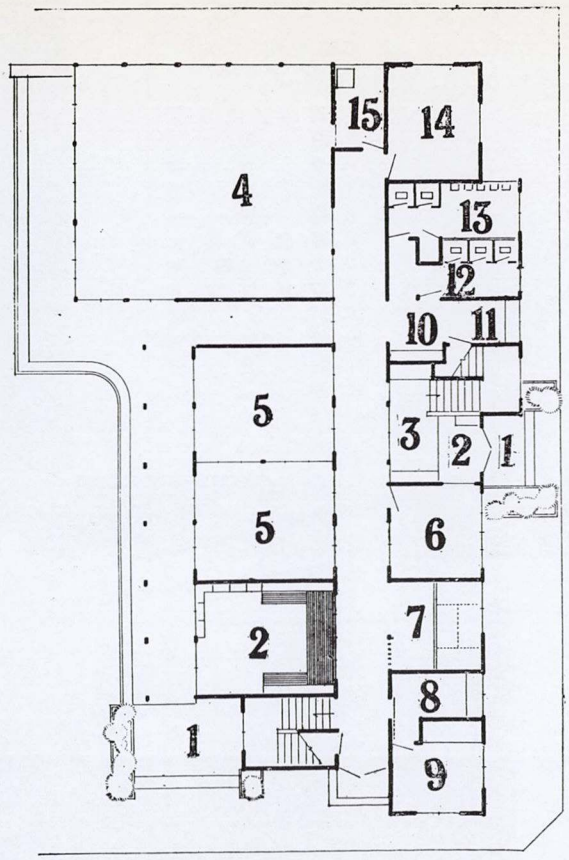
2 階應接室



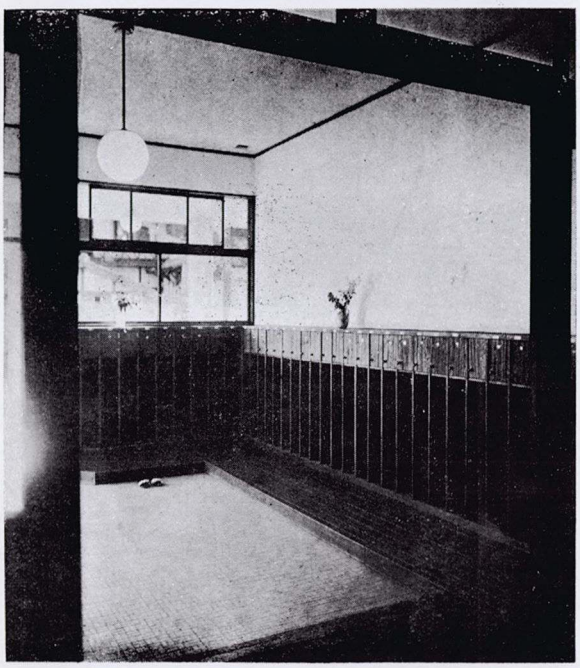
檢査室



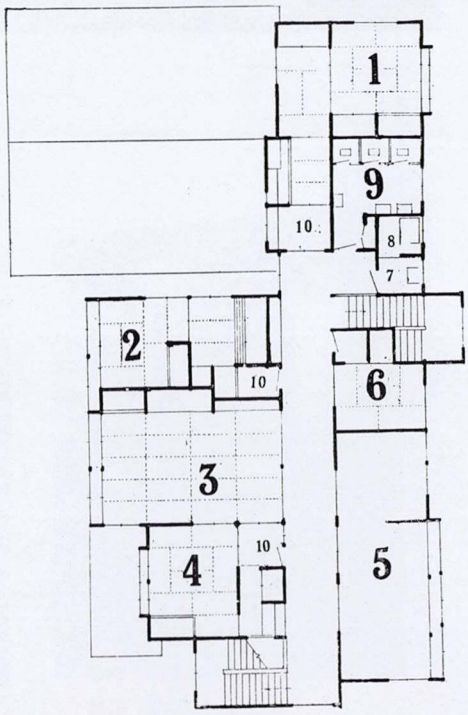
外　　觀



第 1 階 平 面 圖（縮尺1：300）



玄　　關



第 2 階 平 面 圖

今 出 川 幼 稚 園（京都）　設計・中西六郎建築事務所　施工・ミラノ工務店

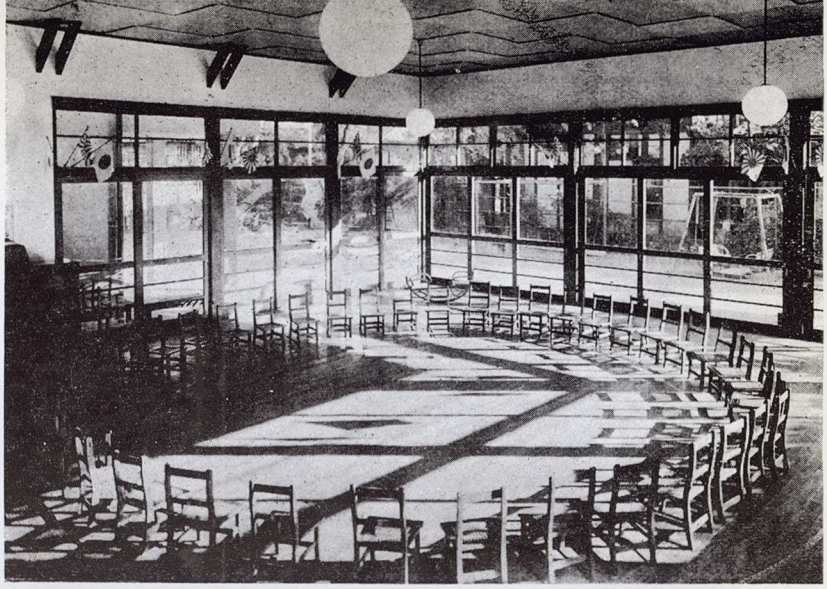
平面圖說明

1階——

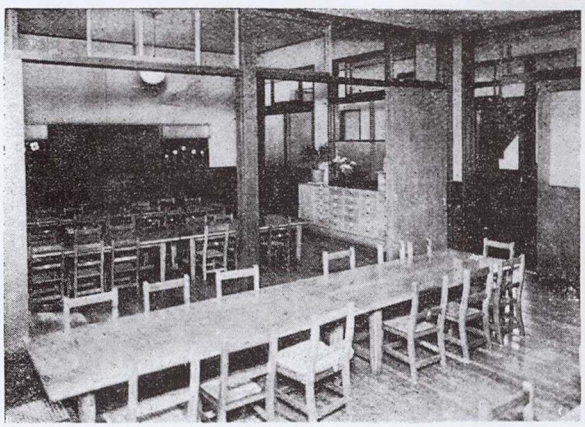
1. ポーチ
2. 玄關
3. ホール
4. 遊戲室
5. 保育室
6. 保姆室
7. 待合室
8. 炊事室
9. 小便室
10. 男子手洗・水呑み場
11. 女子手洗・水呑み場
12. 女子便所
13. 男子便所
14. 倉庫
15. 洗濯場

2階——

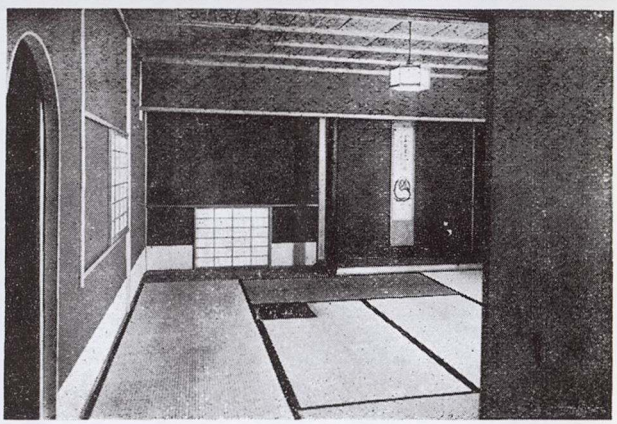
1. 園長住居
2. 保姆住居
3. 裁縫ミシン講習室
4. 生花茶講習室
5. 料理講習室
6. 豫備室
7. 洗面所
8. 浴室
9. 便所
10. 踏込み



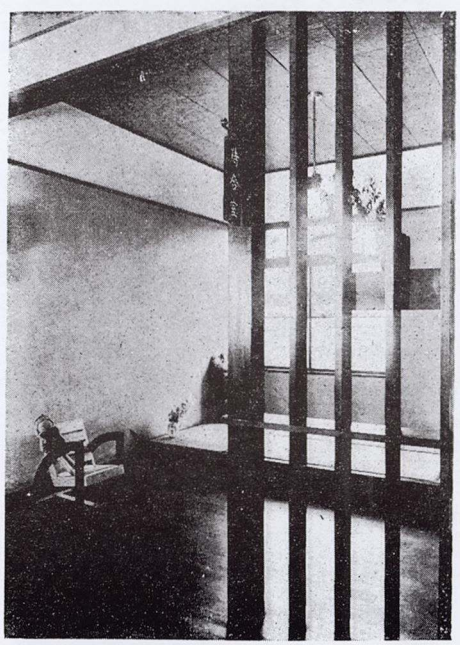
遊戲室



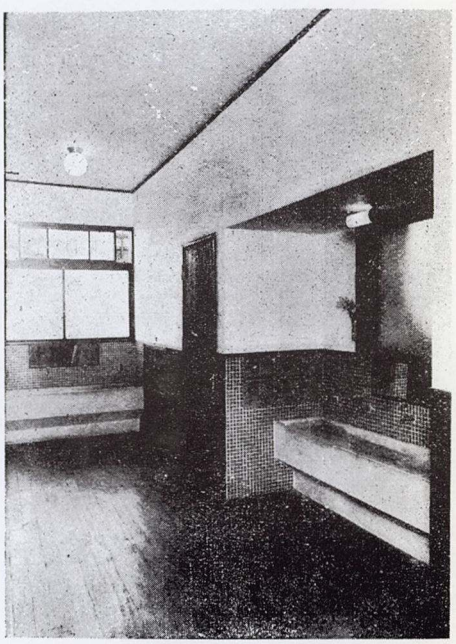
教室



生花・茶講習室



待合室

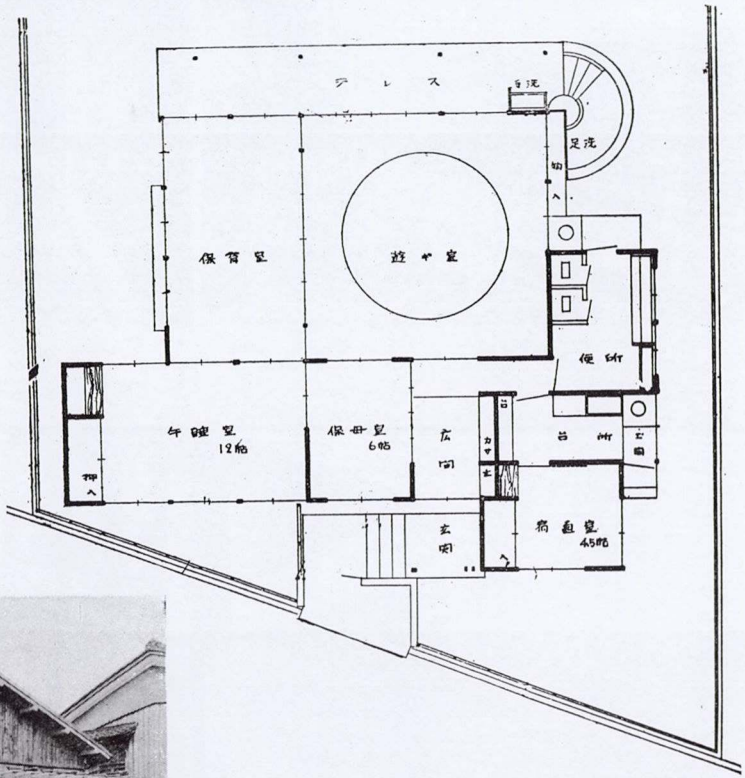


洗面所

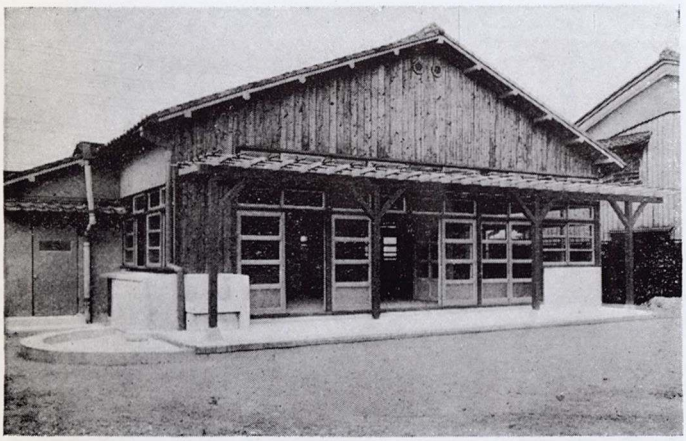
今出川幼稚園（京都）　設計・中西六郎建築事務所　施工・ミラノ工務店



外　　觀

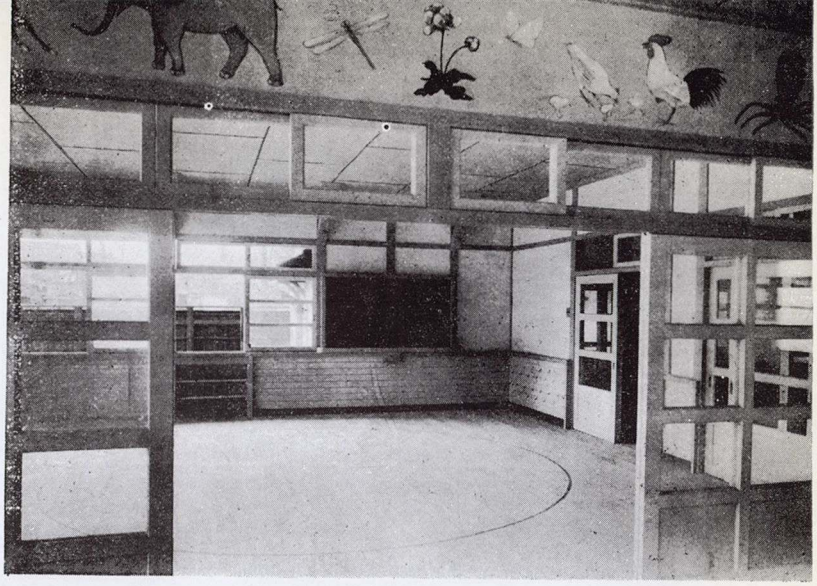


平面圖（縮尺 1:200）

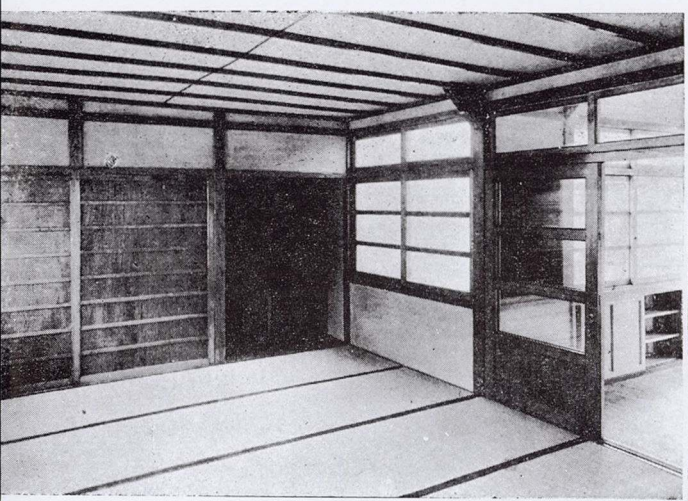


背面外觀

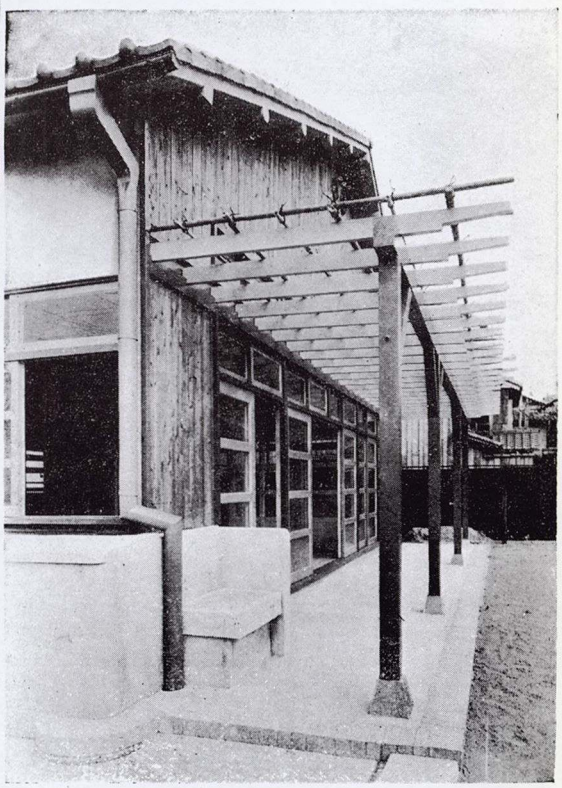
黃金地托兒所（大阪市）　設計・市建築部　施工・友田榮太郎



遊戯室を見る

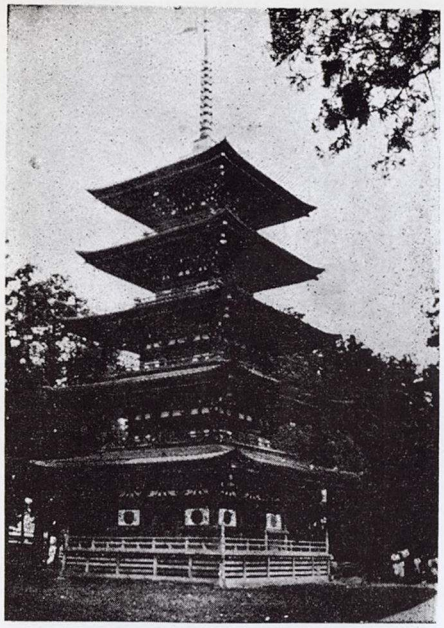


午睡室



テラスを見る

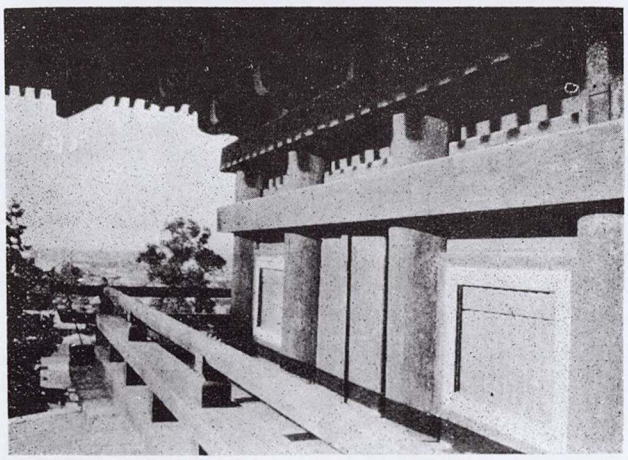
黄金地托兒所（大阪市）　設計・市建築部　施工・友田榮太郎



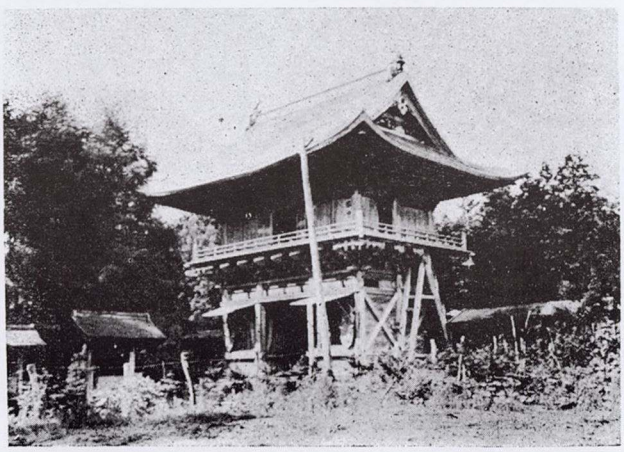
1. 最勝院五重塔（弘前）江戸時代

北國の古建築

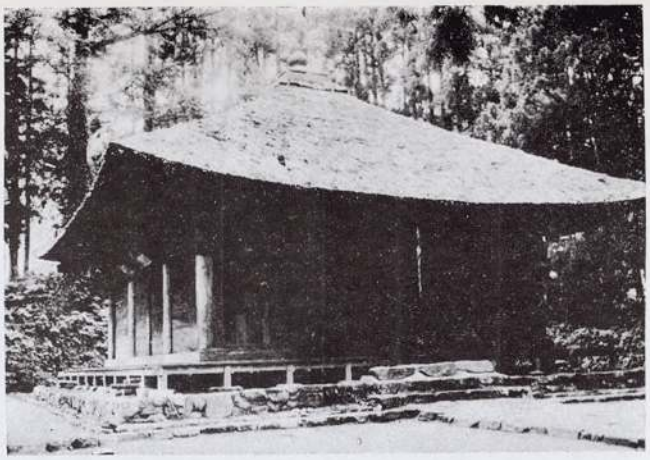
北は青森の端から，南は九州の涯まで．今の世でも距離は遠い。交通の不便な數百年の昔にあつては．今の東京からローマはおろか．北極から南極へ行く位の隔りはあつた。然も兩極端の建築には殆ど距離の差はなく．唯だ時代の差ばかりが認められる。時代が新しくなるに從つて漸く地方によく建築の差が著しくなつてくる。それは古い時代程建築．技藝が近畿の直接指導下にあつたからである。併し今．南に北に古建築を尋ねて巡る人々は塔の斗に．堂の屋根に．時代と樣式とを超越した一種の風土的雰圍氣を感ずる。南國の陽氣さ．北國のもの寂びた山河の容相に觸れた旅人の感慨とばかりは云へないものがある。



2. 最勝院塔婆第5層
この塔は江戸時代の建築とは言ふものゝ稀に見る秀拔な構造形式を備へ殊に心柱の構造に特色がある。

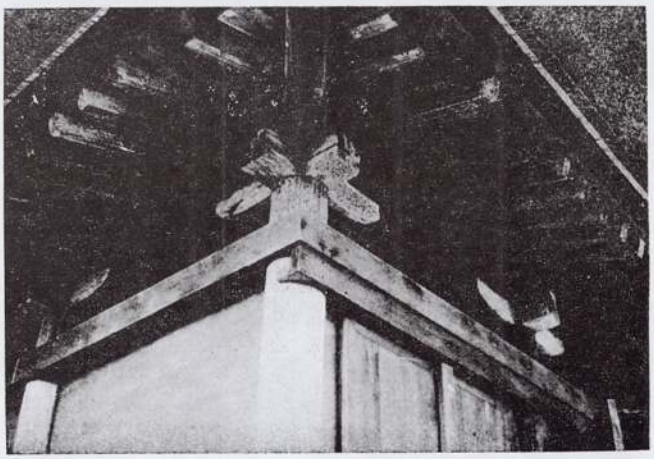


3. 長勝寺三門（弘前）
江戸初期の建築上層に上る階段のところには普通禪刹の三門にある如き山廊と稱する附屬建物が附いてゐないのは異色である。



4. 高藏寺阿彌陀堂（宮城縣）

平安朝の頃阿彌陀佛信仰のために阿彌陀堂の建立せられることが多くその今に遺るもの．平等院鳳凰堂．法界寺阿彌陀堂．往生極樂院本堂．淨瑠璃寺本堂など京都附近にあるものから北は中尊寺金色堂．西は豐後の富貴寺大堂に至るまで．その數十指に餘る。高藏寺阿彌陀堂もその一つで簡素な外形を持ち乍ら．その軒反りに棰．肘木の一つ一つに秀麗な平安建築の特色が示されてゐる。



5. 同上．軒廻り細部を示す。



6. 八幡宮神社社殿（弘前）

本殿は三間社流造．玉垣をめぐらし中門を備ふ。蟇股．手挾等．細部細部には室町時代初期の特色ある彫刻が行はれ．椽側腰組斗栱にも獨特の手法が見られ．變化ある張やかな意匠の中にも．北國らしい一抹の詫しさを持つてゐる。



寧樂屋家具裝飾店

大阪市西區南堀江通1丁目34番地
（木綿橋電停前）
電話難波（64）2663・7932

ノボ アルミナセメント
超高級 耐鹹 耐寒 耐火
六時間コンクリート
大阪窯業セメント株式會社
6 HOURS CONCRETE
1:2:4 水比65 6時間 217㎏/㎠ 28日 410㎏/㎠
1:2:4 水比45 6時間 300㎏/㎠ 28日 580㎏/㎠
施工6時間後
完全使用が
出來ます

「國民住居」の提案

旗 咲 平※

此處に謂ふ「國民住居」の提案とは、最近各誌上に、勞務者住宅の大量建設の問題が屢々論じられ又其に關聯して、勞務者住宅の標準化が同時に提唱されて居るが、其提唱に應じて作成された住居標準の試案の提示である。

住宅問題の發生

今次事變も既に三年有餘を經過し、その推移と共に、戰時體制も漸く其形を整へんとし、生産力の擴充も益々强化さるべき時に當つて、その根元たる勞働力の維持確保に絶體必要條件である住居の夥しき不足を見るに至つた事は、甚だ遺憾な事と言はねばならない。

人口の都市への集中傾向は、さなきだに既定の事實として萬人の認むる處であるのに、事變の發生と共に當然考へ得られる大工業地帶の戰時體制に應ずべく、急激なる人口流入をみるのは必然の現象であつて、其に對應して住宅難の發生を未然に防ぐべき何等かの策が實施さるべきであつた。

過ぐる第一次歐洲大戰に際して、各國の嘗めた苦い經驗もあり、一部先覺者は今日あるを先見して、事前に警告したのであるが、適切な對策が講じられなかつたか、或は又、計畫されたにしても何等かの理由で實現が遲れた爲か、何れにしても有効なる實施を見なかつた中に、都市工業地域は人口の急激なる增大につれて、空家數は極度に減少し、加ふるに新規の貸家建築も亦材料手間の不足と建築費の騰貴から供給極めて不圓滑となり、人口の增大に伴ふ能はず、此處に工業地帶の住居は絶體數の不足を來たし、其がひいては都市全般の住居拂底を見るに至つた。

然も人口の集中は依然停ることなく、住居の不足は益々增大する傾向にある。(註1)

隨つて今日既に市民層の一部に於て、然も其が聖戰遂行の原動力ともなるべき部門に於て、驚くべき密住生活が始つてゐる。(註2)

之を此儘放任する時は、戰時下生産力の低下、國民體力の下向は明白であつて、ひいては風紀保安の惡化、道德心の低下等、其他直接間接に齎らす影響は誠に寒心に堪えざるもの多く、早急に有効適切なる對策が講じられねばならない。

×

緩和對策

之等に對する對策として、一方に於て、都市への人口集中を緩和すべく、大工場の地方分散化、

---

(1)

例へば大阪市に就て見ても、第1表の如く昭和9年の關西風水害復興事業に伴ふ人口の急激な流入の後、引續いで戰時生産擴充期に入つたため、依然として人口增加の急騰を續けてゐるに對して、住居の增加實數は、昭和11年後、反つて低減の現象を見せてゐる。隨つて、その當然の歸結として、空家數の漸減となり、昭和14年末には、遂に住居數100に對し空家數は1.08と言ふ未曾有の低率を示すに至り、ひいては10萬餘の寄寓世帶數(世帶數から實居住々居數を減じた數)に對して、6千餘軒の空家しか殘つてゐないと言ふ憂ふべき現狀に迄押詰められてしまつたのである。(第2圖表)

此事は、今日の「住宅難」なる言葉の內容が、數年以前迄とは全く異つた切實な意味を有つ事に注意しなければならない。在來の「住宅難」とは、一方に空家が澤山あるにも關らず、低收入階級が其低收入の故に「住むべき家」を見出し得ず、同居、雜居から甚しきは堀立小屋に至るまでの、水準以下の生活を餘儀なくされた事を言ふのであるが、今日の「住宅難」は住居增數の減少傾向と空家の皆無狀態による寄寓世帶數の增大を招來する量的の「住宅難」に轉換しつゝある。

(註2)

單に純經濟的理由から來る「密住」ならば、其は低收入者の常として、昔から見られる所である。然し、今此處で問題になる「密住」は必ずしも經濟的な主因でなく——巷間に傳へ聞く一部殷賑產業勞働者の所謂インフレ景氣から推斷しても——文字通りに、「入るべき家」が無い爲に、餘儀なく行はれる同居生活の齎らす「密住」を指すのである。在來の「密住」には「密住」する階級があつた。今日に於ては、特定の階級のみが「密住」するのではなく、轉勤、移動に伴ふ技師や高級社員に對してすらも、住居の不足は「密住」を强要する事もある。

※國民住居研究會員(在大阪)

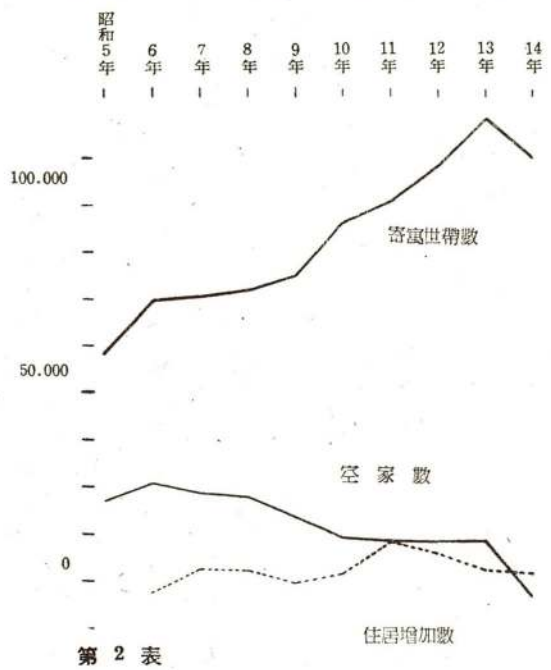
第 1 表　大阪市に於ける人口と住居の狀況

項目 / 年	人口	世帶數	住宅數	空家數	實居住宅數	住宅數 世帶一〇〇に對する	空家數 住宅一〇〇に對する	人口 / 世帶數	人口 / 實居住宅數
昭和5年	2.453.573	541,033	509.874	26.963	482.911	94.24	5.29	4.55	5.11
同 6年	2.519.500	556.200	517.162	30.615	486.511	92.98	5.93	4.53	5.18
同 7年	2.586.300	571,100	529.637	28.655	500.982	92.74	5.41	4.52	5.15
同 8年	2.654.000	585,600	542.062	28.088	513.974	92.57	5.18	4.54	5.19
同 9年	2.722.700	602.600	551.887	23.946	527.941	91.58	4.34	4.51	5.16
同 10年	2.989.874	630,232	563.358	19.523	543.835	89.39	3.47	4.73	5.51
同 11年	3.101.900	653.900	582.289	18.986	563.303	89.05	3.26	4.77	5.54
同 12年	3.213.000	677,800	598.341	18.678	579.663	88.28	3.12	4.75	5.55
同 13年	3.321.200	700.100	610.599	18.802	591.797	87.21	3.08	4.75	5.62
同 14年	3.394.200	715.500	622.446	6.743	615.703	86.99	1.08	*1 4.75	*2 5.53

本表は大阪市統計書に依る。

※1 (人口/世帶)の增大は，新世帶の減少か，獨身者の流入かを示すものと見て大過なかるべく，新世帶の增加は結婚數による時は，事實によつて，決して增大はしてゐないとするならば，獨身者の流入（其も主として直接間接軍需工業關係の流入）であらう。

※2 (人口/實居住々宅)の增大は何れにしても平均して密住度が濃くなつて行く傾向を示すものである。



第 2 表

農村に於ける工業の振興、衛星都市の發展等が圖られつつあり、同時に他方では都市に於ける住宅難の直接的解決への努力が拂はれんとしてゐる。

本年七月厚生大臣を會長とする「住宅對策委員會」が官制に依つて開設され、各地方自治體も亦夫々必要なる勞務者住居の所要數を出して、其建設計畫を實行の方向に移しつつある。

建築學會も「住宅問題委員會」を設け、當局に「住宅緊急對策に關する建議書」を提出して次の三項目を强調するところがあつた。

(1) 住宅供給を目的とする政府の代行機關として特殊の法人を設立すること。

(2) 一定數以上の勞務者を雇傭する事業主に對し必要と認むる住宅の供給を命ずること。

(3) 住宅建築資材を綜合的且一元的に配給する機構を整備すること。

又最近の新聞紙の報ずる處によれば、豫て企畫院にて住宅の供給確保は喫緊の要務であると厚生

省と協力して根本方針ならびにその具體案の作成を急いでゐたが、漸くその決定を見たので經濟閣僚懇談會にて審議の上「國民生活確保に關する國策」の一として閣議にかけることになつた。その大綱は

(1) 國土計畫上國防產業及び國民生活安定上の見地より住宅の分布ならびに供給に萬全を期す

(2) 高度國防國家建設のため生產力殊に重工業部門の生產力を確保するため重工業地帶の住宅供給に重點を置く。

(3) 住宅の供給機關としては國家地方廳および民間機關をしてこれに當らしめ此等に對しては資金供給資材割當につき特別の便宜を與へる

などを骨子とするものと見られ、これに基き厚生省案として次の如き具體的計劃が考慮せられてゐる。

供給住宅數量

1. 全國を通じて30萬戸
1. 昭和16年～20年の5ヶ年計劃
1. 15萬戸を國家で、殘り15萬戸を民間機關で建築供給する。

住宅供給機關

1. 政府及び地方廳
1. 資本金1億圓の住宅營團（假稱）を新設、國家において全額を出資しかつ諸般の特典を給與する
1. 住宅の供給を受くるもの、從業せる鑛山、工場等の經營者にして政府の指定せるもの

供給住宅種類

1. 獨立家屋及び共同使用家屋、世帶用家屋及び獨身者用家屋など
1. 構造は木造

住宅建築に對する國家助成

1. 資材については農林省と協議のうへ森林伐採、また商工省と協議のうへ、釘、金具の供給などにつき便宜を與へる
1. 資金については政府保證で低利資金の融通を行ふ

となつてゐる。

又、建築關係法規の方からは、臨時資金調整法木造建物建築統制規則、地代家賃統制令等が發布されて、戰時下物資節約の建前から大建築物の抑制をなし同時に小住宅建設機運の作興への側面的効果を果しつつある。

×

住居水準の確保

今や、住居の大量建設の機は熟したのである。今迄の範圍では住居建設が人口增加に追付かなかつたのであるが、今から其に追付くべく全國各地に住居建設が將に再出發しやうとしてゐる。然し乍ら、小住居不足に對する一時的對應策として、且つ其を戰時下資材の節約と結び付けて、粗惡な住居を速製する時は、恐らく量的解決すらも終了しない中に、更に大なる弊害が到來するのではなからうか。我々の東亞建設が、此處少くとも十年二十年の長期に亘る事を思ふ時、粗惡住居から再生產される國民一般の體力水準が、粗惡建築の齎らす不健全、非衞生に由つて、永い間に不識々々居住者の身心を蝕むに至ることを知るならば、今日粗惡住居に依る彌縫策的解決なるものは、結果的にみて、單に「節約」の本意に反するのみでなく、將來の東亞建設に大障害を來たす恐るべき禍根を殘すものであると斷言したい。

故に今後建設さるべき住居は、必然、量的解決と同時に質的向上に就ても併せ解決するものでなければならない。此住居の質的向上こそが、我高度國防國家としての重要厚生施策ではあるまいか。

此意味に於て、大量補給に先立つて優秀なる住居標準が設計され、充分なる檢討が行はれなければならない。此處に提示した (い)(ろ)(は)(に)(ほ)の「國民住居」五種はその一試案である。

×

國民住居の目標

現狀に即した我々建築技術者のなすべきことが先づ國民住居の原型的規模の追求であることは、屢々國民住居の提唱者に依つて指示されて來たが此原型的規模とは家族構成に對する最小限の居住面積と建築構成を意味するのであつて、其は又、國民生活の理念を高度の翼贊生活に置いた、而も家族生活に齟齬を來たさない最低度の厚生住居の構成要素でなければならない。

本試案は此主旨から發足し、その計畫過程に於て、終始技術的經濟面に配慮しつつ、飽迄も即實的な質實爽明な厚生住居の確立を第一目標に置いた。

家族構成より住居標準へ

先づ色々な家族生活を多角的に檢討した結果、即實的な疊の生活樣式の存續性を肯定し、三帖、四帖半、六帖の單位住居面積を組合せた。必要且

家族構成					必要にして充分なる室數						其他		型式
夫婦	老人	其他	子供	計	2帖	3	4½	6	8	計	押入（奥行3尺）	板間（奥行1.5尺）	
											K	K	
○○			●	3			1	1		2	2.0	1.0	いい
○○			●●	4			1	1		2	2.0	1.0	いい
○○			●●●	5			1	1		2	2.0	1.0	いい
○○			●●●●	6		1	1	1		3	2.0	2.0	ろ
○○			●●●●●	7		1	1	1		3	2.0	2.0	ろ
○○	●		●	4		1	1	1		3	2.0	2.0	ろ
○○	●		●●	5		1	1	1		3	2.0	2.0	ろ
○○	●		●●●	6		1	1	1		3	2.0	2.0	ろ
○○	●		●●●●	7		1	1	1		3	2.0	2.0	ろ
○○	●		●●●●●	8		1	2	1		4	2.5	2.0	は
○○	●●		●	5		1	1	1		3	2.0	2.0	ろ
○○	●●		●●	6		1	1	1		3	2.0	2.0	ろ
○○	●●		●●●	7		1	2	1		4	2.5	2.0	は
○○	●●		●●●●	8		1	2	1		4	2.5	2.0	は
○○	●●		●●●●●	9		1	1	2		4	3.0	2.0	に
○○	●●	○	●	6		1	2	1		4	2.5	2.0	は
○○	●●	○	●●	7		1	2	1		4	2.5	2.0	は
○○	●●	○	●●●	8		1	1	2		4	3.0	2.0	に
○○	●●	○	●●●●	9		1	1	2		4	3.0	2.0	に
○○	●●	○	●●●●●	10		1	2	2		5	3.0	2.0	ほ

第3表・家族構成に對する必要にして充分なる室數表

つ充分な居室數と、それに附隨する押入とタンス戸棚類のための板間とを割り出して、「家族構成より住居標準へ」の圖表（第3圖表）を作成した。此處に提案する五種の國民住居試案の設計は之に基いてゐる。

椅子の生活と疊の生活

上述の如く疊の生活様式の存續性を肯定した——現時の住居問題の對稱が主として勞務者住居にある以上、其等の所謂普通世帶に對して、椅子の生活様式への飛躍を求めることには、尙ほ三思四顧すべきを通說としてゐるが、假令其を一部に取入れるとしても、到底疊の生活様式の有つ融通性には勝てないと信じる。又、椅子の生活が今、斯くも簡單に除けられる理由を端的に示すものとして、彼の罹災民が建設する假小屋に於ける生活を擧げれば充分だと思ふ。勿論保健衛生上からよく問題にされて來た疊の缺點は早晩解決すべきである。(註3)

居室

本試案に於ては二帖と八帳を除外してゐる——二帖は其利用性乏しきため、八帖に就ては、相當根强い要望もあらうが、それは在來の小住宅に於て八帖の利用効果が六帖丈しかなかつたためで、此處ではその有効面積から推して、六帖と板間を以て在來の八帖に代へた。之は一面大量建設に寄せる計畫的經濟考慮も含まれてゐる。

又、之等六帖、四帖半、三帖の中、六帖は常に戸主夫婦の寢室を兼ねたその家の主室として取扱はれ、四帖半は從室として家族室、食事室、家族寢室に當て、三帖は補助室として其等に附隨せしめた。此處に注意されたいのは、計畫目標が國民組織に照應する近隣地計畫にも在り、其を構成すべき住居單位である故に、客人の滯泊に就ては觸れないで進めた。

押入

此處に採つた押入の廣さは從來の生活調度には

註 3、疊の生活が、其融通性のために、密住を可能にしてゐる。我々は疊の生活に於ける密住化を警戒しつゝも、猶ほ且つ、その融通性の故に、大量建設の急務の前には之に依らなければならないと考へ、敢て之に據ることにした。

過小であるかも知れないが、疊の存續と異つて、高度の翼賛生活に順應する無駄のない新生活を根底に考へるならば、此押入なるものは最低度まで下げ得るので、言ひ換へれば、奥行3尺の押入の中に、タンス等を押込んで使用する様な下手な利用が出來ない程度まで切詰め得る筈である。

坂　　間

各種家族構成に相應したタンス、戸棚類の置場として、奥行1尺5寸餘の板間を設けた。

在來の小住宅、殊に借家に於てはタンスとか戸棚等のために八帖は六帖に、六帖は四帖半に狹められ、誰もが、その不合理に從順過ぎたのである。タンスの如き半固定家具は疊の上に置くべきではない。

板間を採ることで、室の有効面積が增大することは、厚生住居の確立への安直な一進だと思ふ。

床　の　間

家族生活の精神的據所として世に誇るべき床の間であるにしても、六帖以下の室に於ては、それ相應に狹められるのは當然であらう。併し、その位置は尊重して配置さるべきである。

玄　　關

普通世帶では高級住宅にみる廣間の様な對客的な一つの見榮と思はれる「裕り」は排すべきであり、又その要もない。自轉車、乳母車、三輪車遊び道具、下駄箱等々——或は一時的物置場ともなるであらう有用な土間を大きくとり、廣間は單なる通路に迄狹めた。

便　　所

日々缺くべからざる重要な存在でありながら、改善されること極めて少なく、淨化設備は經費上實行性に乏しいため、一般は相變らず溜壺の不潔を託ちつつ生活してゐるのである。改良便槽に就ては實驗後追報するも、此問題の解決は建築技術者によつてなさるべきである。

臺　　所

主婦達の要求に沿ふものとして、やや廣き土間を有つ最小限炊事場を標準化さうとした。(い)(ろ)は土間に物入をとり、(は)(に)(ほ)は外部に物置を設けた。

浴　　槽

各型共、浴槽は設けなかつたが(に)(ほ)にはその考慮を拂ふべきだつたと考へてゐる。

東京市の住宅調査（昭和十四年九月末現在調）に據れば、調査世帶總數の17%しか浴槽を有たず大部分は錢湯に行くか貰ひ湯をしてゐて、且つ17%の23.6%が給料生活者12.5%が勞務者となつてゐた。

單　位　宅　地

間口4間、奥行9間（建物敷地として7.5間、菜園に1.5間）即ち建物敷地に30坪を菜園用に6.0坪を假定したが此の單位宅地の設定は近隣地計畫への研究途上の大きな難關であるが、之に就ては今後の研究に俟たねば明確なる提示はしがたい。

菜園に就ては、一中學生の實行報告に據り、餘暇作業場としての家族菜園の廣さを5坪～7坪とみた。

配　　置

四戸一棟の長屋型態が段型であるのは、一面各戸に獨立性を附與するためでもあるが、此處には阪神地方に於ける日照通風の條件に沿ふ積極的な意圖も含まれてゐる。試案として採用した段型長屋と普通の矩形長屋とを較べて工費、地代、維持費等はさして大差はないが、一應問題とされるのは當然である。

家　賃　と　收　入

家賃算定の條件（(い)型住居一戸に就て）

【假　　定】

敷　地　　30坪

建　坪　　11.45坪

建築投資總額＝1.800圓（但シ大量建設ノ場合）

火災保險料、維持管理費並びに公課＝年額72圓

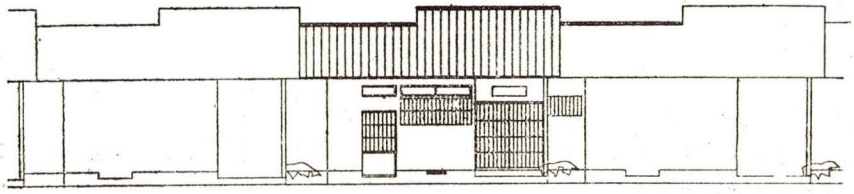
原價償却年賦金　年6分

建物賃貸による純益　年4分2厘

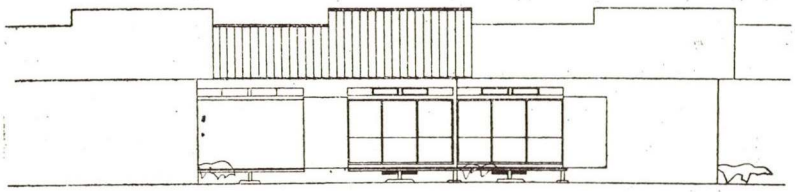
土地價格　坪單價20圓

上記の算定條件を假定して四帖半、六帖の(い)型住居に對する家賃月額が21圓51錢以上と算出されたが、其處に入り得べき借家人は、夫婦と子女三人迄の家族であり、その月收が108圓以上と云ふことになれば、到底一般化されるものでないことは明白である。

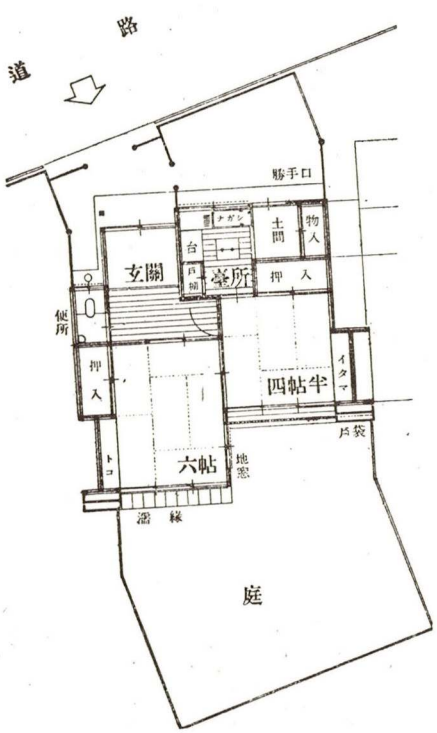
飜つて、現狀を追求して考へるならば、今日都市近郊に建てられつつある貸家がその建築費の昂騰から、地代家賃統制令が布かれたとは言へ、そこに算定される適正家賃が一般の普通世帶にとつ



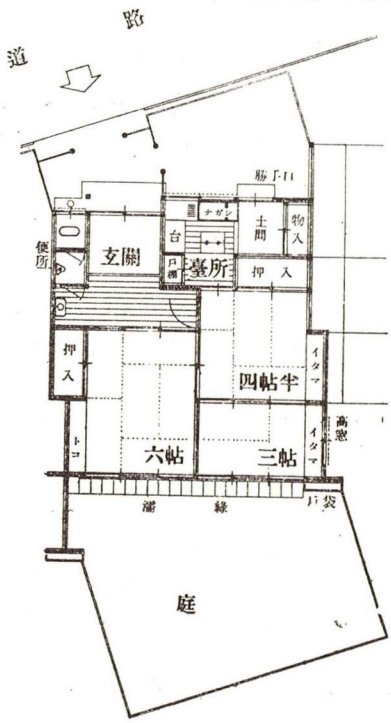
い型住居・北側外観



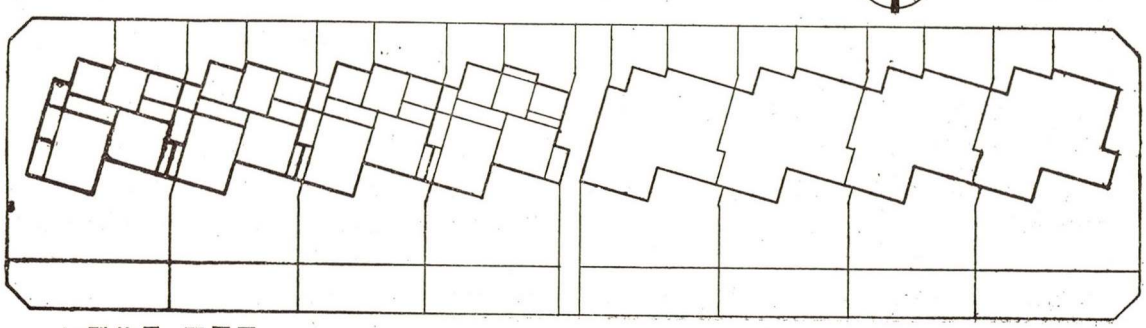
い型住居・南側外観



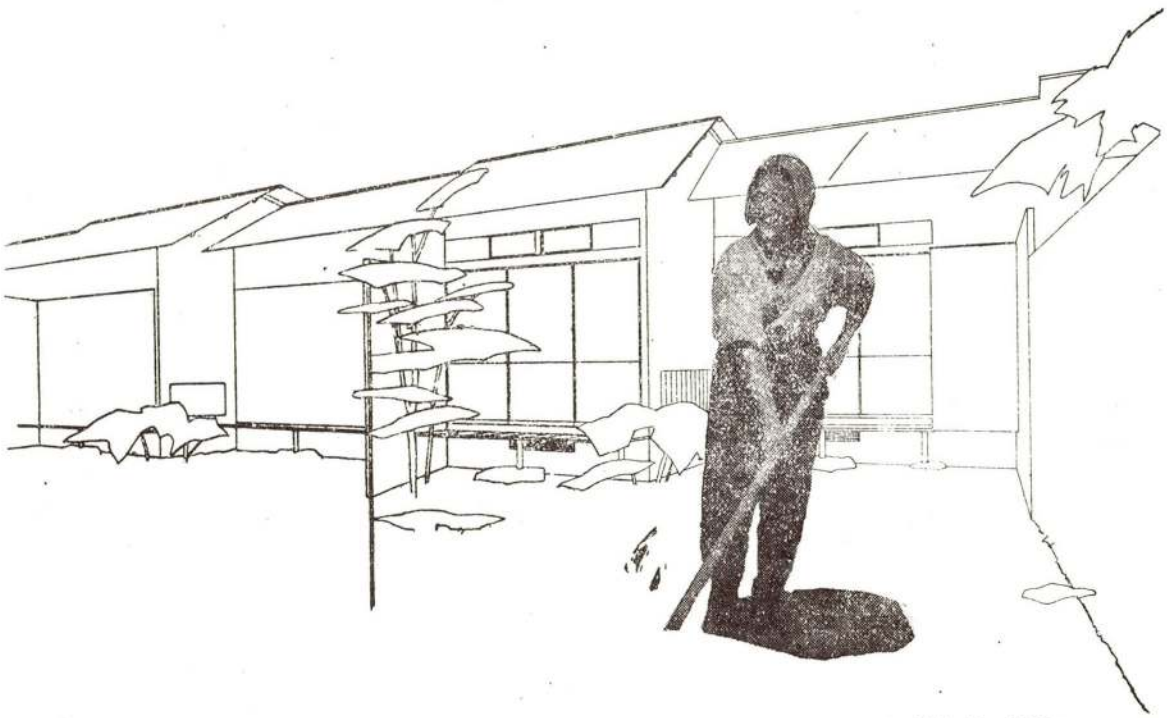
い型住居・平面圖



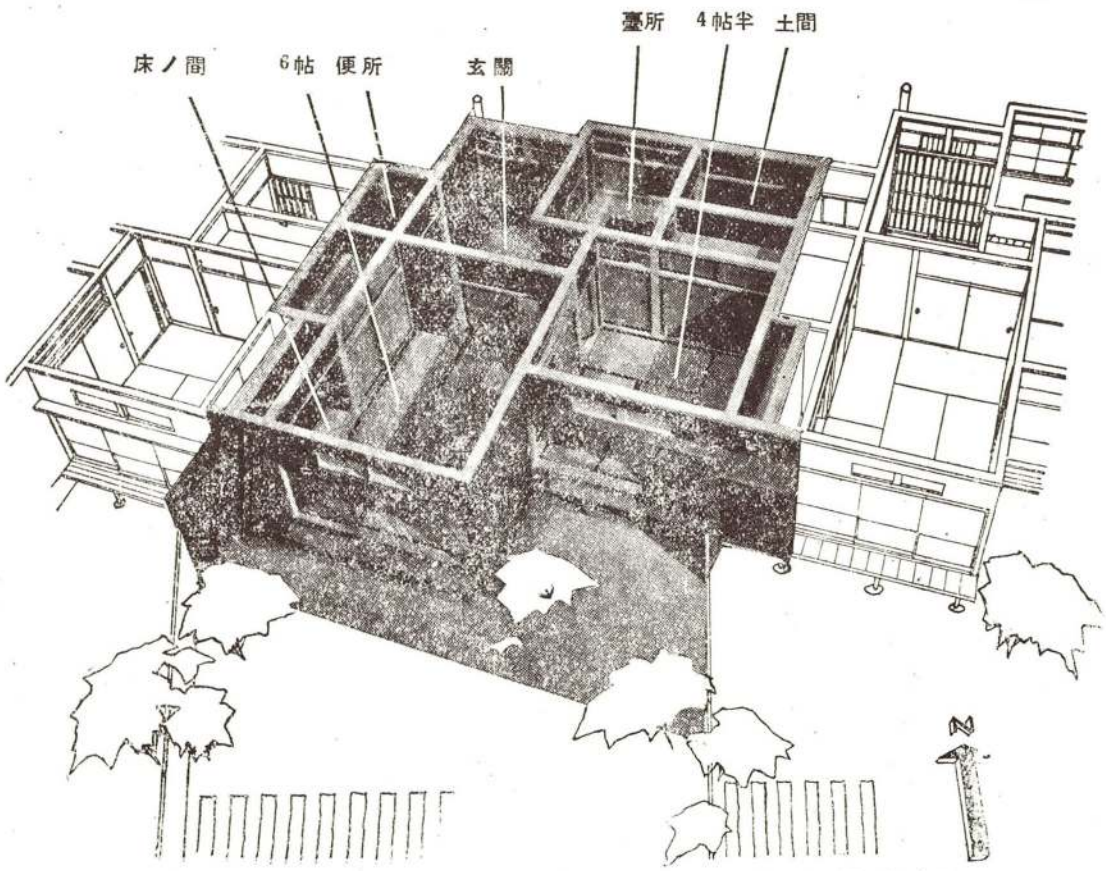
ろ型住居・平面圖



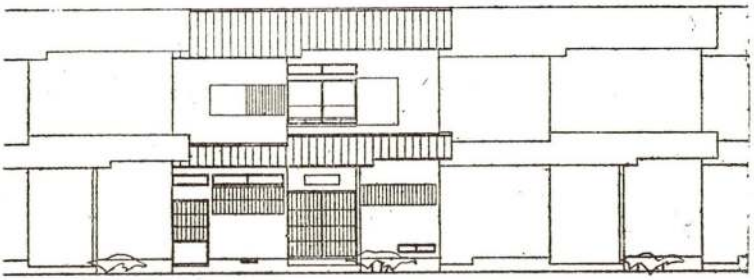
い型住居・配置圖



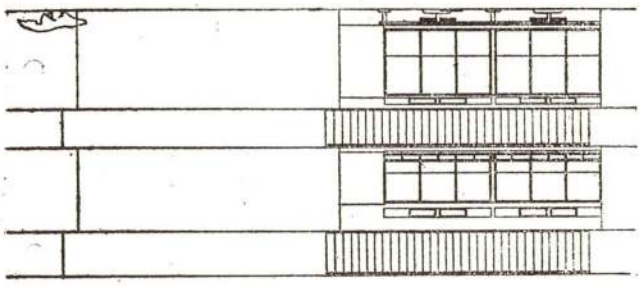
い型住居・透視圖



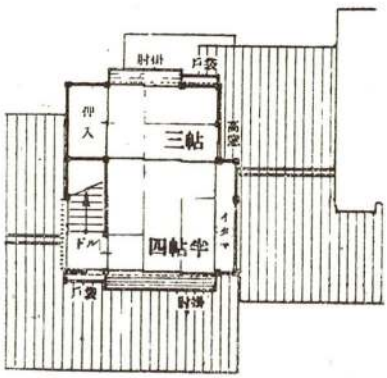
い型住居・鳥瞰圖



ほ型住居・北側外觀



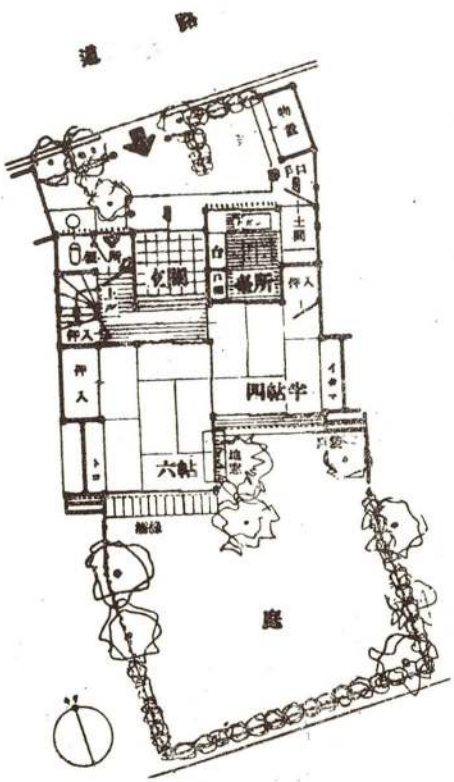
ほ型住居・南側外觀



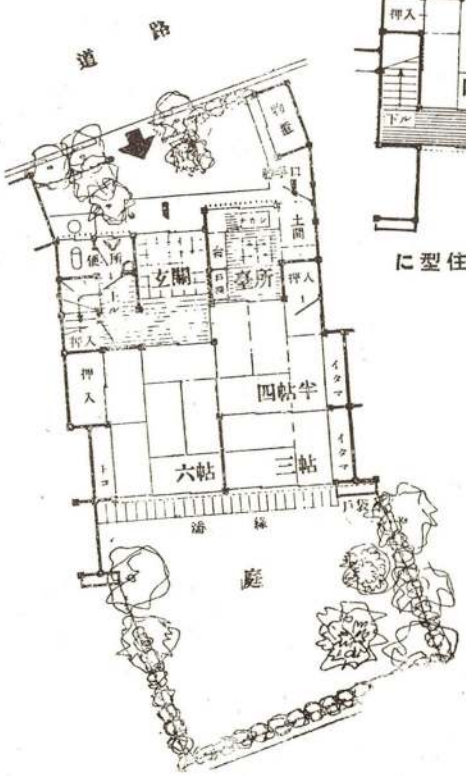
は型・第2階平面圖



に型住居・第2階平面圖



ほ型居住・第1階平面圖



に型住居・第1階平面圖

て高きに過ぎ、結果、假令家が出來ても、其に入れないと言ふ往年の「住宅難」が再び近き將來に登場する危險性を多分に藏してゐる。家賃の90%を左右する建築費が高くなつてしまつた事は今日の「住宅難」の解決には最大の癌である。

我々は技術者としてなし得る範圍の努力は盡すものであるが、建築技術に依つて、此大きな癌の手術が出來るものだらうか？

×

結　　語

本試案は種々の事情から、早急の裡に纏め上げられたものであり、內容に於て、解決の方法に於て、不備不滿の點は多々ある事と思はれるが、今日、此好機にこそ、我が建築技術の再出發をなし以て我が國の國民住居標準を確立すべきであり、此使命を貫く强靱なる意力と協力が要望されてゐるに對し、我が國民住居研究會の貧しき收獲の第一報を提示して、大方諸賢の御教示と御鞭韃を乞ふ次第である。

猶、建物の立體構成に必要な各種の標準化（構造、建具、臺所、便所、床ノ間等）標準宅地、敷地割、近隣地計畫等に就ての研究も進めてはゐるが、第一報に於て明示することは避けた。

（2600. 11. 15）

政府の住宅政策・確定す！

最近頓に深刻の度を加へ來つた住宅難は勞務者その他庶民の生活を脅威し、各種產業要員の充足を困難ならしめ延いては高度國防國家建設の遂行を阻害せんとしてゐる。しかも建築用資材および勞力の不足ならびに建築費の昂騰により、住宅の供給は著しく減少し急激に增加する住宅の需要を到底充足する能はざる實情にある。政府はかねて勞務者住宅の建設を計畫實施し來つたが、今般國民生活確保に關する國策の一として住宅對策を確立することゝなり、企畫院にて作成したる要綱案を19日の閣議に附議正式決定を見た。これに基き厚生省は急速に具體案を作成し關係各省と密接なる連絡を保ち實施することゝなつた、その要綱の概要は左の通りである。

宅住對策要綱

1. 民間貸家事業の改良發達をはかり貸家の供給增加を期するため貸家組合を設立し資材取得の斡旋、資金の貸付家賃の統制などを行はしめること

2. 勞務者その他庶民の所要住宅を計畫的に供給し時局の要請に適應するため住宅營團を設立し庶民住宅の建築並に經營、民間における庶民住宅の建築ならびに經營の受託、資材取得の斡旋、資金の融通、その他住宅に關する指導斡旋などを行はしむること

3. 政府は必要に應じ一定數以上の勞務者などを使用する事業主に對し從業員に必要なる住宅の建築を命令すること

4. 作業廳その他多數勞務者を使用する政府施設の從業員に必要なる住宅は政府においてこれを建設すること

5. 政府は必要に應じ地方公共團體、住宅營團等に對して住宅の建築を命令する事、この場合生ずべき損失は適當なる方法よりこれを補償すること

6. 住宅建設に必要なる敷地、資材の取得、資金の融通並に交通の整備につき特別の保護援助を與ふること

7. 既存の住宅については住宅の取壞し、改造または住居外供用を制限禁止するなどその利用を有效ならしむるため適當の方途を講ずること

8. 建築用資材の價格の統制などにより家賃の低減をはかり庶民生活の安定を期するとともに家賃條件を統制し住宅の利用を適正化すること

9. 保健、衞生ならびに防空防火の觀點より住宅の樣式ならびに質の改善を圖るため適當なる方途を講ずること

10. 住宅建築技能者（大工、左官等）の養成充足につき特別の措置を講ずること

11. 住宅對策達成の基礎を確立するため住宅ならびにその賃貸事情の調査を行ふこと

12. 外地においても前各號に準じ適切なる對策を講ずること。（15. 11. 20日刊工業）

住宅營團法

政府は19日の閣議で決定した住宅對策要綱にもとづき厚生省をして急速にこれが具體的施策を行はしめるとゝもに住宅營團法（假稱）を立案せしめ第76議會に提出する方針で同法によつて法人の住宅營團を設立し

1. 庶民住宅の建築ならびに經營
2. 民間における庶民住宅の建築ならびに經營受託
3. 資材取得の斡旋資金の融通
4. その他住宅に關する指導斡旋
5. 貸家組合を設立し資材取得の斡旋、資金の貸付、家賃の統制などを行はしむるとゝもに場合によつては住宅營團に對し土地收用の權限をも附與し庶民階級のため貸家組合および住宅營團により年30萬戶の中小住宅を優先的に建設する方針である（15. 11. 20日刊工業）

文　献

大阪府下に於ける人口増加調べ

（都市計畫關係資料2）

横見幹※
川勝健二

大阪府下に於ける都市計畫に關する法令施行の狀況に付いては、さきに本誌に於て、昭和13年6月、松井清之助氏に依つて「大阪府下に於ける都市計畫」と題して發表されたがその後府下に於ける都市計畫は種々の事情から變更又は追加が行はれてゐるので之れ等のものに付いては今後逐次資料の纏り次第發表する考へであるが取敢えず、松井氏の前稿を「都市計畫關係資料（1）」とし、本稿を（2）とした次第である。

本稿は大阪府下に於ける人口増加の趨勢に付いて都市計畫區域別又は市町村別に調査を爲し見易からしむるために一覽表としてまとめたものである。此種方面に關係ある諸彦の何らかの參考ともなれば筆者等の幸とする所である。

都市計畫區域別・都計法及市建法施行一覽表

都市計畫區域名稱	都市計畫法適用年月日	市街地建築物法適用區域及適用年月日
○大阪	大9.1.1（舊大阪市）	大9.12.1（舊大阪市） 大13.4.1 大阪市中、舊東成郡及舊西成郡、吹田市、庄内町、小曾根村、中豐島村、南豐島村、守口町、巽村、爪破村、矢田村 昭15.4.1（吹田市中舊岸部村）
○堺	大12.7.1（舊堺市）	大15.10.1（舊堺市） 大15.11.1 堺市中舊鳳石村、濱寺町 昭13.9.1 堺中市舊五箇莊村、同舊百舌鳥村、同舊金岡村
○岸和田	昭3.1.1	◎昭3.4.1（舊岸和田市） 昭10.4.5（同上） 昭10.4.11 岸和田市中舊土生郷村、山直町、春木町、南掃守町、各一部並＝忠岡町舊貝塚町、佐野町
○豐中	昭8.12.28（舊豐中町）	昭10.4.11（舊豐中町） 昭11.10.15 豐中市中舊麻田村、同舊櫻井谷村、同舊熊野田村

（右上に續く）

三鄕	昭8.12.28	昭10.4.11（三鄕町）
○布施	昭8.12.28（舊布施町等）	昭10.4.11 舊布施町、舊小阪町、舊長瀨村、舊彌刀村 昭12.4.1 布施市中舊楠根町、同舊意岐部村
○加美	昭8.12.28	昭10.4.11（加美村）
高石	昭8.12.28	昭10.4.11（高石町）
大津	昭8.12.28	昭10.4.11（大津町）
高槻	昭8.12.28	◎昭10.4.11（高槻町ノ一部）
池田	昭8.12.28（舊池田町）	◎昭10.4.11（舊池田町） ◎昭10.8.10 池田町中舊細河村、同舊秦野村、同舊北豐島村
箕面	昭8.12.28	◎昭10.4.11（箕面村）
柏原	昭8.12.28（舊柏原町）	◎昭10.4.11（舊柏原町） ◎昭14.7.1（柏原町中舊堅下村）
長野	昭8.12.28（舊長野町）	◎昭10.4.11（舊長野町） ◎昭15.6.1 長野町中舊千代田村
枚方	昭13.5.28（舊山田村）	◎昭13.6.17（枚方町中舊山田村） 昭14.4.15（枚方町ノ一部）
茨木	昭14.2.17	——
久寶寺	昭14.2.17	——
龍華	昭14.2.17	——
枚岡	昭14.2.17	——
八尾	昭14.2.17	——
富田林	昭14.2.17	——
大草	昭14.2.17	——
淡輪	昭14.2.17	——
樽井	昭14.2.17	——
多奈川	昭15.5.23	——
深日	昭15.5.23	——

註　1.○印ハ現在既＝地域ノ指定アルモノ
　　2.◎印ハ市建法緩和規定適用ノモノ

※筆者は共に大阪府建築課・技師

都市計畫區域別・面積及人口表

都市計畫區域 / 名稱	面積 (單位・坪)	國勢調査人口 大正14年	昭和5年	昭和10年	最近五ケ年間增加比(%)
大阪府全管	548.603.730	3.059.502	3.540.017	4.297.166	21.4
大阪	64.565.068	2.170.153	2.527.079	3.088.853	22.2
堺	9.011.475	135.320	170.526	204.407	19.9
岸和田	17.060.700	112.728	122.838	146.045	18.9
豐中	4.508.065	16.977	24.394	36.684	50.4
三鄕	1.189.702	4.497	6.203	8.813	42.1
布施	3.947.019	30.624	52.421	82.375	57.1
加美					
高石	1.087.941	8.594	10.703	14.395	34.5
大津	2.733.994	16.852	19.563	24.357	24.5
高槻	6.900.597	18.994	22.497	28.296	25.8
池田	3.864.436	20.643	25.437	31.457	23.7
箕面	1.854.325	6.245	8.012	9.895	23.5
柏原	4.950.147	11.635	13.748	16.996	23.6
長野	5.510.218	8.767	9.414	10.399	10.5
枚方	12.326.295	19.113	21.733	24.166	11.2
茨木	609.235	7.084	8.584	9.797	14.1
久寶寺	522.538	3.081	5.186	6.770	30.5
龍華	1.385.661	5.802	7.815	10.071	28.9
枚岡	1.721.606	4.942	5.962	8.500	42.6
八尾	2.187.075	9.461	11.275	14.040	24.5
富田林	327.608	4.344	4.470	4.727	5.7
大草	503.874	1.754	1.962	3.121	59.0
淡輪	1.596.746	2.828	3.036	3.274	7.8
樽井	524.081	3.516	3.400	4.311	26.7
多奈川	5.272.128	3.900	3.778	3.860	2.2
深日	2.374.790	2.645	2.839	3.074	8.3

註 1. 面積及人口ハ現在區域ヲ基準トシテ算出セリ。 2. 增加率ハ小數點二位以下四捨五入セリ。

市町村別人口増加調べ（1）　南河内郡

	面積（坪）	國勢調査人口			増加率％ ⓒ−Ⓐ／Ⓐ
		Ⓐ 大正14年	Ⓑ 昭和5年	ⓒ 昭和10年	
富田林町	340.588	4.344	4.470	4.728	88.3
新堂村	1.367.020	3.662	3.859	4.168	13.8
喜志村	1.418.342	2.353	2.483	2.605	10.7
大伴村	1.012.435	2.274	2.429	2.569	13.0
石川村	984.441	1.787	1.823	1.834	26.3
磯長村	2.360.793	2.376	1.596	2.760	16.1
山田村	1.922.227	1.690	1.805	1.840	8.8
白木村	3.452.544	1.649	1.648	1.615	——
河内村	1.255.046	2.027	1.052	997	——
中村	1.129.075	2.560	2.670	2.684	4.8
赤阪村	5.869.324	2.005	2.069	2.127	6.1
千早村	5.463.417	2.338	2.431	2.361	1.0
東條村	2.757.348	1.802	1.862	1.810	0.4
川西村	2.398.118	1.924	2.015	2.132	10.8
錦郡村	1.101.081	1.732	1.827	1.922	10.9
彼方村	1.609.602	2.160	2.119	2.216	2.6
長野町	5.510.218	8.767	9.414	10.399	18.6
高向村	11.048.116	2.974	2.919	2.916	——
三日市村	1.143.056	2.566	2.769	3.147	26.5
加賀田村	3.877.113	1.426	1.457	1.425	——
天見村	5.748.019	1.568	1.579	1.630	4.0
川上村	5.822.641	1.474	1.552	1.534	4.0
南八下村	1.003.104	2.605	2.775	3.077	18.1
北八下村	1.385.683	2.820	3.088	3.740	32.6
古市町	1.842.912	3.696	4.201	4.876	31.9
駒ヶ谷村	1.982.880	2.444	2.598	2.728	15.7
西浦村	1.273.708	2.352	2.402	2.474	5.2
國分村	2.589.369	3.478	3.730	4.251	22.2
狭山村	3.517.862	5.304	5.732	5.912	11.2
大草村	503.884	1.754	1.962	3.121	77.9
日置荘村	774.489	2.264	2.649	3.259	43.9
野田村	937.785	2.755	3.359	4.168	51.2
平尾村	1.968.883	1.990	2.055	2.331	17.1
黒山村	1.012.435	2.192	2.370	2.715	23.8
丹南村	704.505	1.516	1.586	1.720	13.4
丹比村	1.119.744	1.986	2.096	2.275	14.5
堉生村	1.301.702	2.399	2.506	2.766	15.3
高鷲村	891.129	2.362	3.341	3.951	67.1
藤井寺町	1.339.027	4.324	5.434	5.434	6.06
道明寺村	1.306.346	4.664	4.979	5.657	23.4
志紀村	1.087.064	3.272	3.647	4.053	23.8

市町村別人口増加調べ（2）　中河内郡

	面積（坪）	國勢調査人口			増加率％
		Ⓐ 大正14年	Ⓑ 昭和5年	Ⓒ 昭和10年	Ⓒ−Ⓐ / Ⓐ
長吉村	1.133.739	3.964	4.415	5.083	28.2
爪破村	858.470	2.054	2.218	2.703	31.6
矢田村	713.836	4.224	5.401	7.049	66.8
天美村	1.129.075	3.368	3.997	5.003	48.5
布忍村	494.553	2.641	3.256	3.933	48.9
松原村	1.572.307	4.514	5.196	6.242	38.2
三宅村	709.171	1.843	2.105	2.361	28.1
恵我村	909.792	2.586	2.737	2.954	18.1
高安村	2.762.034	5.045	5.860	5.888	16.7
南高安村	1.581.638	3.956	4.556	4.802	21.4
柏原町	4.950.147	11.635	13.748	16.994	46.0
孔舎衛村	1.180.396	2.619	2.681	2.919	11.4
枚岡町	1.721.606	4.942	5.962	8.500	71.9
縄手村	2.841.350	5.812	7.073	8.396	44.4
三野郷村	975.110	2.995	3.324	3.727	24.2
大戸村	1.278.374	2.823	3.394	3.988	4.1
英田村	989.107	3.298	3.774	4.420	34.0
盾津村	2.636.062	7.309	7.699	8.337	14.1
八尾町	2.225.462	9.461	11.275	14.040	58.9
曙川町	676.512	1.662	1.859	1.959	17.8
西郡村	443.233	2.052	2.034	2.352	14.6
若江村	685.828	1.867	2.232	2.678	43.4
玉川村	947.097	3.117	3.741	4.456	42.9
龍華町	1.385.661	5.802	7.815	11.071	90.8
久寶寺村	522.538	3.081	5.186	6.770	119.7
加美村	1.059.082	3.092	4.468	7.088	129.2
巽村	863.123	2.685	3.051	4.801	78.8
大正村	1.166.379	3.776	4.124	4.541	20.3
北河内郡					
枚方町	12.326.295	19.313	21.733	24.166	25.1
友呂岐村	1.679.616	3.615	4.530	5.514	52.5
九箇荘村	2.076.192	5.541	6.059	6.346	14.5
庭窪村	2.234.822	4.671	5.252	5.691	21.8
大和田村	830.476	1.825	1.938	2.149	17.7
四宮村	1.110.412	2.335	2.561	2.791	19.5
南郷村	1.091.750	3.306	3.500	3.824	15.6
二島村	471.225	1.384	1.524	1.728	24.8
門真町	1.339.016	3.984	4.484	5.522	38.6
茨田町	1.376.314	4.425	4.843	5.827	31.7
三郷町	1.189.702	4.497	6.203	8.813	95.9
守口町	452.540	5.660	7.978	11.678	106.3
水本村	1.157.068	2.854	3.041	3.285	15.1
星田村	2.239.488	1.969	2.082	2.364	20.0
津田村	2.267.481	2.662	2.654	2.915	9.5
交野町	5.402.764	4.983	5.314	5.793	16.3
氷室村	3.088.627	1.282	1.284	1.327	3.5
菅原村	1.917.561	2.086	2.207	2.185	4.6
住道町	839.808	4.085	4.481	6.344	55.3
四條村	3.494.534	5.317	5.571	6.220	17.0
讃野村	1.376.352	2.232	2.378	2.574	15.3
田原村	2.393.452	801	821	790	——
寝屋川村	1.143.072	2.468	2.568	2.792	13.1
四條畷村	3.275.251				

市町村別人口増加 べ（3） 泉 北 郡

	面積（坪）	國勢調査人口			増加率％
		Ⓐ 大正14年	Ⓑ 昭和5年	Ⓒ 昭和10年	(Ⓒ−Ⓐ)/Ⓐ
鳳町	825.794	4.019	4.743	6.208	54.4
蹈尾村	667.180	2.517	2.887	4.494	78.5
濱寺町	1.460.318	12.449	14.535	17.181	38.0
高石町	1.161.721	8.594	10.703	14.393	67.4
取石村	709.150	2.226	2.371	2.482	16.0
福泉町	2.617.401	5.600	5.759	6.386	14.0
東百舌鳥村	914.457	2.496	2.782	3.289	31.8
美木多村	3.335.904	2.367	2.357	2.418	2.2
上神谷村	5.790.009	3.372	3.492	3.638	7.9
西陶器村	1.702.944	1.893	1.981	2.036	7.6
久世村	1.478.995	3.213	3.543	3.989	24.1
深井村	1.124.409	2.998	3.359	3.982	32.8
東陶器村	1.698.278	4.111	4.429	5.056	23.0
八田荘村	1.105.747	2.327	2.520	2.708	16.4
信太村	1.996.863	2.969	3.355	4.187	41.0
大津町	2.733.994	16.852	19.563	24.357	44.5
忠岡町	863.123	3.831	5.305	7.272	90.0
南玉子村	79.285	2.638	2.646	4.958	87.6
和泉町	2.981.255	9.841	11.167	11.493	16.8
北池田町	1.427.673	2.934	3.204	3.626	23.6
北松尾町	1.264.377	2.373	2.596	3.043	28.2
南池田町	3.825.792	4.367	4.525	5.271	20.7
南横山村	4.838.227	1.568	1.504	1.388	——
横山村	6.275.232	4.423	4.594	4.749	7.4
南松尾村	3.223.929	2.589	2.780	2.892	11.7
山瀧村	4.740.249	2.228	2.385	2.314	3.9
泉南郡					
山直町	3.415.218	6.746	7.309	8.133	20.6
南掃守村	2.734.041	6.133	6.140	6.631	8.1
春木町	2.365.459	14.988	16.313	19.369	29.2
貝塚町	12.265.881	29.375	31.320	40.507	37.9
熊取町	5.122.828	5.689	5.997	7.030	23.6
佐野町	3.578.515	20.165	22.109	25.767	27.8
日根野村	3.[illegible].936	2.981	3.199	3.416	14.6
長瀧村	821.145	2.075	2.252	2.393	15.3
上之郷村	2.356.128	1.872	1.975	2.076	5.4
南中通村	704.505	2.180	2.318	2.389	9.6
大土村	4.436.985	1.352	1.414	1.439	6.4
田尻村	634.521	5.102	4.387	4.768	——
新家村	3.209.932	1.615	1.696	1.788	10.7
東信達村	4.936.204	1.095	1.118	1.114	1.7
信達村	2.962.656	3.238	3.515	3.783	16.8
西信達村	732.499	4.217	4.038	4.056	——
鳴瀧村	46.656	1.331	1.423	1.518	14.0
樽井町	578.534	3.516	3.400	4.313	22.7
雄信達村	1.031.097	1.487	1.604	1.652	11.1
尾崎町	387.244	2.645	3.646	4.552	73.0
東鳥取町	5.999.961	3.659	3.781	3.955	8.1
西鳥取町	573.868	2.399	2.492	2.496	4.0
下荘村	3.877.113	1.893	1.982	1.950	3.0
淡輪村	4.115.059	2.828	3.036	3.274	15.8
深日村	2.374.790	2.645	2.839	3.074	16.2
孝子村	3.037.305	785	715	709	——
多奈川村	5.272.128	3.900	3.778	3.860	——

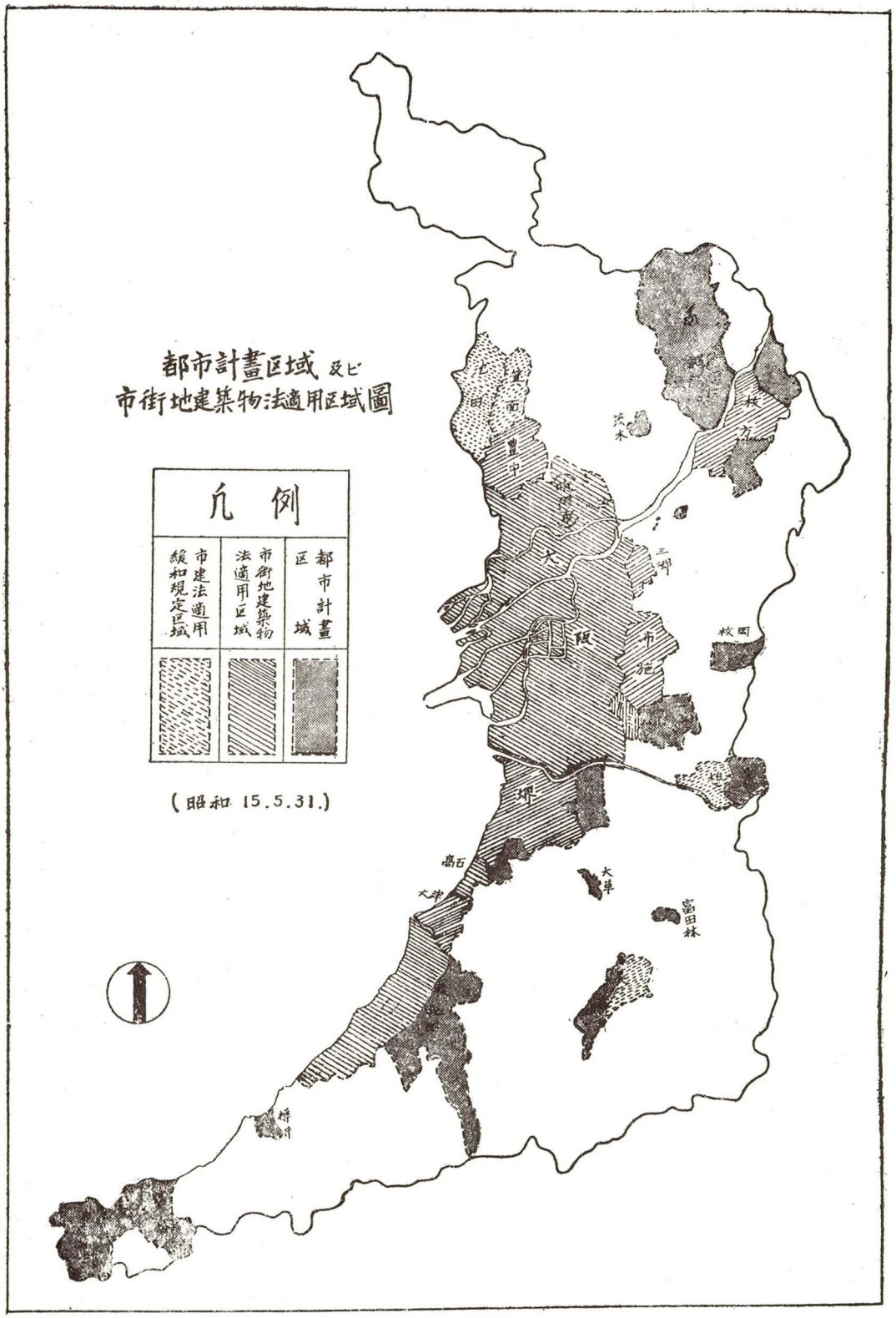
註 面積及人口ハ現在ノ行政區劃ニ依リ算出ス。（昭和15年5月31日調）

市町村別人口増加調べ（4）　市　　部

	面　積（坪）	國勢調査人口 Ⓐ 大正14年	Ⓑ 昭和5年	昭和10年 Ⓒ	増加率％ Ⓒ−Ⓐ / Ⓐ
大阪市		2.114.804	2.453.656	2.989.874	41.4
池田市	6.653.092	20.643	25.437	31.457	52.4
豊中市	4.508.065	14.267	20.692	36.688	157.1
吹田市	1.186.583	29.666	41.660	54.665	84.3
布施市	6.200.438	39.781	63.009	95.919	141.1
堺市	9.011.475	120.691	132.684	160.268	32.8
岸和田市		38.545	41.933	46.401	20.4
豊能郡					
止々呂美村	4.492.972	632	668	635	0.5
箕面村	3.494.510	6.245	8.012	9.895	58.4
萱野村	2.804.023	2.419	2.514	2.697	11.4
中豊島村	822.558	2.359	3.039	4.405	86.7
南豊島村	1.597.732	4.482	5.505	6.841	52.6
庄内町	1.329.696	4.057	4.732	6.192	52.6
小曾根村	933.120	2.774	3.120	4.371	57.6
吉川村	2.701.382	630	614	568	——
東能勢村	5.290.790	2.091	2.065	2.190	4.7
東郷村	4.642.272	2.179	2.164	2.103	——
歌垣村	3.923.769	1.786	1.759	1.730	——
田尻村	2.122.848	878	923	946	7.7
西能勢村	19.198.943	5.071	5.165	5.074	0.06
三島郡					
富田町	835.142	3.263	3.987	4.550	39.4
三ケ牧村	2.239.468	3.022	3.053	3.123	3.3
高槻町	18.738.310	19.000	22.497	28.295	48.9
五領村	2.295.460	1.963	1.997	2.162	10.1
島本町	5.094.826	3.422	5.401	6.385	86.5
阿武野村	2.211.486	1.468	1.583	1.640	10.5
茨木町	634.521	7.084	8.584	9.797	38.2
三島村	1.964.217	3.155	3.425	3.726	18.1
安威村	1.003.104	1.070	1.126	1.202	12.3
福井村	1.115.078	1.091	1.142	1.204	10.3
玉島村	1.464.998	2.276	2.339	2.400	5.4
豊川村	6.475.829	4.388	4.608	4.911	11.9
春日村	2.682.720	3.872	4.468	5.346	38.0
三宅村	928.454	1.515	1.511	1.594	5.2
玉神村	933.120	1.952	2.028	2.066	4.0
味生村	1.035.763	1.666	1.727	1.877	12.6
山田村	4.810.233	3.280	3.357	5.163	57.4
新田村	1.623.628	1.263	1.399	1.536	29.5
味舌村	947.116	1.735	2.077	2.344	5.8
鳥飼村	2.038.867	2.584	2.733	3.120	20.7
石河村	1.227.052	868	884	892	27.6
見山村	5.094.826	1.574	1.637	1.670	6.1
清溪村	4.954.867	1.620	1.599	1.595	——

昭和10年3月以降合併市町村名	昭和10年3月調査以前合併市町村名
交野町	池田市
交野村	池田町
盤船村	細河村
茨田町	桑野村
古宮村	北豐島村
諸堤村	中市
柏原町	麻田村
柏原町	豐中町
堅下村	溪井谷村
堅上村	熊野田村
長野町	吹田市
長野町	吹田町
千代田村	千里村
天野村	岸部村
貝塚町	豐津町
貝塚町	施市
西葛城村	布施町
木島村	小阪町
野町	意岐部村
北中通村	楠根町
佐野町	長瀨村
木町	彌刀村
八木村	堺市
春木町	堺市
直町	金岡村
山直下村	五ケ莊村
山直上村	神石村
四條畷村	百舌鳥村
甲可村ヲ改稱ス	岸和田市
	岸和田市
	土生鄕村
	有眞香村
	東葛城村
	枚方町
	枚方町
	蹉跎村
	川越村
	山田村
	殿山町
	樟葉村

昭和10年3月調査以前合併市町村名	
能勢村	福泉町
西鄕村	鶴田村
枳根莊村	北上神村
高槻町	大津町
如是村	上徐村
高槻町	大津町
大冠村	穴師村
清水村	
芥川村	
盤手村	
玉島村	
溝咋村	
宮島村	
殿山町	
牧野村	
招提村	
高安村	
北高安村	
中高安村	
布施町	
布施町	
高井田村	
盾津村	
東大鄕村	
西大鄕村	
北河村	
分村	
國分村	
玉手村	
泉町	
國府村	
鄕莊村	
伯太村	
貝塚町	
麻生鄕組合村	
島	
貝塚町	
北近義村	
南近義村	


都市計畫區域及ビ市街地建築物法適用區域圖
凡例
都市計畫區域
市街地建築物法適用區域
市建法適用緩和規定區域
(昭和 15.5.31.)
枚方
岡枚
大阪
堺
高石
大津
富田林
羽曳野



支那の家

富田清

人畜をも燒き盡す如き夏も過ぎて此の戰の庭にも、もう秋が訪れて來、遠近の山々も山線を濃碧の空高く浮き出し白雲は峯を廻り山腹を縫つて悠久の流を續けて行きます。

晩秋の大陸にはアカシヤが黃色く色ずきついこの間まで土壁造りの農家の軒近くに赤く色ずいて夕陽にはへてゐた柿も何時しか小孩達の手に依つて何處かへと運ばれてしまつた。晩秋の陽を體一面に浴びてついこの間取り入れた稻の整理に、冬の仕度に人々は追はれてゐる。

日軍の守りを受けて新しい東亞は、秩序は日々に建設されて行きあちらにもこちらにも、今までの廢家が日章のひらめくもとに續いて復興され腕自慢の農夫達が土を運んで足場を作つて彼等獨特の土壁式の住宅の建築が營々として營まれて行きます。

大きな水牛は小孩達のか弱い手と木切に依つて晩秋の曠野を朝から夕方まで追はれてゐる、農夫達の民家はさてどんなもので有ろうかと見てみると本當にSimple な Constructionで有ります、これを構造學的に見ると一寸面白い處も有りますが、先づ構造すると云ふより、建築に當つては土臺や、基礎と云ふものを置かず、地面に約二尺五寸位の巾を置いて板を　てゝ、これに赤土を入れて上から棒で土をしめつけて、これをかためその高さが板の高さだけになるとこの上に、日乾煉瓦を一列に置いて又前と同一の事をくりかへします、こうした事を急がずにゆつくりと煙草をふかしながらくりかして行つて大體六尺位の高さまで作ります。そして家の型はどれもこれも一樣で、總べて四角形です、そして各面に一つの小さい窓を造りますが、中でも決して西北方の面に窓や入口を造らないことですが、これについては面白い傳說が有ります。こうして四角な面でかこまれたものを造り、それから後は日乾煉瓦を積んで勾配を造ります、棟には一本の大きな丸の素材を入れてこれから一尺巾程度に「タルキ」と呼ぶものに竹を以て配して行きます。こうして大體の屋根が出來ると今度はこれに藁をのせて屋根をふきます。

これで彼等の立派な住宅が出來たのです、そして一寸裕福な農家では家の四周を約高一間位の土壁でかこみます。そして正門を造つて外敵を防ぎます。

この他集合住宅が有ります、これは一つの土壁で以て四角形の空地を作り、この中に次の樣な樣式に住宅を配置いたします。この配置の樣式方法も種々有りますが大體は土壁の中に人つて來てどれが入口か一寸まごつく樣に而かもかくれよい樣に、且つ一つの門を閉じる事に依つて外敵を防ぐ事が出來る樣に考へて有ります。そしてどの家にも床と云ふものはなく全く土間です。そしてそこに間仕切りもなく只々廣い四隅に竹造の寢臺が家族數だけ置いて有ります入口近い處にカマドが造つて有りますが、これはとても大きなものです、彼等の生活樣式は一日五錢ぐらいから二十錢位で家５６人が生活して行きます、そして食事を人に見せびらかして食ひます、こうして自分達の食物を人に見せて得意振つて居ります、之が商人の家になると又面目を一新いたした建方です。この他に未だまだ御話しし度い事が有りますが、今日はこれ位にして他日は日本で一番問題としてゐる防空建築について見たまゝの參考になる點を御知らせいたし度いと思ひます、では會員諸兄御元氣であれ。

家を賣る

津田鑿

さむらい

關西の建築家で知人の某君、最近彼の住宅と敷地とを賣らうと試みた。既に10年の歲月を經過した安普請で

あるから、修繕を要する箇所が續出するので、この際賣り拂つて借家に住み、修繕費の失費をまぬがれようとの彼の考である。賣値はまあ、1萬8千圓位が高すぎず安すぎず頃合だらうと思はれるのに、若しひいき目で高く見積りすぎてはよくないと1萬5千圓といふ値をつけて、賣りに出した處、忽ち買手が現はれて、或る日その一行はブローカーの案内で彼の家へと訪れて來た。買手の一行を招じ入れた彼の顏は俄かに險しくなつた。買手が彼の氣に入らなかつたのである。買手の男は30代の若さを以つて——最も時局を認識してゐるべき年輩——胸に金鎖をぶらさげてゐるではないか。そしてそれのみではない、買手の連れてゐる若い婦人は彼の妻に凝せられてゐるが、明かにそれは正しき筋合の關係に於いてではない。更に他のもう1人の婦人は擧措態度によつて觀察するに、これは買手なる一對の男女のあらゆる仲介の立場にある人らしい。かかる珍奇なる、反時局的なる買手に乘りこまれて某君は澁面をつくつたが、ともかくも賣手の禮儀として、一應建物を視察せしめた。『こんな連中に住まはれて、その淫らな生活の爲めに、自分の10年住んで來た家を使はれるのかと思ふと、急に家がいとしいものに思はれて』手離すのが嫌になつた彼は、1萬8千圓で喜んで買ふといふ買手に、植木をつけて2萬圓でないと賣れないと强く出た處買手はそれでも買ふといふので、斷る理由にこまつた彼は、こんどは賣る事は賣るが、契約後1年間は明け渡さないといふ條件をつけた。これにはさすがの買手も應じ兼ねて、不滿氣に歸つて行つたそうである。ざまアみろ！と叫んだ某君、早速神棚に燈明をあげて、家を賣らうとした罪を建物の靈に謝し、疊の表替、ガラスの入替、庭の手入れと、家を可愛がりだした。1萬5千圓に賣れれば滿足な家を2萬圓でも嫌だといふ男、今時こんなさむらひも居るのかと、聊か當世向きでない彼の心情と彼の貧しい家計とを思ひあはせて、なんとなくさつぱりした微笑を禁じ得なかつた。

あ　き　ん　ど

こんどの話は、東京のある會社に勤め、學校を出たばかりの平社員から課長になり、更に榮進して重役待遇部長級にまでなつた人の、あさましいといふか、りこうといふか、とにかく普通でない生活振りである。この人は、住宅を建てる時に、自分がその家で生活するといふような事は考へない、なんでもよいともかく建てたより高く賣れそうな家を造り、買手のみつかる迄住みこんで磨きあげる。こういふ方針で無一文から相當な金を拵へる事に成功した。今、少し退屈であらうけれども讀者のおゆるしを願つて、彼の事業の跡をたどつてみよう。

彼は30歳の時、坪8錢の敷地60坪を借りて建坪30坪金2500圓でありきたりの住宅を建てた。これに10年住んで、丁度前歐洲大戰後の好景氣時代にぶつつかり、住宅難に、借地權、それにたんせいした植木の成長と條件が揃つて、この中古家屋が實に6000圓に賣れた。その時既に課長になつてゐた彼は會社から5分の利子で1萬圓の融通をうけ、前の6000圓と併せて、建坪70坪敷地150坪-(坪12錢)籐椅子位はおかれる應接兼書齋もある手頃の住宅を造つた。更に10年の月日がたつて、この家は2萬圓に賣れた。益々運の向いて來た彼はこんどは地代15錢の土地200坪を借りて、120坪の和洋折衷の金2萬5千圓の堂々たる邸宅を新築した。附近の小住宅をみおろして、どんなもんだと頗る鼻息が荒かつた。彼の賣つたり建てたりはまだ續く。この家に5年住んだ彼は、その家を3萬圓に賣り、こんどは大奮發で相當の敷地を求め總工費3萬5千圓の大邸宅を建てた。

順風に帆をはらませた彼の事業も然し、ここらが頂上であつた。五五の停年で職を退かねばならなかつた彼は——やはり、りこうな男である——さきの家を4萬5千圓に處分し、こんどは建坪僅か25坪（最初の家よりも小さい）の借家然たるものを、6000圓で建て、殘餘の金は預金して、生涯喰ふに差支へないと涼しい顏をしてゐる。なんといつても鮮かな腕前だ。大抵の人は、1度住宅を建てると、煩はしさにうんざりして、もう家を建てるのはこりこりだ、等と弱音を吐く處を、この人の如く——ただの素人でありながら——何度でも次から次へと建てて行く根氣といふか、力といふか、偉大なる精力の影に伏在する處の神經の太さに驚嘆しなければならぬ。彼の疲れを知らぬ神經は、彼の住宅の施工者や設計者に少からぬ迷惑をかけてゐる事も語り忘れる事が出來ない。『いや住宅の設計は貴君に限る、この次も是非やつて戴きましよう』等といつて設計料をねぎつたり、『君のような人に仕事を頼めば全く安心してゐられる、この次の家できつと儲けさせるから』等と大工をおだててサービスをさせたりしておきながら、2度と同じ、建築家、大工に依賴したためしはなく、彼の事業の華かさの影にこうした被害者が泣かされてゐるのである。世間には、こんなあきんどもゐるのである。

商　品　價　値

さむらひの話、あきんどの話、さむらひといひ、あきんどといつても單なる抽象用語であるから、そのつもりで讀みとうて戴きたいのであるし、又、讀者の中に、この何れかに該當若しくは類似の方があつても別に氣に障られるには及ばない。こんな話は世間にはいくらも例がある事だし、筆者もまた、前者にほほえみ、後者に顏をしかめる譯ではないから。

ただここではこの話の中から、住宅の商品價値といふ問題を抽出して

おきたいと思ふ。自分が建築家でありながら、商品價値のある家を造つて儲けようなどとも企てず、家を建ててもぞんざいに住み、手入れをして値打ちを增そうともせず、たゞ彼が住まふ間彼の爲に住心地がよければそれでよい、といふ、到つて純粹な特徵の著しい、即ち一般向きでない家を造り、それが切角高く賣れかけても買手が氣に喰はなければ、これを拒むといつた、ここにさむらひと名づけた人の態度はなんとなしにほほえまれる。彼の場合、彼の住宅は彼の生活のための完全な道具であり、彼に於いて價値高い代りに、彼から離れるとさつぱり値打のないものであるといへる。或ひは又彼の生活理念の完全な表現であり、彼の生活究明の研究のためと、彼の生活指導の實驗のためのものであるといふ風に、純粹價値を高く評價する事の出來るものとも云へる。それに反し、家を建てる時から、他人に賣る爲めに造る、あとの話であきんどと名づけた人の場合、彼の住宅は彼の生活とは緣もゆかりもないものである。强いて關係をつければ、彼は彼の生活を彼の住宅に順應させて行く、住宅は生活のための道具ではなく、生活は住宅を生長させるための勞働であり關心である。その住宅に就いて彼の描く處の生活は、彼の生活ではなく、普通一般の生活として彼に於いて感じてゐる處のものに過ぎない。即ち人生を基底において考へれば無價値である處のこの家は商品價値としては極めて高く評價される。

さて、時局は住宅の大量供給を必要とし、おもむくところは自然、住宅の定型化になり、住宅の定型化は云ふまでもなく、生活の定型化であり標準化である。ここに落ちつかなければ住宅問題は解決し得られないであらう。こうした狀態にある時、純粹價値と商品價値との二樣の互に相反した評價規準が1個の住宅に內包されるといふ事は、住宅問題解決への障害であらう。

住宅に於ける純粹價値と商品價値の完全なる一致にまで、我々の研究を盡して、標準型住宅を決定する事こそ、今、我々に與へられたる課題であらう。（15.11.10）

保　險　と　建　築

中　筋　麻　芳

明治の始め、福澤諭吉先生が、生命保險の制度を輸入せられInsuranceといふ語を請け合ひと譯され、生命保險の事を『人の命請け合ひの事』と稱して、我が國に生命保險事業を擴められてから、もうかれこれ70年にもなる。我が國で、著名な保險會社と雖もそれ程古い歷史をその社業の上にとどめてはゐないが、我が國の生命保險事業そのものは源をその頃に發してゐる。かくて、生命保險のみならず、海上、火災、ガラス等の損害に對する保險も一通り行きわたり、この保險制度の故に、事業家は極めて安全に且つ合理化された經營をなし得るに到つた。複雜多岐なるのみならず幾多の不慮の危險の豫想される現代に處しては、如何なる事業家も保險に賴らずしてはその企業を合理化せしめる事は出來ない。保險は又、その本來の目的を果すのみならず、社會の重要なる一資本機構として幅を利かしてゐる事は誰しもが認めるところである。

『俺も今度獨立して一旗あげる！』

『それは結構だ、まかり間違へば僕が引きうける』とか

『何某君を僕の店の顧問にしようと思ふ』

『そうか、何某君なら適材だ、人物は僕がうけあふ』等と語り交はされる場合の、引きうけるとかうけあふといふことばは何か具體的な實力によつて破綻に對する保證の意味を含めてゐるので、すべてこれ保證保險の觀念に基づくものである。かくて、小は日常の些事から、金錢の貸借、權利の讓渡、その他の大事業に到るまで、當事者の背後にある保證保險に依存して行はれる事實を以つて見れば、保險が事業界に於ける重要さは人間の生活に於ける空氣にも比すべきものと考へられる。

今、この極めて緊要なる位置を社會に占める處の保險の觀念を、建築界の主要觀念たる請負に關係づけて考へて見たい。

建築工事實施のための請負を分析して考察するに、請負は建築工事の完成を請負ふのみでなく、工事進行に伴ひ起るところの一切の危險——すべての破壞的危險及び經濟的危險——に對する責をも荷なつてゐる事が認められる。即ち、建築工事の完成といふ大事業に附帶して當然起るべきあらゆる危險は一切請負者の請負金額の範圍內に於いて負擔せしめらるべしといふ、危險に對する保險の觀念によつて請負行爲が特色づけられてゐるとみる事が出來る。しかも危險の大さは、工事費の額に比例するものではないから、請負業者は一體工事費の幾割かをその工事完遂までの保險料として計上すればよいかに就いては誰も答へられないであらう。施主が本來ならば、各種工事擔當者（下請負者の意味で、土工、左官、大工等を指す）に逐一依賴して工事を進め、その竣功までの縱の連絡は施主自らが司るべき代りに、これらの業務を一括して請負ひ竣功引渡しまでをその責任とするのが請

負業であるが、その契約條件は天變地變、戰爭等の不可抗力に基く損害の外はすべてこれ請負者の負擔といふ事に定められるのが普通である。工事の爲めに隣の家が倒壞しても請負者の責任、思ひがけない湧水の始末に基礎工事費が倍かかつても請負者の負擔、その他諸々の實に諸々の思ひもうけない事故が工事現場には百出するが、これがみな請負者の負擔といふ事になる。尤も、請負者がこれらの事故なり危險なりをその經驗によつて見透し、その技術によつて妨止すればよいのであるが、隣家の倒壞とか地質の判斷等なら請負業者の頭腦の科學に委ねてもよいけれども、さきにも云ふ如く百出する不慮の出來事に對しては、請負業者たるもの自ら八卦をみる易者となつて工事竣功までの全體を卜さなければならない事になつて來る。さてかかる人間業以上の判斷を要する損害危險に對して請負業者が責を負擔し、それに要する費用はどうなつてゐるかといふ問題になると、かかる失費を請負金高の利潤の中からさくといふ事の不合理さが思はれるのである。そこで、こんな危險に對する保險の制度があつたらどんなに好都合であらうかと筆者は考へる。

聞くところによると船舶の建造には進水までに保險が附されるとの事である。然るに、建築物がその竣功或は上棟までに（火災を除き）保險が附されたといふことを、筆者未だ耳にしない。

すでに保險制度がない以上請負業者は、再三述べたる如く、現場に於ける思ひがけない危險に對し、責任をとり失費を負擔しなければならないから、普通に積算される工事費の上に更に相當の割合の利潤を見込み、その利潤の幾割かをかかる失費に振り向けるように計畫しなければならなくなり、この失費が澤山いつたら損になり、割合にいらなかつたら儲けになるといふ風に、請負工事の利潤といふものが甚だ、あやふやな、水商賣的性質を帶びて來る。そのために施主は、そのための餘分の費用の負擔を轉嫁されることになり、正當なる保險料を支拂ふ以上の出費となるのである。かく考へくる時、どうしても必要と思はれるのは、建築請負業者が請負事業をなすに當つての保險の制度である。建築現場としては僅かに火災保險と傷害保險が存在するのみであるが、事業の合理化、施工作業の高能率、技術の向上を圖るには、ここに筆者が推奨するところの保險の制度を請負事業に取り入れ、不慮の災害、危險損害その他のあらゆる計上し得ざる失費を補償させ、一切の不合理を吸收させる事は是非とも實行されねばならない事である。（15.8.15）

株式會社
神戸 中島組
本店 神戸市神戸區加納町四ノ五新三宮ビル（三宮阪急北向）
電話葺合局自七二一五七一四・一九八八
營業所 大阪堂ビル六階 電話北七六〇七
滿洲國新京市電話（二）六二三二
四日市 四日市電話四日市一五四四
姫路 姫路市電話姫路一六二九



昭和十五年度法制委員會報告

Ⅰ、會合日時、場所、回數、出席者名及びその數

回數	月	日	時間 自	時間 至	場所	出席者名	出席者數
1	2	2	午後 6時	7.30	クラブ室	池田、島影、竹中、玉置、高木、平野、森口	7
2	3	1	同上	8.50	同上	池田、島影、玉置、平野、本田、宮脇、森口、横見	8
3	4	11	午後6.30	8.30	同上	池田谷、玉置、島影、高木、竹中、平野、森口横見	8
4	5	9	午後6.20	8 時	陳列場別室	池田、玉置、津田、高木、竹中、平野、本田、宮脇、森口、横見、中村、中村	12
5	6	13	午後 6時	8.25	クラブ室	池田、池田谷、玉置、高木、竹中、本田、中村、横見	8
6	7	11	午後6.20	8 時	陳列場別室	池田、淺野、黑田、竹中、中野、中村、横見	7
7	9	19	午後 6時	9 時	クラブ室	池田、玉置、津田、黑田、竹中、中野、平野、横見	8
8	10	10	午後 6時	8.15	陳列場別室	池田、玉置、竹中、平野、森口、横見、中野、淺野	8
9	11	19	午後 6時	9.30	クラブ室	池田、中野、横見、池田谷、池田(宮彦)、小林(諫)谷、瀧澤、内藤、永瀨、加藤、古宇田、永澤、	13
10	11	26	午後 6時	8 時	陳列場別室	池田、池田谷、島田、竹中、平野、横見、中野、淺野	8

Ⅱ、議　案

1.）市街地建築物法令改訂版發行の件
2.）建築關係法規抄纂編纂發行の件
3.）建築關係法規（殊に時局的法規）の解說に關する講演會開催の件
4.）建築物資の配給を語る會開催の件
5.）建築士制度（假稱）の確立に關する件
6.）建築代書士制度（假稱）の確立に關する件
7.）都市計畫に關する「パンフレツト」を發行するの件
8.）建築行政に關する記事を會誌に揭載するの件
9.）建築界と新體制に關する座談會開催の件

Ⅲ、實行せる案件

1.）市街地建築物法令改訂版發行の件

市街地建築法令集は昨年度版發行後に於ける改正補加せられたる條文僅少ならざるにより、舊版を改訂發行して、その主旨を全せんとしたる次第なり。

2.）建築關係法規抄纂編纂發行の件

時局の變遷と新體制による各般の法規の改正に伴ひ、建築關係は元より、時局關係法規集の要望の聲、會員間に不尠るにより、市街地建築物法令集改訂版の姉妹編として、新に編纂發行するの必要を見るに到れり。

3.）建築物資の配給を語る會開催の件

配給を語るの會は、主として大阪府下に於ける各般の建築物資配給の困難なる實情を正視し、新體制に即應し得る心の糧たらしめるべく、府建築課技師玉置氏に依頼して、解說的講演會を開催したるものなり。

因にその日時を附記せば昭和15年10月15日なり。

4.）建築界と新體制に關する座談會開催の件

洋として全國各階層に漲る新體制確立、昂揚の風潮に對處し得べき全般的建築界の問題と、本協會自體の內部的、外部的改革、改善の問題とそれに附隨して生起する事あるべき各種の問題に關して各位の意見を腹藏なく交換して一般會員を裨益するは勿論、新體制確立の一翼としての建築界に貢獻し依つて以つて新東亞建設の一基石たらしめる第一着手として本座談會を開催する事を當法制委員に於て主唱したる處、問題の性質上、協會全體の問題として廣く會員の出席賛同を得て開催することゝなれり。

Ⅳ、將來に引繼るべき案件

1.）建築關係法規（殊に時局的法規）の解說に關する講演會の開催の件
2.）建築士制度（假稱）の確立に關する件
3.）建築代書士制度（假稱）の確立に關する件
4.）都市計畫に關する「パンフレツト」を發行するの件
5.）建築行政に關する記事を會誌に揭載するの件
6.）建築關係方面（事務所、請負業、材料業者等）の時局による影響の調査の件
7.）徒弟の養成（大工、左官、その他建築關係）の件
8.）建築關係訴訟に關する判決例蒐集の件
9.）建築關係特許に關する件
10.）民法中建築關係條項改正方建議の件　　以　上

設備委員會昭和十五年度報告

1. 都市防空施設に關する諸問題を對象として他委員會との協力の下に防護室設備の研究を前年度に引續き行ふと共に更に工場の漏光遮蔽に關する資料蒐集及之に對する討議を行ふ。就中本年八月の燈火管制演習に於いては工場の現況を見るため8月22日及23日下記工場の管制時間中の狀況視察をなし下記の如き結果を得たり。

視察工場

8月22日

イ、日本石鹼株式會社鳴野工場　旭區鳴野町724
ロ、日本エナメル株式會社　同新喜多町203
ハ、中島製作所放出工場　同放出町602
ニ、瀨川製作所　同三組町
ホ、芳澤化機工業大阪工場　同今福町382
ヘ、田邊五兵衞商店製藥部　東淀川區本庄川崎町3ノ5
ト、大阪染工株式會社　同同3ノ14
チ、大日本機械工業株式會社自轉車工場　東淀川區本庄中通1ノ22

8月23日

リ、梅田製鋼所　東淀川區長柄濱通1ノ6
ヌ、旭　鐵工所　同　同2ノ1
ル、吳羽染工場　同本庄川崎町2ノ20

遮蔽狀況附圖の通り

1. 本協會に於ける2600年記念事業の一案たる「住宅讀本」出版に關して「住宅に於ける防空設備」の部門を當委員會にて分擔資料を提出す。

1. 建築資料の統制に依る設備用材料の入手難に伴ひ之が代備品となる材料及その施設方法の紹介の爲廣く資料蒐集中にて結果を待ちて本協會にて陳列したき豫定とす。

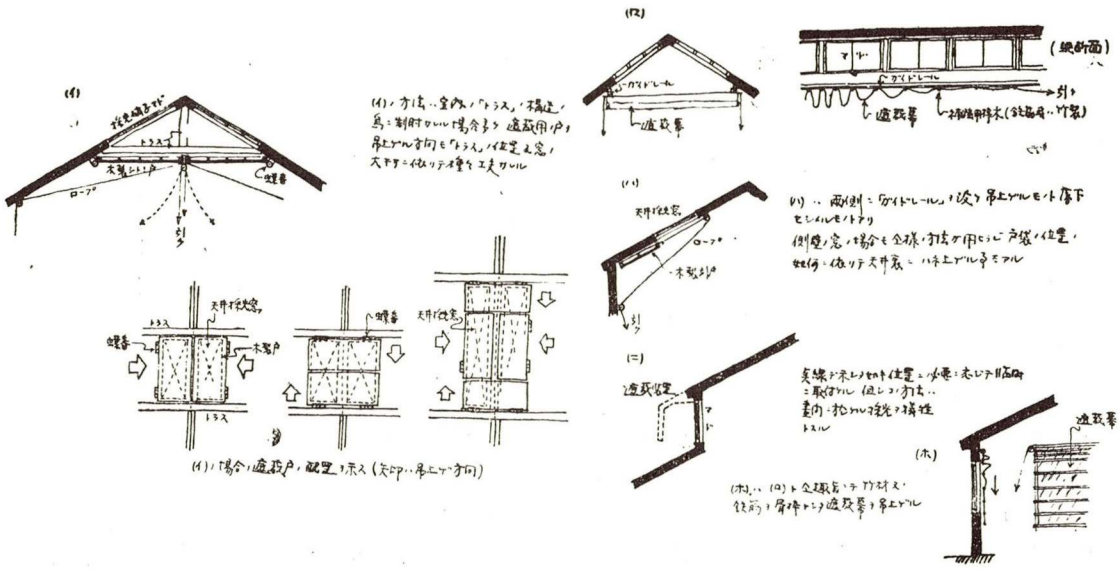
尙更に建築設備の在來方法に代るべき新方法の考案を促進せしめるべく衞生部門業者その他の協力を得て座談會を開催すべく計畫中にて何れも來年度に引續いて早々實行したき希望とす。

1. 大阪市に於いて下水施設の一部竣成に依り市中央部の廣區域に於て在來の汲取式便所を水洗式便所に改造せば淨化槽を要せずして直ちに公共下水に流下せしめ得る事となり且之が普及の急務なるに依りその實施區域及施工方法の發達を大阪市水道部に交涉して下記の如き經過とす。

イ、「排水裝置施工內規」は本誌に發表のこととす。

ロ、同上に依る標準施工圖は發表を交涉中なるも水道部にて未だ公表の時期に至らざる由なる故當委員會にてその一部を保持中につき內覽希望の向は當委員會に照會されたし。

ハ、實施區域圖は約 300部を本協會を經て發行の豫定の所軍關係重要地點抹消の爲地圖原版改訂の要あり發行は多少遲れる見込とす。



排水装置築造内規

（昭和15年4月10日實施）

第1條　排水裝置ノ築造ニ關シテハ大阪市下水道條例並同施行細則ニ定ムルモノノ外ハ本内規ニ依ル

第2條　排水裝置ノ施設設計ハ左ノ標準ニ據ルベシ但シ特別ノ事情アル場合ハ部長ノ許可ヲ受ケ之ニ據ラザルコトヲ得。

1. 管　　渠

管渠ノ構造ハ暗渠ト爲スベシ　但シ雨水ノミ流通ノ場合ハ開渠ト爲スコトヲ得

私設下水道本管ノ内徑及勾配ノ標準左ノ通リトス。

排水面積	内　徑	勾　配
200平方米以下	10糎以上	60分ノ1以上
600　〃	15糎〃	90分ノ1〃
900　〃	18糎〃	120分ノ1〃
1.500　〃	23糎〃	150分ノ1〃
3.300　〃	30糎〃	180分ノ1〃

管ノ内徑45糎以下ナルトキハ陶管ヲ用ヒ内徑33糎以上ナルトキハ混凝土管ヲ使用スベシ

但シ必要ニヨリ鉛管又ハ鐵管其ノ他適當ナル代用品ヲ使用スルコトヲ得　本管ト各種衛生器具ヲ連絡スル支管ノ最小内徑標準ハ左ノ通リトス

大便器	10糎以上
小便器	3糎以上
	（陶製ノ場合ハ5糎以上）
炊事流	高流 4糎以上
	平流7.5糎以上

管ノ土覆ハ20糎以上ト爲スベシ但シ特別ノ場各ハ此ノ限ニ在ラズ

2. 集　水　桝

私設下水道ハ集水桝ヲ經テ下水道ニ連絡スベシ　但シ道路側等ノ雨水ヲ流入セシムル必要ナキ場合ハ特殊ノ構造ト爲スコトヲ得。

集水桝ハ道路境界線ニ沿ヒ私設下水道義務者ノ所有地内ニ設置スルモノトス　但シ土地ノ狀況ニ依リ公道内ニ設置スルコトヲ得。

3 掃　除　桝

本管ノ起端合流屈曲箇所並ニ直線部ニ於テハ管ノ内徑ノ120倍以内ノ間隔ニ掃除桝ヲ設置スベシ　但シ流通ノ容易ナル箇所ニ於テハ彎曲管ヲ使用スルコトヲ得。本管ノ支管ノ接續箇所ニハY字管ヲ使用スルコトヲ得。但シ左ノ場合ニ於テハ接續箇所ニ掃除桝ヲ設置スベシ。

イ、炊事流支管

ロ、大便器支管

ハ、特殊箇所

ニ、内徑10糎以上ノ支管

掃除桝ノ底部ニハ之ニ接續スル管ノ内徑ニ應ジ半圓狀ノ凹路ヲ設クベシ。掃除桝ニハ密閉蓋ヲ設クベシ但シ家屋ノ出入口窓等ニ接近セザル場所ニ在リテハ格子蓋ヲ設クルコトヲ得掃除桝ハ次ノ3種トス　但シ特別ノ事情アル場合ニハ特殊ノ構造ト爲スコトヲ得。

種　別	上部寸法	下槽寸法	用　途
甲種掃除桝	巾30糎 巾30糎	長30糎 長30糎	接續管ノ内徑ガ23糎以下ニシテ管底ト地表面トノ差ガ70糎以下ノ場合
乙種掃除桝	≯40糎 ≯40糎	≯40糎 ≯40糎	接續管ノ内徑ガ23糎以下ニシテ管底ト地表面トノ差ガ70糎以上ノ場合及接續續管ノ内徑ガ30糎ナル場合
丙種掃除桝	≯40糎 ≯40糎	≯40糎 ≯50糎	接續管ノ内徑ガ38糎又ハ45糎ノ場合

4. 防臭裝置

下水流入口ニハ防臭裝置ヲ設ケ容易ニ内部ヲ清掃シ得ベキ構造ト爲スベシ。

5. 塵芥防止裝置

管ノ流通ヲ防グル虞アル固形物ヲ含ム下水流入口ニハ15糎以下ノ格子又ハ金網ヲ取リ付クベシ。

6. 油脂遮斷裝置

油脂ヲ多量ニ排出スル場所ノ下水流入口ニハ油脂遮斷裝置ヲ設クベシ

7. 通　風　裝　置

管渠ノ起端其ノ他必要ナル箇所ニハ追風裝置ヲ設クベシ。

8. 便器及「トラツプ」

便器及「トラツプ」ハ完全ニ洗滌シ得ル構造ノモノタルベシ。

大便器用「トラツプ」ハ内徑100粍以上トシ小便器用「トラツプ」ハ内徑30粍以上トナス

ベシ。

9. 洗滌裝置及附屬水管

大便器洗滌裝置ハ1回ニ付10立以上ノ洗滌用水ヲ排出シ得ル容量ト爲スベシ

「シスタンタンク」ヲ用フル場合ニ於テハ洗滌ノタメ相當ノ水壓ヲ得ル高サニ設置スベシ「シスタンタンク」ト大便器ヲ連結スル管ノ內徑ハ25粍以上ト爲スベシ。

1 材　　料

桝其ノ他ノ附屬裝置ハ「コンクリート」煉瓦又ハ石材等ノ不滲透質耐久材料ヲ以テ築造スベシ。

陶管ハ日本標準規格第59號ニ據ル厚管ヲ使用スベシ

「セメント」ハ日本標準規格第28號ニ合格セルモノタルベシ

煉瓦ハ並燒1等品以上ノモノヲ使用スベシ。

砂ハ塵埃泥土ヲ含マザルモノニシテ徑1.5粍以下トス

基礎用砂利ハ徑30粍以上60粍以下トス。

「コンクリート」用砂利ハ質稟便稟埃泥土ヲ含マザルモノニシテ徑9粍以上18粍以下トス「モルタル」ノ配合ハ1.3以上トシ「コンクリート」ノ配合ハ1.36以上トス

但シ鐵筋「コンクリート」ノ配合ハ1.24トス便器及「トラツプ」ハ耐酸耐水性ノ材料ヲ以テ製作シタルモノヲ使用スベシ

第3條　排水裝置ノ設計圖面ハ左ノ標準ニ據リ作製スベシ。

平面圖ハ縮尺100分ノ1以上トシ左ノ事項ヲ記載スベシ。

イ、請求者ノ住所氏名

ロ、下水道使用者職氏名

ハ、施行場所

ニ、附近見取圖

ホ、施行地ノ境界及面積　但シ施行地內ニ下水道義務者ヲ異ニスル地取アルトキハ其ノ相互ノ境界及面積。

ヘ、道路建物下水流入口ノ位置及在來ノ排水裝置

ト、管渠ノ位置內徑勾配延長及附屬裝置ノ位置並ニ種別其ノ他必要ナル事項。但シ水洗便所ノ設計圖面ニハ（イ）乃至（ニ）ノ外施行地ノ境界、道路、建物間取、私設下水道及給水裝置ヲ記載スベシ。

私設下水道縱斷面ノ縮尺ハ橫ハ100分ノ1縱ハ10ノ1トシ管渠ノ內徑、勾配、延長、管底、高地盤高及附屬裝置ノ位置並ニ種別其ノ他必要ナル事項ヲ記載スベシ。構造圖ハ縮尺20分ノ1トシ私設下水道ニアリテハ管渠及其ノ附屬裝置ノ構造寸法ヲ水洗便所ニアリテハ各用具ノ配列取合及寸法を詳細ニ記載スベシ。

第四條　排水裝置ノ施工ニ際シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

土　　工

設計圖ニ基キ管渠ノ中心線勾配及桝其ノ他附屬裝置ノ位置ヲ定メ掘鑿ヲナスベシ埋戻ニ際シテハ入念ニ搗固メヲ爲シ表面ヲ馴染ヨク復舊スベシ。

基　礎　工

基礎地盤ハ充分搗キ固メヲ爲シタル後管ヲ布設スベシ砂利ノ厚サハ10糎巾ハ管內徑ノ1倍半以上ト爲スベシ

繼　手　工

管ノ繼手ハ「モルタル」ヲ以テ入念ニ塡充スベシ。

第5條　下水道條例並ニ同施行細則ニ依ル諸願屆の書式ハ別記ノ通リトシ書式ヲ示サザルモノハ之レニ準據スベシ。

本內規ニ伴フ施行圖ハ追ツテ發表ノ筈ニテ尙昭和15年現在ノ實施區域圖ハ近日當協會ヨリ頒布ノ豫定トス。

會報

本協會員中軍務公用者氏名

前號發表後に於ける本協會員中軍務公用者下記の通りであります（受付順）

普通賛助員　仁木謙治君

常務會（第22回）

時　11月4日午後5時30分——7時30分

所　陳列場別室

出席者　理事　片岡會長
今林副會長
監事　井上監事
常務　北垣主記　中西主記
三浦主記　藪中主記
桐本主計久保田主計
棚橋編輯

議事

1. 11月例會ニ關スル件
2. 昭和16年度收支豫算ニ關スル件
3. 會費滯納者處置ニ關スル件
4. 評議員會並通常總會開催日取ニ關スル件
5. 全日本科學技術團體聯合會會費負擔ニ關スル件
6. 材料委員會ヨリ木材規格ノ發表並座談會開催方要求ノ件
7. 設備委員會ヨリ排水裝置築造內規ヲ會誌ニ揭載方要求ノ件
8. 2600年紀念事業委員會調査研究案檢討ニ關スル件
9. 法制委員會ヨリ時局ト新體制ニ關スル座談會開催方要求ノ件
10. 都市問題會議事務局ヨリ總會文獻頒布方申越ノ件
11. 會員詮衡

報告

1. 建築文化展經過報告
2. 軍需工業經營能率指導講習會終了挨拶
3. 出征除隊報告

評議員會

1. 昭和15年11月12日大阪市北區中之島3丁目3番地朝日ビルヂングに於て評議員會を開會す
1. 出席者左記の通り評議員23名監事1名

井手正雄	伊藤武文
飯田賢次	石井春雄
今林彦太郎	荻田眞之介
北垣熊之介	桐本楠雅
久保田種吉	黑田茂
玉置豐次郎	塚本猛次
中島喜平	中西六郎
長尾清一	野中駒市
羽原德衛	政岡基次
增井敏克	松久保敬三
三浦茂	道田泰治郎
藪中一良	以上評議員
鈴木一幸	以上監事

1. 午後6時15分一同着席理事副會長今林彦太郎氏議長となり只今出席者23名にして定款第24條に依り評議員定員の2分の1以上の出席に付本會成立の旨を告げて開會を宣し直ちに議事に入る

議案第6號　昭和16年度收支豫算に關する件

議長擔當常務より豫算の內容を說明致す旨を述べ桐本主計常務起立各員に配布の原案に付各項に亘り詳細に說明をなし議長より質問の有無を問ふ

3. 4の評議員より建築學研究發行費に關し質問あり論議の結果左記項目を本議事錄に記錄することを決議す

「建築學研究」は之を「建築と社會」に統一すること

議長より本號議案に付賛否を問ひたるも異議なし異議なしの聲あり原案通り可決確定

議案第7號　會費滯納者處置に關する件

議長より別紙の通り會費滯納者あり氏名は之を讀み上ぐることを差控へ此机上に置くを以て各員の御覽を乞ふ旨を述べ本件に關しては其拂込方に付最善を盡したるも到底收納の見込なく止むなく定款第14條に依り本案を提出したる次第を說明し各員に於て心當りの向は可然手配方を依賴の上止むを得ざるものは除名處分に附することの賛否を問ふ

何れも異議者なく止む得ざるものは除名處分に附することに可決確定

1. 次で議長より本評議員會議事錄の代表署名者に左の2氏を指名し其承諾を得たり

黑田茂君　增井敏克君

1. 玆に於て議長より本日の議案は以上で全部終了に付評議員會は之を以て閉會する旨を宣し散會す時に午後6時45分

常務會（第23回）

時　11月18日午後5時30分——6時30分

所　陳列場別室

出席者　理事　今村副會長

常務　北垣主記　中西主記
岩尾主計　桐本主計
久保田主計　政岡編輯

議　事

1. 新評議員會開催日取の件
2. 陳列場幹事會より要求の件
3. 會員詮衡

報　告

1. 11月例會終了報告
2. 應召除隊報告

會員動靜

入會

會員

伊藤一郎君　芦屋市字古屋敷223（東洋紡績株式會社營繕課）

小川武太郎君　府下中河内郡松原村大字上田吉見ノ里8ノ8（建築事務所自營）

柏貞雄君　東成區腹見町654（不動建築株式會社）

清永十三男君　東淀川區三津屋北通1の4　加藤方（大阪市役所建築部）

桑本眞太郎君　住吉區帝塚山中3の2（桑本建築事務所自營）

鍋島辰雄君　住吉區湯里町348（不動建築株式會社）

半田良夫君　旭區南島町742（大阪市役所建築部第1建築課）

日根市次郎君　尼崎市神田南通5の139（株式會社戸田組）

廣畑重太郎君　港區市岡濱通5の14（不動建築株式會社）

松見孝雄君　東區京橋3の75 大林組內（株式會社大林組）

富村次郎君　兵庫縣武庫郡東山村田中257（同　同現業部）

宮本貴幸君　府下中河内郡異村西足代533（不動建築株式會社）

向井克巳君　府下泉南郡雄信達村大字幡代239（株式會社大林組）

吉田常藏君　府下豐能郡箕面村平尾445（自營）

横井勇夫君　尼崎市常光字塚ノ本148（東洋ゴム化工株式會社）

磯島信一君　西淀川區傳法町北4の104（株式會社鴻池組）

木下彦太郎君　兵庫縣川邊郡長尾村荒牧木下20（長庫縣總務部營繕課）

桑折政七郎君　西宮市津門室津町55（阪神電氣鐵道株式會社建設部建築課）

田中榮太郎君　西宮市末廣町6　名水アパート內（株式會社鴻池組）

西出末次郎君　北區新川崎町造幣局總務部營繕係內（造幣局總務部營繕係）

萩原藤市郎君　神戸市灘區高羽官公舍26（兵庫縣土木部庶務課）

眞口愃夫君　神戸市葺合區琴緒2の87（阪神電氣鐵道株式會社建設部建築課）

增田憲一郎君　西淀川區野里町1063（株式會社鴻池組）

地方會員

三宅榮君　洲本市宇山350の1（東邦電力株式會社關西技術部洲本火力增設事務所建築係）

特別贊助員

片尾吉次君　北區高垣町66（水道衞生煖房工事經營）

石井正夫君　神戸市須磨區大田町4の79 尼崎市役所土木組）

川上國太郎君　港區市岡濱通5の41（造作建具請負業自營）

轉居・轉勤

會員

星野一雄君　上海北四川踊底興亞院華中連絡部經濟第1局內）

田中義信君　名古屋市港樂町5の31 共榮工業所名古屋營業所內（共榮工業所名古屋營業所）

島影岩次郎君　靜岡市大宮岩下町20

大島鎌太郎君　東京市瀧野川區瀧野川町1889松樂方（同潤會建設部第2技術課）

相澤喜久太郎君　名古屋市中川區西大渡町18　清水組名古屋支度內）

安田信一君　福岡縣石城郡錦町吳羽紡績錦工場社宅內

伊藤序收君　株式會社鬼島組大阪支店

石井壽雄君　豐中市櫻塚元町2の125

岡部顯則君　岡部建築事務所自營

岡田幾太郎君　奈良縣生駒郡伏見村大字西大寺

鬼武信夫君　日本電力株式會社

岡田孝男君　吹田市千里山347

大隅武夫君　川西航空機株式會社

奥島正一君　京都帝國大學建築學教室

上谷利夫君　神戸市灘區永手町4の9

加納眞一君　大阪機工株式會社

加藤三郎君　川崎重工業株式會社營繕課

小林謙三君　神戸市灘區青谷町1の163

城本和俊君　此花區中江町30（建築設計自營）

白川雅美君　堺市中永山園22（內外木材工藝株式會社）

鈴木喜八郎君　長谷部竹腰建築事務所
關山英三君　株式會社松村組
田中芳郎君　大阪市役所建築部第2建築課
高井芳松君　東滬川區上新庄町22
中島八郎君　日產農林工業株式會社燐寸部
西村喜代末君　吹田市大字垂水347
曳野與藏君　大阪府警察部建築課
福田政治君　合名會社西林組
松本　貢君　神戸市灘區高羽字壽158の20
三藤清三君　三藤工業所
宮脇泰一君　都市計畫兵書地方委員會
村島　彰君　吹田原町2.339
森本文章君　森本建築事務所
伊達多平君　住吉區天王寺町3376
中村源太郎君　秋田市楢山三枝橋36
山本武夫君　豐中市櫻塚本通7丁目
飯干君美君　西宮市津門綾羽町76
生田鐵也君　西宮市大井手町24
谷口治郎君　茨城縣日立市大雄院役宅10の1
上原三郎君　飾磨市附城31
青山正義君　北區東野田町1の59重安正時方
近藤泰次郎君　布施市長堂2の8
香川善男君　吹田市旭町第五區1307
岩崎陽行君　西成區千本通7の5山地方（京都市役所營繕部第一技術課）
船木一郎君　東京市澁谷區代官町10同潤會アパート33號館313號內（同潤會建築設部第2技術課）
玉木久三君　兵庫縣飾磨郡廣村廣畑鴻池組廣畑出張所內
前田善增君　府下南河內郡志紀村田井中新設工事場淺沼組出張所內
伊藤　弘君　吹田市片山本町174
中田是規君　東京芝區高濱町10
塚本吉平君　西宮市寺前町11
牛島　修君　兵庫縣加古郡荒井村大阪陸軍造兵廠技術課營造掛現場內
堀本義雄君　新居濱市甲906
服部　浩君　名古屋市東區布池町8
西山卯三君　京都市左京區下鴨宮崎町72
宮村高生君　神戸市湊東區東川崎町2丁目 川崎重工業株式會社艦船工場內 清水組作業所內

地方會員

安藤瀧太郎君　伊丹市主基町561の1
多田政吉郎君　羅津府埠頭構內 清水組作業所內
田中稔朗君　新居濱市磯浦 大林組磯浦出張所內
後藤勝男君　名古屋市千種區古井ノ坂町28
田中彌一君　名古屋市昭和區折戶町2の2
松井一男君　松井工務所 自營
山縣覺太郎君　成興府興南朝凰御亭里南邊148 番戶木ノ4 新宅
生駒忠彥君　西成區東萩町21
藤重土希雄君　滿洲國北安省北安鷲津部隊工務科內
管田登美雄君　北京東四報房同57號大林組宿舍內
森　政雄君　清津府羅南初瀨町154
海上靜一君　天津日本租界蓬萊街18
今井延雄君　東京市大森區新井宿4の930
紫垣貴雄君　東京市大森區馬込町東2の1058
杉浦　巴君　東京市本鄉區駒込曙町12 橋本方（早稻田大學專門部工科教室）
淺尾熊雄君　明石市上の丸2の651
齋藤小司君　京城府並木町116の3
古川又一君　山口縣熊毛郡光町光井 淺田政吉方
曾我部幸雄君　上海市寶山路高福場32號住宅
千原隆三君　奉天市渾河區花園街滿飛西社宅7號
鈴木文治郎君　吉林市外哈達灣 東洋精麻加工株式會社內
大瀧丈夫君　北支派遣山脇部隊經理部平地泉派出所內
藤島哲二郎君　新京特別市大同大街建築局第二工務處內（建築局第二工務處）
岩淵文治君　廣島市松原町581
細川松太郎君　吉林市外哈達灣 東洋精麻加工株式會社々宅內
加藤鐵之介君　愛知縣海部郡彌富町鯏浦
和田喜藏君　新京特別市老松町20滿洲土木株式會社支店內
柴川傳槌君　福岡市鹿原三番町9
藤田　弘君　岐阜市加納町西廣江1丁目
渡邊重作君　福岡市藥院堀端町7電信電話綜合局新築工事場內
石本喜久治君　上海市長春路333の4（電45.054）
小山政一君　神戸市湊東區東川崎町2丁目 川崎重工業株式會社艦船工場內 清水組作業所內

普通贊助員

立田秀夫君　東京市芝區高濱町10
藪內幸雄君　東成區生野田島町3の288
井奥　進君　名古屋市千種區萱場町4の87
裡谷健治郎君　興安西省開魯縣城保中甲第7牌第37號
國永清喜君　廣島縣佐伯郡大野村（廣島縣警察部保安課）
森村茂樹君　東京市赤坂區青山南町6の106
繁岡　鎭君　船橋市本町3の1289月田長利方（東京地方專賣局營繕課）
苅田源治郎君　兵庫縣多紀郡岡野村藤井美千夫方

改姓名届

會　員

大橋武雄君　（舊姓 谷 輪）
菊池壽芳君　（舊名 芳 ）
五島政男君　（舊姓 島 崎）
重田洋三君　（舊姓 重 井）

死亡届

地方會員

吉野修祿君　昭和15年8月5日逝去（受付昭和15.11.14）

特別贊助員

中島彥六君　昭和15年10月30日逝去

普通贊助員

泉谷四郎君　昭和15年11月5日逝去

（謹んで哀悼の意を表す）

リノリュームの耐燒夷彈性

ミドルセツクス洲ステインスのリノリユームとフロークロス製造業者によつて最近發行された報告書には同團體が行つた燒夷彈に對する防火對策としてのリノリウムの耐火性に關する試驗の結果が揭載されてゐる。

先づ燒夷彈は屋根を貫き最上階の床に止るものとして、地上二呎の高さに板張りの床を作り、燒夷彈は敵軍が多分用ひるであらうと想はれる一瓩のものを用ひた。マグネシユームエレクトロン燒夷彈が床上に置かれ口火によつて點火された。先づテルミツトが五秒間燃え續け、次いでマグネシユームが大氣中の濕氣の存在によつて火花を散らしながら猛烈に約一分餘燃え續け、後に無焰の白熱體が殘つて約三十五分間で消え去つた。

右の試驗は普通の板張り床と防火ペイント塗裝の板張り床及び此の兩者に夫々六・七㍉厚リノリユームを敷いた四種の床で行はれたが、

防火塗料使用の床板は十分間後には燒け拔けて彈は次の階へ落ちた。普通の板張りの場合は一層被害が大きかつたのは勿論である。然るに防火塗料を使用せずリノリユームを敷いた床ではリノリユームの表面が焦げたが床は燒け拔けず、防火塗料使用の場合より被害は一層小範圍であつた。六・七㍉厚茶色リノリユームの場合では點火後四分三十秒間に裏面に焦げは出ず更に二分後にリノリユーム裏面に焦げが僅かに現れ、最初より十一分經過して下の板張りに引火が認められたのである。三十五分後に燒夷彈の消え終つた時はリノリユームは燒夷彈の置かれた下面のみで燒け止り、その下の板張りは表面が焦げ、板の繼ぎ目や特に空氣の入り込み得る隙間のある箇所は焦げが深く入る傾向が見られた。つまりリノリユームの燃えるのは燒夷彈の置かれた眞下のみである。三・三㍉厚マーブルリノリユームの場合もほゞ同樣だが、下の板張りが點火八分後に燒け音を立て始めた。一・九㍉厚Xリノリユームの場合は燒失範圍も廣く下の板張りの焦げる面積も廣くなつた。

以上の如くこれは何人も想像し得る樣に、リノリユームの厚さが增す程耐火度が增す事が明瞭である。

六・五㍉厚コルクカーペツトでは六・七㍉厚リノリユームの試驗の結果に略々等しかつたが、たゞ後者に比して彈の接する部分の焦げる程度が一層明確で、カーペツトに完全な燒け穴が出來た點が相違した。


東洋リノリューム株式會社
營業所　大阪市東區瓦町2三和ビル6階
電話北濱
2060番
(23)3910番
5364番

建築材料陳列場出品者

棚番號	材料種別	出品者	棚番號	材料種別	出品者
1	プリズム、鑄造、彫刻各種硝子	岩城硝子株式會社	34	コンクリート型枠離脫劑	內外建材合資會社
2～3	ギルソイドルーフキング	田島應用化工株式會社	35	ドアーハンガー	平松釣戶車製造所
4	エターナイト	木下謹三商店	36	OSC建築金物	大信洋行大阪支店
5	鋼製建具建築材料	三機工業株式會社	37	大理石及人造石	矢橋大理石商店
6	建築用衞生陶器、磁器タイル	名古屋製陶株式會社	38		
7～8	六甲スレート日本石綿盤六甲タイル	野澤幸三郎商店	39	建築用陶器及工藝品	泰山製陶所
9 (1)	防空塗料ペトナー	ペトナー化學工業所	40	米原式武者窓、換氣天窓、防空換氣屋根	米原商店
(2)	不二式竹レール、硝子戶滑器及床板	大阪伊丹商店			
10	ロールプラツグ、ストップリーク	ユニオントレーヂングコンパニー	41～42	ラス類一式	奥村重兵衞商店
11	チツソライト板	日本窒素肥料株式會社	43	耐火塗料	東洋理化學工業所
12～13	色彩、彫刻硝子	大阪清工社	44～45	建築用金屬材料ホワイトブロンズ水道鋼管	住友金屬工業株式會社
14	ファイバーコンヂット及ファイバーダクト他附屬品	株式會社影久商店	46	板硝子	日本板硝子株式會社
15	衞生器具	大阪城口研究所	47	ケンテキス	淺野物產株式會社建材部
16	電燈照明器具	林電器製作所	48	竹製、木製レール、合成建築金物各種	
17	衞生器具	西原衞生工業所	49		
18	耐火木材、耐火塗料	愛國化學工業株式會社	50～51	日昭ライト板、日昭化粧板	日昭ライト工業株式會社
19～20	衞生陶器及附屬品	東洋陶器株式會社大阪出張所	52		
21	旭寶土	江商株式會社	53	石綿スレート	淺野スレート株式會社
22	內裝用壁掛タイル	淡陶株式會社大阪支店			
23	モザイツク・タイル	草葉陶磁器研究所	54～55	オリエンタルメタル瓦板	オリエンタルメタル製造所
24	ブーバー竹筋	堀富商工株式會社	56	ベニヤ板見本ドアーセクション	內外木材工藝株式會社
25	日興スレートテツクス	ミヤマ商會	57	專賣特許特殊ゴム敷物	ライトラバー工業合資會社
26～27	テラカツター衞生陶器	大阪陶業株式會社	58	富士テツクス、ライトテツクス、スレート、コーナービード	福島合名會社
28	タイル、テラカツター、煉瓦、合成砥石各種	大阪窯業株式會社	59	防火塗料プロテツクスベルコ	大日本塗料株式會社
29			60	屋根瓦各種	高松菊治郎商店
30	テラカツタータイル	伊奈製陶株式會社	61	耐酸防水材料	田中昌司商店
31			62		
32	硝子製品、旭ラツカー	旭硝子株式會社	63		
33	ドアーチエツク、フロアーヒンヂ、スプリングヒンヂ	日本ドアーチエツク製作所	64	纖維製絕緣板、エムテツクス	日東物產株式會社

棚番號	材料種別	出品者	棚番號	材料種別	出品者
65	パーフワックス リノリユームワックス	金田化學研究所	92～93		
			94～95		
66			96		
67	防水劑ロータス	綱城化學工業株式會社大阪營業所	97		
68	碍子製品	株式會社島田碍子製造所	98	瀬戸燒瓦一式	瀬戸燒瓦關西出張所
69			99	日之出印アスファルト加工品	日本建築紙工大阪支店
70			100	洋室家具裝飾	中原家具裝飾店
71	朝日鐵スレート、波形スレート	朝日スレート株式會社	101		
72	防空用旭暗幕	旭レール株式會社	102	建築用金屬板各種	日本金屬工業株式會社
73			103		
			104		
74	エタニツトパイプ	野田合名會社	105	波型石綿スレート、石綿スレート、光り波型ガラス	日本スレート株式會社
75	陶製階段用欄間、同床下換氣窓	鍋要枝町工場	106	强性ライト	日本特殊鑛土株式會社
76	左官壁材料一式	南育宏本店	107	洋瓦各種	日本洋瓦株式會社
77	スカイライト、エービーメダル	内外土木建築材料合資會社	108	建築參考塗料見本	關西ペイント株式會社
78	放熱器、放熱管、冷煖房換氣設備用品	理化學興業株式會社	A	リノリユーム、リノタイル、リノウオール	東洋リノリユーム株式會社
79			B_1	防火浸塗劑セロン	伊藤元商店
80			B_2	美　素	美素工業所
81			B_3	電線管及附屬品	合資會社福島商店
82			B_4	リーダ液アートガン	リーダ建材工業株式會社
83			C_1	造園設計圖	須藤造園研究所
84～85	ルーフイング スーパライト	佐久間工業株式會社	C_2～C_3	ラスモザイク	日本陶機社
86	ニツチクラス及硬化竹筋	日本竹筋工業所	C_4	建築塗壁材料、特殊塗料顔料	清光社
87			D_1	やよひスレート	松井商店
88～89	町野式水道消防器具 福山式自働洗滌裝置	日本機械工業株式會社大阪支店	D_2	コンヂツトチユーヴ	昭和コンヂツト株式會社
90	厚型スレート	厚型スレート株式會社	D_3	寄木床張	二　葉　畳
91			南窓下		



編輯後記

○何をするにも先づ體である。而も健全な精神は健全な肉體に宿る事に想を致すならば、一層健康な肉體が必要である。世界中が新しい秩序の建設のため到る處に一大戰爭を展開してゐる。人的資源の確保が聲を大にして叫ばれるのは當然すぎる事である。

○厚生運動が高唱されてゐる折柄、本號はこの問題を取り擧げて諸大家の御高說を拜聽する事にした。年末を前に御多忙の中を快く御執筆賜つた各位の御厚志に對し、此處に深甚の謝意を表する次第である。

○聖戰下第四年の多難であつた昭和15年もいよいよ本號を以て終幕を閉ぢる事になつた。空つぽの頭を叩き乍ら曲りなりにもその責を果し終へた安堵にも似た氣持でホツトした態である。云ひ古した言葉ではあるが、來年こそは益々加はる困難にも屈げず新しい陣容で一段の飛躍をせなければならぬ。

○新しい體制下に、建築家の再出發も亦當然行はれなければならない。長い間に蓄積された色々の弊害を打破して、古い殼から拔け出た新天地に今こそ思ふ存分の活躍をすべき秋である。

○30萬戶建設目標で法人の住宅營團設立が新聞紙上に報導された。住宅難が深刻に叫ばれ出してから少くともまる2年。來年こそは何とか期待がかけられそうである。それにしても技術者の徵用でトップを切つた建築技術者がその當初養成機關の擴張から洩れたり、前の大戰で試驗濟の長期戰にはつきものゝ住宅難を目の前にし乍ら賣金調整法では住宅供給事業が丙類であつたりどうも政策と云ふものはなかなかむつかしいものらしい。一年の計は元旦にあり。正月を前に切角指導者の一段の精進が希ひ度い。

（政岡記）

建築と社會

第23輯　第12號

毎月1回1日發行　定價（〒）1冊　50錢（郵稅3錢）　12冊　6圓（〃　36錢）

昭和15年11月25日印刷　昭和15年12月1日發行

發行・編輯　戶川弘
印刷人　大阪市北區朝日ビル日本建築協會內

印刷所　ブラトン印刷社　大阪市西區江戶堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會　大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル　電話長北濱(23)4501番(9)　振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店　大阪市西區京町堀羽子板橋西　電話土佐堀2440番　振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に掲載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告掲載料金

グラビヤ（第1頁）	1頁	1回	55.00
グラビヤ（第2頁）	1頁	1回	45.00
普通（後附第1頁）	1頁	1回	20.00
普通（後附第2頁）	1頁	1回	25.00
記事中	½頁	1回	20.00
アート（中挿）	½頁	1回	20.00
表紙2	1頁	1回	60.00
表紙3	1頁	1回	45.00
表紙4	1頁	1回	80.00

廣告掲載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

●第二三集 第一二号 掲載広告一覧（掲載順）

村田商会
大野製作所
南満建材工業所
中野石材店
平松釣戸車製造所
関城化学工業
佐久間工業